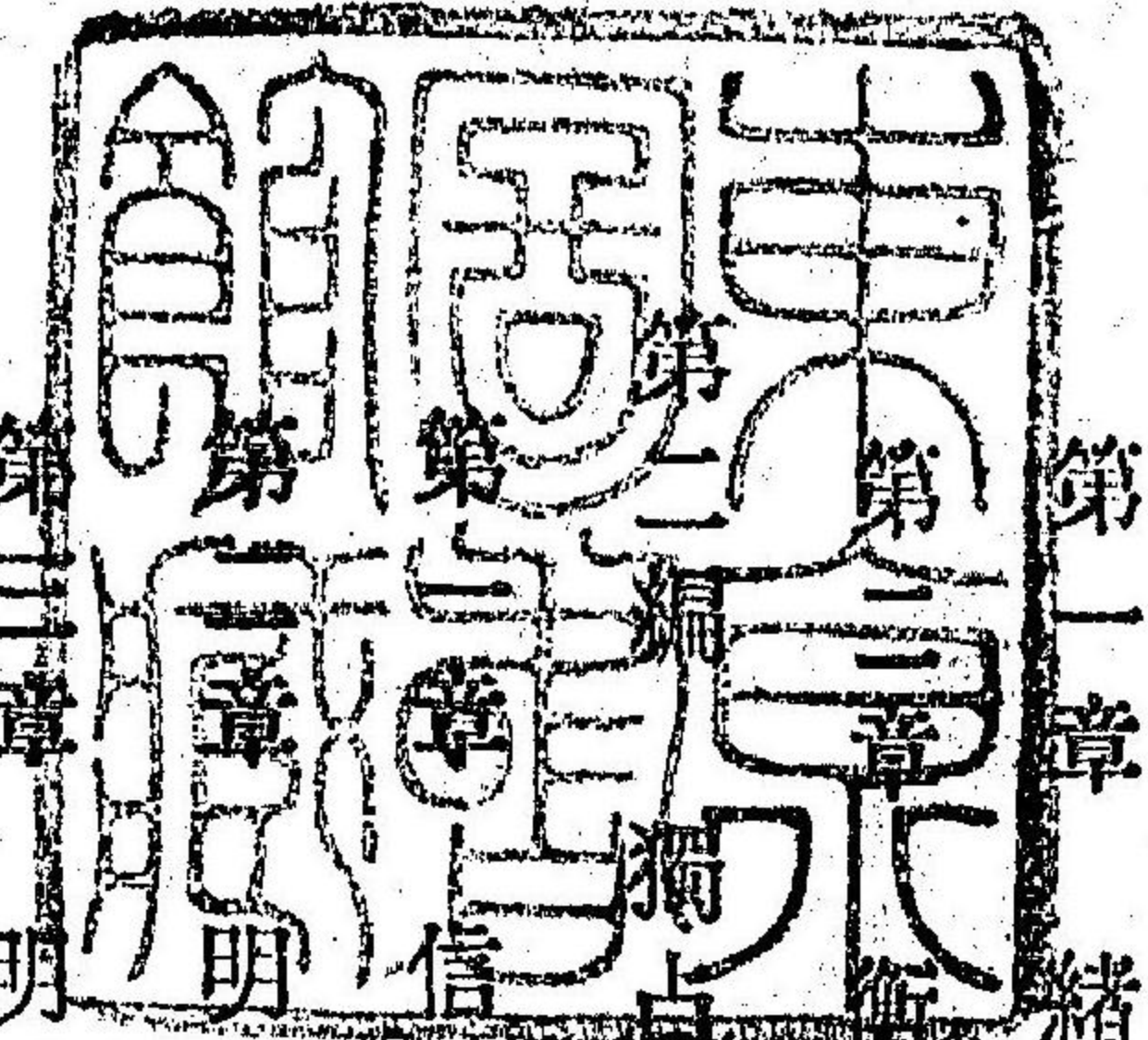


№ 2527/RIV.

衡平法目錄

第一編



第一章 緒論

第二章 衡平法ノ格言

第三章 獨占裁判權

第四章 信託總論

第五章 明言私信託

第六章 明言公信託

第七章 默示信託

第八章 法定信託

衡平法目錄



一 二 丁

一 二 丁

二 一 丁

二 二 丁

三 一 丁

七 六 丁

八 五 丁

九 三 丁

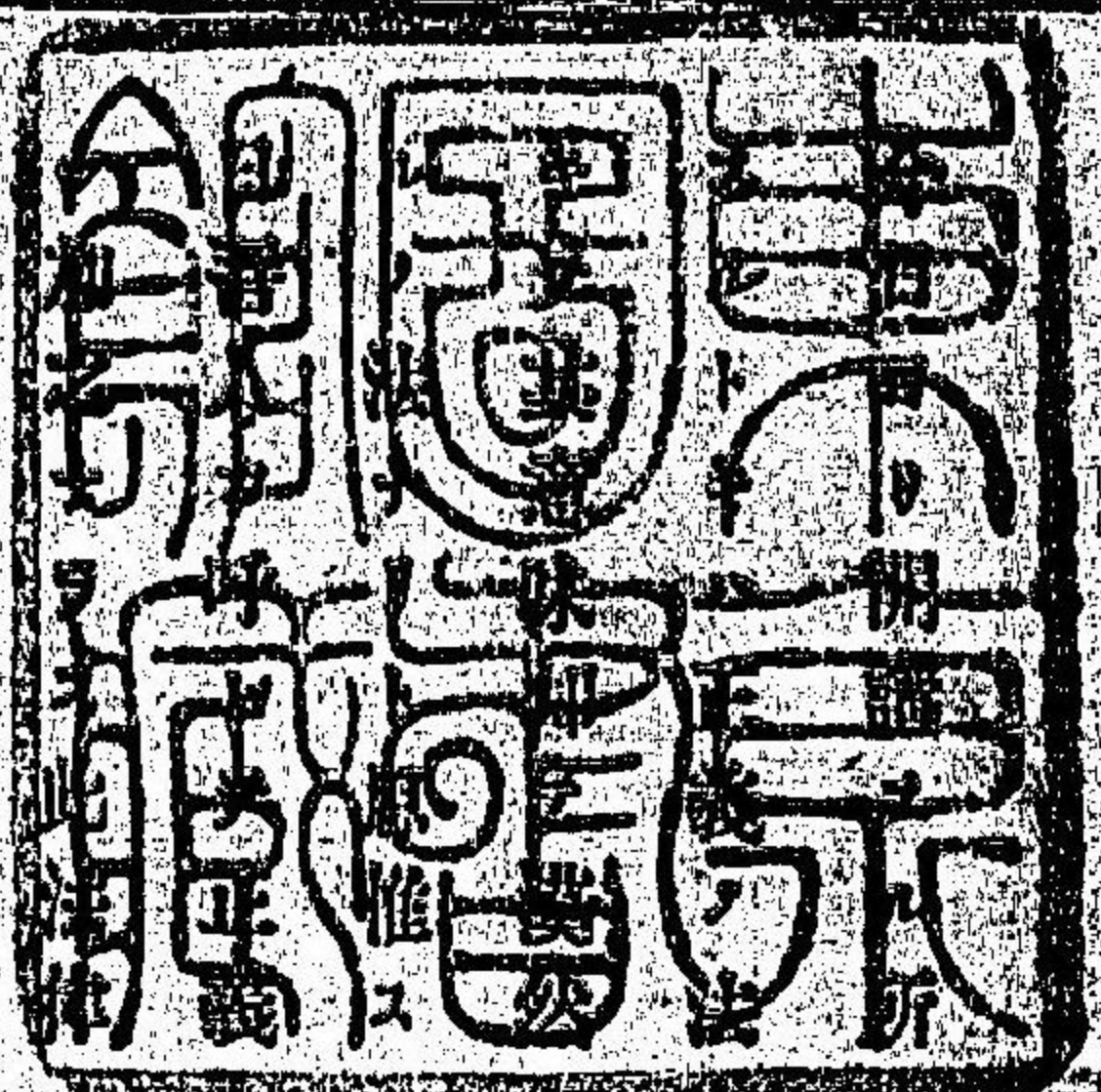
第六章 受託者及其義務 一〇三丁

第七章 變更 一二〇丁

衡平法目錄終

衡平法

法學士芹澤孝太郎講義



モリハロー、オフ、ユリイター、ト云レ之ナ字義通リニ直譯  
 云フ可ク通例譯テ衡平法ト云フ原名譯名共ニ立派過  
 リ或ハ名稱ノ爲メ誤マラレテ衡平法ハ正義ヲ強行ス  
 者アラソ然レトモ元來正義トハ空漠タルコトモテ今  
 做スモノ、中ニハ全ク法律上ノ現象トナラサルモノ多  
 シハ衡平法ト稱スルトキハ英吉利法律ノ他ノ一部タル  
 普通法及ロ威文ノ條例等ニ對シ獨リ此法律ノミ正義衡平ナルモノ、如クニ開  
 ニレトモ決テ然ラズ他ノ法律ト雖モ亦皆正義ニ適合スルモノナリ間々或ハ  
 人情ニ乖戾セシ如ク見ユル規定アルモ其法律ハ國家全體ノ安寧秩序ヲ維持ス

衡平法

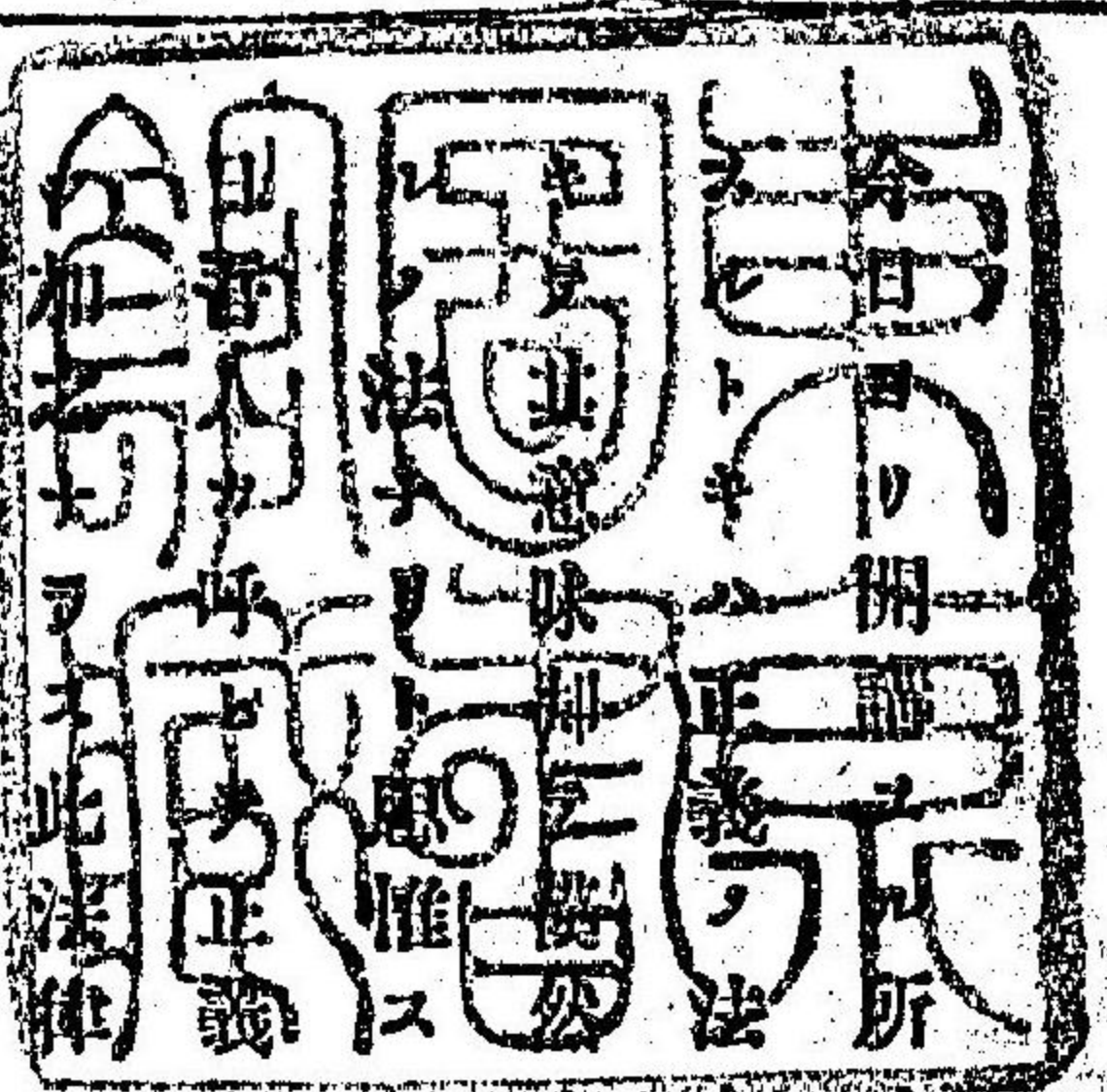
第六章 受託者及ヒ其義務 一〇三丁

第七章 變更 一二〇丁

衡平法目錄終

衡平法

法學士芹澤孝太郎講義



モノハロー、オフ、エシイテ」ト云ヒ之ヲ字義通リニ直譯  
 云フ可シ通例譯シテ衡平法ト云フ原名譯名共ニ立派過  
 トキハ正義ノ法ト云フ或ハ名稱ノ爲メニ誤マラレテ衡平法ハ正義ヲ強行ス  
 タリ或ハ名稱ノ爲メニ誤マラレテ衡平法ハ正義ヲ強行ス  
 者アラン然レトモ元來正義トハ空漠タルコトニシテ今  
 中ニハ全ク法律上ノ現象トナラサルモノ多  
 做スモノ、中ニハ全ク法律上ノ現象トナラサルモノ多  
 衡平法ト稱スルトキハ英吉利法律ノ他ノ一部タル  
 普通法及ヒ成文ノ條例等ニ對シ獨リ此法律ノミ正義衡平ナルモノ、如クニ開  
 エレトモ決シテ然ラス他ノ法律ト雖モ亦皆正義ニ適合スルモノナリ間々或ハ  
 人情ニ乖戾セシ如ク見ユル規定アルモ其法律ハ國家全體ノ安寧秩序ヲ維持ス

衡平法

ハ目的ヲ以テ規定シタルモノナレハ縦シヤ一個人ノ爲メニ多少不便利不人情ニ當レハトテ苟モ其國民タル者ハ固ヨリ之ニ服従スルノ義務アリ故ニ一個人ノ上ヨリ見レハ或ハ正義衡平ナラサルモノ有ルモ國家全體ノ上ヨリ見レハ總テ正義ニ適セサルノ法律ナシト云ハサル可カラズ然ラハ則チ衡平法獨リ正義衡平ノ名ヲ專有ス可カラサルヤ明ケシ殊ニ衡平法ト雖モ今日ニ於テハ判決ハ先例相積ミテ既ニ一體ノ固定規則トナリ終リ或ハ往々條理ニ背違スルトニハ非サルモ之ニ適當セサル規定アリ或ハ完全ナル救済ヲ與ヘ得サル場合モ無キニ非ス故ニ今日ニ至リテハ衡平法ト普通法トノ間ニ幾ノト差違ノ點ナク唯沿革上其管轄スル所ノ事件ヲ異ニスルニ過キス

以上開陳シタル所ノミニテハ未ヨ以テ衡平法ノ何物タルヲ知ルニ足ラス衡平法ノ何タルヲ知ルニハ先ツ古代學者カ衡平法ニ付テ如何ナル定義ヲ下セシヤヲ稽考スルヲ便トス併シナカラ其定義トテモ決シテ衡平法ノ實質ニ關シテ下タルモノニ非スシテ只衡平法ノ主義ヲ表明セシモノニ過キス或ル古代學者ハ定義ニ曰ク衡平法ハ普通法ノ強硬ヲ緩和シタルモノナリ尙ホ適切ニ之ヲ云

ハハ衡平法ハ普通法ノ不正ヲ矯正スルモノナリト又他ノ學者ハ曰ク衡平法ハ立法者カ正義ヲ意味シタリト豫定シテ法律ノ精神ヲ探索シ其精神ヲ強行スルモノナリト道般ノ定義ニ依リテ觀ルトキハ衡平法ノ目的トスル所ハ其範圍廣漠ニシテ何事ニ限ラス英國法律ニ瑣瑾アル所ハ必ス之ヲ補助シ常ニ法律ノ真正ナル執行ヲ見ント欲スルモノナリ然ラハ則チ今日モ尙ホ衡平法ノ主義ハ右古代學者ノ定義通り行ハレ居ルヤト問フニ決シテ然ラス後回沿革ヲ講スル時ニ至リ述フル通り衡平法發達ノ初ハ專ラ普通法ノ瑣瑾ヲ矯正スルト云フノ外定マリシ規則モ無シ單ニ裁判官ノ良心ノ向フ所ノ儘ニ判決ヲ下シタルモノナレハ右ノ如キ定義モ適當ナリシナランガ今日ニ於テハ古代ノ如キ空漠タルモノニ非スシテ衡平法術ノ裁判官ハ規則ト先例トニ依リテ拘束セラル、コト普通法裁判官ト異ナラスシテ復タ昔者ノ如キ不羈自由ニ非ス又衡平法術裁判官カ法律ヲ解釋スルノ方法モ決シテ普通法裁判官ト異ナルナク法律ノ形式ニ依ラスシテ其精神ヲ執行スルハ獨リ衡平法裁判官ノミナラス普通法裁判官モ亦此法律解釋ノ大原則ヲ遵守シテ之ヲ實行セント勤ムルモノナリ實ニ此原則ノ

衡平法

ミニ限ラヌ凡ソ法律解釋ノ規則ニシテ衡平法裁判官ノ法トル所ノモノニシテ  
 又普通法裁判官ノ尊重セサルモノ一モ之アラズ此ノ如ク衡平法ト普通法トハ  
 今日ニ於テハ既ニ發達ノ程度ヲ同フシテ兩者共ニ確定不動ノモノトナリシ故  
 古代學者ノ下シタル定義ハ今ハ全ク不當ノモノナリ今試ニ衡平法ノ範圍ニ付  
 キ定義ヲ下セハ衡平法ハ國家ノ制裁力ヲ以テ強行ス可キ正義ニシテ普通法  
 及ヒ條例ヲ以テ強行セサリシ所ノモノヲ強行スルノ法律ナリト謂フ可シ  
 尙ホ衡平法ノ大體ヲ見ルニハ其起源沿革ヲ詳知スルコト必要ナリ歴史上ニ於  
 テ明カナル如クアングロサクソン及ヒ初期ノノルマン時代ニ於テハ羅馬法ノ  
 流行盛ニシテ裁判官モ法學者モ羅馬法王ノ管下ニ隸屬シタル僧官ナリシ故ニ  
 當時ノ英國法律ト云ヘハ即チアングロサクソンノ舊慣ニ羅馬法ノ原理ヲ加味  
 シタルモノニシテ甚ク立派ナル法律ナリキ尤モ羅馬法ト雖モ今日ノ如クニ發  
 達セルモノニ非サルモ當時ノ有様ニ比較シテ然カ云フノミ而シテ十二世紀ノ  
 初ニ於テオクスフォルドニ大學校ヲ設ケ専ラ羅馬法ヲ講究シタリシカ故設シ其  
 後政事上及ヒ宗教上ノ理由ニ依リテ英國ニ於ケル羅馬法ノ進歩ヲ障礙スルコ

トナカリセハ英法ハ漸次改良進歩シテヨリ其時勢ト與ニ推移シ又衡平法ノ必  
 要ヲ見サリシナル可シ然ルニ後ニ至リ述フル如ク政治及ヒ宗教上ノ事由ハ全  
 ク羅馬法ノ發達ヲ阻碍タルニ依リ曾テ羅馬ノ踏躐セシ經歷ト同シク英國ハ其  
 固有ノ法律以外ニ一種ノ緩知法ヲ有スルコトナレリ而シテ其緩和法ハ英國  
 固有法即チ普通法ノ如何ナル缺點ヲ補助スルカ爲メニ發生シタルカト云フニ  
 其重要ナルモノ凡ソ四點アリ

第一 普通法ハ古代ニ於テ早ク成熟シシリシカ爲メ未ダ十分ノ發達ヲ遂ケ得  
 スシテ既ニ強硬ナル規定トナレリ故ニ社會ノ進歩スルニ隨ヒ多ク普通法ノ  
 救正ヲ與ヘ得ラレサル事實ヲ生出スルニ至レリ

第二 前ニ述ヘタル如ク羅馬法ハ英國法律ノ完全ナル發達ヲ助成スルヲ得  
 サルニ至レリ何トナレハ英國ニ於テエドワード第三世ノ時代ニ當リ羅馬法  
 王ノ暴逆益甚ク國民漸ク其管轄ニ屬スルヲ忌ミリチヤート第二世ノ時ニ至  
 リテ貴族等ハ英國ヲシテ又羅馬法ニ檢束セラルハコト無カラシメント欲シ  
 王ニ迫リテ一ノ條例ヲ發布シ爾後英國法廷ニ於テハ復テ羅馬法ヲ參考シ若

衡平法

シハ引用スルヲ禁シ學校ニ於テハ羅馬法ヲ研究スルコトヲ禁遏セリ斯ノ如クシテ英國ノ法律ハ其改良ノ淵源タル羅馬法ヲ失却シタルカ爲メ既ニ強硬不便ナル普通法ハ益不便ナルモノトナレリ

第三 以上二個ノ故障アルニ拘ハラス普通法ノ訴訟手續ニシテ若シ便利ナルモノナリシナラハ尙ホ衡平法ノ發達ヲ須ツニ至ラサリシナル可シ然ルニ實際普通法ノ訴訟手續ハ其法理ノ強硬ナルヨリモ尙ホ一層強硬ナルモノナリシナリ即チ普通法ニ於テハ一切ノ非行ハ必ス豫メ定マリタル救正方式ノ一ニ該當スルモノト見做シ苟モ適當ナル方式ナキ事實ハ決シテ救済ヲ與ヘサリシナリ尙ホ委シク其手續ヲ説明スレハ普通法裁判所ニ出訴セント欲スル人ハ先ツ己レノ事實ハ法律ニ定マリタル孰レノ方式ニ該當スルヤヲ吟味スルヲ要ス而シテ若シ不當ナル方式ニ依ルトキハ單ニ方式ニ違フノ一事ヲ以テ取訴スルノ危險ヲ踏マサル可カラズ且縱シヤ適當ノ方式ヲ發見スルコトヲ得タリトスルモ審理ノ半途ニ於テ定マリタル方式ニ違フコトアレハ事實上將ニ救済ヲ得ヘキモノモ遂ニ其訴訟ヲ棄却セラルハノ恐アリキ且社會ノ

進歩スルニ付テハ新規ノ事物益増加シテ簡單ナル古代ノ法律家カ定メタル起訴ノ方式ニテハ遂ニ救正ヲ得ルノ道ナキモノ甚タ増加セリ此缺點ハ疾クヨリ人ノ感知シタル所ニシテエドワード第一世ノ時既ニ此弊害ヲ救正スルカ爲メニコソシミリ、カッシー「チル條例ヲ發布セリ」(エドワード第一世即位十五年條例第一號第二十四章)

元來起訴ノ初ニ要スル原始令狀ハ「チャンセリ」ノ書記之ヲ發スルモノナリシカ素ト令狀ノ種類名稱ニ限アリテ書記ノ職權ヲ以テ妄リニ之ヲ増減變更スル能ハサルカ故到底令狀ヲ下付スルヲ得サル場合アルニ至レリ此ヲ以テ「コソシミリ、カッシー」條例ハ類似ノ事實ニハ書記ヲシテ類似ノ令狀ヲ發スルコトヲ得セシメタルナリ然レトモ此條例ハ實際立法者ノ希望シタル結果ヲ得ル能ハスシテ殆ソト徒法ニ屬セリ其故ハ

(一) 普通法裁判官ハ猶ホ書記ノ發シタル令狀ノ有效無效ヲ決スルノ權力ヲ保存シタルカ故ニ書記ノ構造シタル令狀ニシテ不法ト認ムルトキハ勿論之ヲ採用セサリキ加之ナラズ普通法裁判官ハ自家ノ習慣ヲ固執シテ「チャンセ

リ」ノ干渉ヲ疾悪スルノ傾向アリシカ爲メ殊更種々ノ故障ヲ理由トシテ「チャ  
ツセリ」書記ヲ廢シタル原始令狀ヲ否認セントセリ

(二) 社會ノ進歩スルニ隨ヒ事物益々煩雜トナリテ新規ノ事件ヲ増加シ「チャ  
セリ」ノ書記モ遂ニ類似ノ令狀ヲ構造スルニ困難ヲ感シ從ヒテ普通法裁判  
官カ其令狀ヲ無効トスル場合モ益々増加シ後ニハ到底令狀ヲ發シ得サルノ事  
實ヲ生出セリ又起訴ノ方式新ナルト共ニ之ニ對スル答辯ノ方式モ亦新規ニ  
發生スルハ當然ナレトモ裁判官カ新式ノ答辯ヲ認可スル權アルヤ否ヤハ右  
條例之ヲ明定セズ爲メニ屢々疑難ヲ生シタリキ

第四 右ノ如キ普通法ノ缺點ニ加フルニ猶ホ此等ヨリモ甚シキ缺點アリ即チ  
普通法ノ救済ハ必ズ損害賠償ノ一途ニ限ルコト是ナリ例ヘハ甲乙兩人カ土  
地賣買ノ契約ヲ爲シタル場合ニ於テ乙ナル買主ハ金錢ニ換ヘ難キ事情アリ  
テ必ズ甲者ノ土地ヲ買取ルコトヲ要スルモノナルニ甲者ハ後其契約ヲ破リ  
土地ノ引渡ヲ拒絕スルコトアルモ普通法裁判所ハ乙者ニ許スニ唯甲者ノ違  
約ノ所爲ニ因リテ蒙リタル損害賠償ノ要求ヲ以テスルノニ此ノ如キ場合ニ

於テハ法律ハ此非行ニ對シテ眞ニ救済ヲ與ヘタリト云フ可カラス乙者ノ損  
害ハ決シテ金錢ニ見積リテ満足ナル償還ヲ得ル能ハサルモノナリ又普通法  
ハ其組織甚ク強硬ニシテ其審理手續ノ如キ一定ノ方式アリテ裁判官カ適宜  
ニ之ヲ動かスコトヲ得ズ故ニ組合計算ノ如キ錯雜ナル調査ヲ爲スニハ普通  
法裁判所ハ最モ不適當ナル場所ニシテ原告ハ爲メニ満足ナル救済ヲ得ル能  
ハス

普通法ニハ右ノ如キ諸種ノ缺點アリテ適當ノ救済ヲ與フルコトヲ得サリシカ  
其救済ヲ受ケ得サル被害者ハ當時如何ニシテ其權利ヲ振張シタリシカト云フ  
ニ此ノ如キ場合ニ於テハ只國王ニ請願スルノ一方アリシノミナリ故ニ被害者  
ハ未タ所謂權利ナルモノヲ有セス單ニ國王ノ好意ヲ以テ事情憫然ナル被害者  
ニ特別ナル救済ヲ與フルニ過キサリシナリ然ルニ普通法ノ弊害ハ益々其勢ヲ逞  
クシタリシカハ「エドワード第三世」ノ時ニ於テ遂ニ大救正<sup>ナヤンセロル</sup>ヲ以テ永久ノ裁判官  
ト爲シ救正廳ヲ以テ永久ノ裁判所ト爲スニ至レリ即チ此裁判所ハ普通法ノ救  
済ヲ與ヘサル場合ニ於テ非常ノ救済ヲ與フルヲ以テ其職分トス而シテ此事ヲ

定メタルエドワード第三世二十二年ノ勅令ニ依レハ被害者カ救正應ノ保護ヲ請フニハ亦普通法ノ如ク原始令狀ニ依ルヲ要セズ唯自己ノ遭遇シタル不法ノ事實ヲ陳述セル一通ノ請願狀ヲ以テ足レリトス之ヲ原語「ビルナルベツ」<sup>ビルナルベツ</sup>ノ約シテ「ビル」ト云フ大法官ハ親シク右ノ請願書ヲ審査シテ實ニ非常ノ救濟ヲ與フ可キモノト思慮スルトキハ「サブピート」ト稱スル召喚狀ヲ發シテ被願人ノ大法官應ニ出頭スルコトヲ命スルナリ然ルニ其後法律ノ進歩スルニ從ヒ大法官自ラ請願ノ當否ヲ審査スルノ慣例ハ廢止セラレテ代言人ノ署名シタル請願狀ハ恒ニ非常ノ救濟ヲ許スニ適當ナル理由ヲ具備スルモノト認メラルルニ至レリ又其後一千八百五十二年ヅットリヤ女帝條例第十五及ヒ第十六第八十六章ヲ以テ右「サブピート」ノ召喚令狀モ亦別ニ之ヲ用フルヲ要セズ單ニ請願狀ノ複本ニ裏書シテ被願人ヲ召喚スルコトナレリ一千八百七十三年ヨリ一千八百八十四年ニ至ル十年間前後數回ニ發布セラレタル裁判所構成條例ハ遂ニ普通法ト平衡平法トノ兩管轄ヲ合併シテ同一ノ裁判所ニ於テ併掌スルコトナリ普通法ト平衡平法ト相抵觸スルトキハ平衡平法ニ依ルコトトナルニ至リテモ起訴ノ手續

ハ猶ホ從前普通法裁判所カ用ザル慣例ニ依リ令狀ノ方式ヲ以テスルト雖モ復タ昔日ノ如ク窮乏ナル制限ナク甚タ圓滑自在ナルモノトナレリ

以上平衡平法ノ沿革ニ依リテ略シ平衡平法ノ何物タルヤハ了解シ得ラルト雖モ尙キハ一層該法ノ眉目ヲ明晰ニスルコトヲ得ン

第一、獨占裁判權 獨占裁判權トハ普通法ノ全ク救濟ヲ與ヘサル場合ニ於テ平衡平法カ救濟ヲ與フル場合ナリ例ヘハ信託死因ノ贈與動産遺囑契約ノ履行ノ如キ是ナリ

第二、共同裁判權 此場合ニ於テハ普通法裁判所全ク救濟ヲ與ヘサルニ非サルモ其救濟不完全ナルカ又ハ不適當ナルヲ以テ平衡平法裁判所ハ普通法裁判所ヲ補助シテ完全ナル救濟ヲ與フル場合ナリ例ヘハ詐欺錯誤組合商法計算ノ如シ

第三、補助裁判權 平衡平法裁判所カ此裁判權ヲ以テ行フ所ハ當事者ノ權利義務ヲ判決強行スルニアラスモテ只法律上有權ノ推測ヲ有スル者カ他日普通法



裁判所ニ於テ自己ノ權利ヲ主張スルニ必要ナル準備ノ補助ヲ爲スニ過キス例ヘハ證據物發見ノ請求ノ如シ

### 第二章 衡平法ノ格言

前章ニ論シタル所ハ只衡平法ノ外形及ヒ範圍ニ付キ其何物タルヤチ云フニ過キス衡平法ノ本質ハ果シテ如何ナルモノナルヤハ未タ盡シタリト云フ可カラズ故ニ本章ニ於テハ衡平法ノ恒ニ遵守スル格言ヲ説明シテ衡平法ノ主義トスル所即チ原理ハ如何ナルモノタルカヲ探究セントス

第一 衡平法ハ單ニ方式ニ取テアル故チ以テ非行ニ救済ヲ與ヘスト云フコト無シ

既ニ前章ニ論述シタル衡平法發達ノ起源ヲ知ラハ此格言カ衡平法上如何ナル位地ヲ占ムルモノナルヤハ概ク之ヲ推測スルヲ得ヘシ實ニ衡平法ハ此主義ヲ以テ生レ此主義ヲ以テ發育シタルモノニテ此格言ハ衡平法ノ根本ナリト云フモ過言ニ非ス然レトモ此格言ノ意義ハ決シテ或ル者ノ説ノ如ク非行アレハ必

メ救済アリト云フモノニ非ス一例ヲ以テ此格言ノ意義ヲ説明セシニ例ヘハ甲乙土地賣買ノ契約ヲ結ビタルトキニ普通法ノ損害賠償ニテハ乙者完全ナル救済ヲ得ル能ハサルコト前ニ示シタル場合ノ如キ若クハ書入質質入主カ普通法上ノ權利質取主ニ在ルノ故チ以テ質地若クハ其借地料ヲ回收セント欲シテ回救シ能ハサルカ如キ場合ニ於テ衡平法ハ契約ノ精神ニ基キ土地買受主若クハ質入主ノ利益ヲ保護シ土地賣渡人チシテ約定ノ土地ヲ引渡サシメ又ハ質取主チシテ質地ヲ返還セシムルカ如キ即チ此格言ノ實用ナリトス然ルニ或ル者原語ニ「ロー、ロング、ウヰザウト、レメデー」(救済ナキ非行ナシ)ナル格言アルヲ見テ直チニ一切ノ非行ニハ必ス救済アリト思惟スル者アレトモ是甚シキ誤謬ニ屬ス何トナレハ世間幾多ノ非行ハ普通法ヲ以テスルモ又衡平法ヲ以テスルモ到底救済ス可カラサルモノ有レハナリ畢竟此格言ノ主義ハ法理上強制シ得ヘキ非行コシテ救済ヲ與ヘテレサルモノ無シト云フニ過キス

第二 衡平法ハ普通法ニ隨フ

此格言ニ二个ノ應用アリ請フ之ヲ條説セシ

### 衡平法

(一) 衡平法ノ裁判權ニ於テ即チ普通法上ノ權利ニ關シテハ衡平法ハ全ク普通法ノ規則ニ依リテ支配セラレ決シテ之ニ乖忤スルコト無シ例ヘハ長子相續ノ規則ハ諸弟ノ爲メニハ甚ク偏頗ニシテ不利益ナルニモ拘ハラズ衡平法裁判所ハ決シテ之ヲ破ルコトヲ爲サズ相續法ニ付テハ一般ニ普通法ノ規定ニ隨フカ如キ是ナリ然レトモ衡平法ハ此ノ如ク普通法ノ規則ヲ尊重スルト同時ニ必要ノ場合ニハ又普通法ノ規則ヲ巧ニ回避スルコト有リ例ヘハ長子カ其父ノ末子ノ爲メニ財產ヲ遺囑セント欲スルヲ見テ父ノ死後ハ己レ自ラ必ス該財產ヲ其弟ニ分與ス可シトノ誓約ヲ爲シ以テ父ノ遺囑ヲ遮斷シ置キ父ノ死後普通法上相續ノ例ニ依リ其財產終ニ長子ノ有ニ歸シタルトキハ衡平法裁判所ハ夫ノ長子カ其所有權ヲ主張スルニ對シテ汝ハ實ニ普通法上ノ所有者ナリ然レトモ汝ハ普通法上ノ所有者タルカ故ニ又汝ノ幼弟ノ爲メニ最モ適當ナル被信託者ナリ是汝カ嘗テ該財產ハ弟ノ物タルヲ誓約シタル所以ニ非ヌヤト宣言ス可シ

(二) 衡平法ノ獨占及ヒ補助裁判權ニ於テ即チ衡平法上ノ權利ニ關シテハ衡

平法ハ嚴密ニ普通法ノ規則ニ拘束セララルモノト云フヲ得サレトモ常ニ類推法ヲ以テ此等諸規則ニ遵依スルモノナリ例ヘハ衡平法上ノ不動產ニ關スル權利ハ長子相續法ニ依リテ長子之ヲ繼承スルカ如キ總テ普通法上ノ權利ト同様ノ取扱ヲ受クルモノナリ又普通法並ニ衡平法上ノ權利ニ關シテ衡平法ハ普通法ト同シク出訴期限ノ條例ヲ適用ス但衡平法ノ普通法ニ異ナル所ハ衡平法ハ時ニ遲滯ヲ惡ムコト普通法ヨリモ尙ホ甚シキモノ有ルコト是ナリ例ヘハ普通法上ノ權利ニ付テハ衡平法モ普通法ト同一ノ出訴期限ヲ用フレトモ衡平法上ノ權利ニ關シテハ條例ノ定メタル期限ヨリモ尙ホ短縮セル期限ヲ以テ訴權ヲ失却セリト宣言スルコト有リ

第三 先ノスル者ハ勝ツ

此格言ノ意味ハ對手雙方ノ情狀ニシテ若シ同様ナルトキハ先ニ權利ヲ得タル者常ニ優等ナル位地ニ立ツヲ云フ換言スレハ單ニ衡平法上ノ權利ヲ有スル兩人ノ間ニ爭ヲ生シタルトキハ專ラ日附ノ前後ヲ以テ最後ノ決定ヲ爲スト云フナリ但衡平法裁判所ハ偏ニ時ノ先ナルヲ以テ權利ヲ與フルニ非スト雖モ對手

雙方ノ諸般ノ情狀ヲ對比シテ他ニ其權利ノ優劣ヲ判スルノ道ナキトキハ已ム  
ヲ得ス日附ノ先ナル者ヲ保護スルニ過キス此第三ノ格言ニ密接シテ又左ノ格  
言アリ

第四 情狀同シキトキハ普通法上ノ權利必ス勝ツ

右第三及ヒ第四ノ格言ハ被告カ己レヨリモ先ニ原告ノ權利ノ成立スルヲ知ラ  
ズシテ相當ノ報償ヲ以テ取得シタリト答辯スル場合即チ所謂善意取得ノ答辯  
ニ於テ最モ多ク其應用ヲ見ルモノナリ左ノ諸規則ハ即チ其結果ナリトス

甲 衡平法裁判所ハ普通法上ノ權利ヲ有シ若クハ最モ早ク之ヲ取得シ得ヘキ  
權利ヲ有スル被告ニ對抗シテ救済ヲ許サス

乙 衡平法ノ補助裁判權ニ於テ被告人若シ善意ノ取得者トシテ占有シタリト  
答辯スルトキハ普通法上ノ權利ヲ有スル原告ト雖モ衡平法裁判所ノ補助  
ヲ得ルコト無シ

丙 單ニ衡平法ノ補助ヲ得ヘキ情狀ヲ有スルニ過キサル原告ハ善意ノ取得者  
ニ對抗スル能ハス

5 (1)

第五 遲滯ハ衡平法上ノ權利ヲ減ス

右ノ格言ハ衡平法裁判所カ誠實ニシテ且勤勉ナル者ニ非サレハ決シテ保護ノ  
恩ヲ施スコト無キヲ示スモノナリ彼ノ衡平法ノ保護ヲ求ムル者ハ先ツ自ラ公  
平ナラサル可カラストノ格言モ亦幾ト之ト同一ノ意味ヲ云フモノニシテ人若  
シ衡平法裁判所ノ補助ニ依リテ自己ノ利益ヲ保護セラレント欲スルトキハ先  
ツ衡平法ノ條理ニ隨ヒ己レノ當ニ負擔スヘキ責任ヲ承認スルニ非サレハ衡平  
法裁判所ハ原告ノ請求ヲ満足セシムルコト無シ例ヘハ夫カ婦ノ動産ヲ占領セ  
シカ爲メ出訴スルトキハ衡平法裁判所ハ先ツ彼レヲシテ其妻子ノ爲メニ十分  
ノ手當ヲ爲サシメタル後ニ非サレハ夫ノ請求ヲ許ササルナリ又例ヘハ財産上  
ノ權利ヲ有スル者知リナカラ善意ノ第三者カ誤リテ該財産ヲ改良スルヲ默視  
シ改良ノ事業稍成就スルニ及ヒテ初メテ自己ノ權利ヲ主張シ其財産並ニ改良  
ノ利益ヲ享受セントスルトキハ普通法ニ於テハ報償ヲ用弗スシテ之ヲ請求ス  
ルヲ得ヘント雖モ衡平法ニ於テハ必ス第三者ノ出費ヲ辨償スルコトヲ要ス

衡平法

此格言ハ共同取得及ヒ共同書入質ノ場合ニ於テ最モ多ク其適例ヲ見ル蓋兩人  
 同一ノ金額ヲ供出シテ一ノ不動産ヲ買受ケ右兩名及ヒ其相續人宛ノ讓與證ヲ  
 取り置クトキハ其取引ノ結果ハ普通法上土地共有ナリ故ニ若シ讓受人ノ一人  
 先ニ死去スルトキハ猶ホ生存スル他ノ一人其土地全部ヲ獨占スルヲ得ヘシ然  
 ルニ衡平法ハ元來共有ノ制ヲ好マサルカ故ニ若シ此ノ如キ場合ニ於テ極微ノ  
 事由ト雖モ生殘者ノ合併權ヲ妨グルノ機會アレハ直チニ之ヲ利用スルニ躊躇  
 セス例ヘハ兩人共有ノ目的ヲ以テ一園ノ土地ヲ買受クルニ當リ其供出ノ金額  
 同一ナラスシテ些少ト雖モ差違アルトキハ衡平法裁判所ハ此取引ヲ以テ生存  
 者ニ合併權アル普通ノ共有ト見做サスシテ組合ト見做スカ如キ即チ常ニ生存  
 者ノ合併權ヨリ生スル不公平ヲ避ケントスルモノナリ

第七 衡平法ハ常ニ外式ヲ透シテ精神ヲ求ム

此格言ハ普通法ニモ亦行ハルル所ナレトモ其實行ノ完備ノ域ニ遠シタルハ一  
 ニ衡平法ノ力ニ頼ルモノナリ例ヘハ衡平法ハ一般ニ罰金又ハ沒收ノ約款ヲ履  
 行スルヲ許ササルコト人ノ能ク知ル所ニシテ若シ一ノ債權證中ニ指定シタル

金額ヲ罰金ナリト思料スルトキハ假令其證書ノ明文ニ此金額ハ罰金ニ非スシ  
 テ破約ノ損害見積高ナリト記載スルモ衡平法裁判所ハ決シテ金員全額ノ辨濟  
 ヲ履行セシムルコト無シ

第八 衡平法ハ當ニ爲サル可キ事ハ實ニ爲サレタルモノト看做ス

此格言ノ意味ハ衡平法裁判所カ契約ノ結果ヲ論スルニ當リテ其契約ヲ以テ約  
 束セラレタル所爲ハ皆全ク履行セラレタリト看做スニ在リ但衡平法ハ何人ノ  
 爲メニモ此ノ如キ假定ヲ爲スニ非ス殊ニ無報取得者ノ如キハ決シテ此假定ノ  
 利益ヲ得ルコト無シ例ヘハ遺囑證書ヲ以テ或ル金額ヲ土地買入レノ爲メニ指  
 定シタルトキハ其遺囑カ始メテ效力ヲ生スルノ日ヨリ該金員ハ土地ト看做サ  
 サルカ如キ即チ此格言ノ適例ニシテ之ヲ名ツケテ變更ノ規則ト云フ

第九 衡平法ハ總テノ所爲ハ常ニ先ツ義務履行ノ爲メニセラレタリト見做ス  
 人若シ或ル所爲ヲ爲ス可キ義務ヲ負擔スルニ際シ其義務履行ノ爲メニシタリ  
 ト看做シ得ヘキ一ノ所爲ヲ爲ストキハ即チ履行ノ意ヲ以テ然カシタリト看做  
 スナリ例ヘハ夫ト其婦ト結婚スルニ當リ甲地ニ於テ代價二千圓ノ土地ヲ買ヒ

婦ノ爲メニ之ヲ信託ニ付ス可シト約シテカラ信託ニ付スルコト無クシテ一ノ土地ヲ甲地ニ於テ買受ケ且別ニ遺言ヲ爲サシテ死去シタルトキハ衡平法裁判所ハ右ノ土地ハ夫カ婦ノ爲メニ契約履行ノ目的ヲ以テ買受ケタルモノト爲シ更ニ婦ノ爲メニ信託ニ付ス可キコトヲ命スルトリ

第十 衡平法ハ對人的ノ働ヲ爲ス

此格言ハ衡平法裁判所カ如何ナル主義方法ヲ以テ法律ヲ執行スルヤチ説明スルモノニテ衡平法ノ作用ヲ示スト同時ニ又其原理ヲ發顯スルモノナリ曾テ一訴件ニ於テ(英人)カ英國衡平法裁判所ノ權力及ハサル合衆國ニ於テ所有スル土地ニ付キ訴ヲ起シタル節大法官ハドウツクハ次ノ如キ説明ヲ爲セリ

此法廷ノ原始ノ命令ハ對人的ナリ故ニ此裁判所ハ管轄以外ニ存スル土地ニ關シテ對物的ノ執行ヲ命スル能ハスト雖モ對人的ノ手續ニ依リ對人的ニ判決ヲ執行スルコトヲ得其手續トハ被告人若シ管轄内ニ在ルトキハ之ヲ檢束シ且被告人ノ動産若シハ不動産ニシテ管轄内ニ存スルモノヲ差押ヘ以テ被告ヲシテ或リ事ヲ爲シ又ハ爲ササルノ已ムヲ得サルニ至ラシム

右ノ説明ハ能ク衡平法裁判所ノ原理ヲ解説スルモノニシテ同裁判所ハ常ニ右ノ方法ヲ以テ非行者ヲ強制シ被告人若シハ其財産ニシテ裁判所ノ管轄内ニ存スルモノアルトキハ假令訴訟ノ目的物裁判所ノ管轄以内ニ存セサルモ尙ホ能ク被告ヲシテ其命令ニ服從セシメ時トシテハ右他管内ニ存スル目的物ノ引渡ヲモ強行スルコト有リ然レトモ若シ其訴件ノ争點ニシテ他管内ニ存スル土地ノ所有權ニ關スルトキハ衡平法裁判所ト雖モ其訴ヲ決スルノ權力ナキハ勿論ナリトス何トナレハ所有權ニ關シテハ其財産ノ存在スル國ノ法律獨リ其疑問ヲ決スルノ專權ヲ有スルモノニテ所在地ノ法律獨リ物件ヲ支配スト云ヘル原則ハ決シテ動カス可カラサルモノナレハナリ又衡平法カ對人的ノ働ヲ爲ストノ格言ハ普通法裁判所ニ於ケル訴訟ヲ停止スル衡平法裁判所ノ權力ノ根本ナリ猶ホ此規則ニ關シテハ後章ニ於テ詳説スル所アル可シ

### 第二編 獨占裁判權

第一章 信託總論

有名ナル益用條例以前ニ於テハ甲及ヒ其相續人ノ爲ニシタル單純ナル土地ノ贈與ハ若シ占有引渡ヲ以テスルトキハ直チニ有效ニシテ法律上甲者ノ權利ハ完全ナルモノトナリ又別ニ約因ヲ要スルコト無カリキ而シテ當時ハ此ノ如ク占有引渡ヲ以テスル普通法上ノ所有權アルノ外又他ニ變格ノ所有權アルコト無カリシカニドワード第三世ノ末ニ至リテ從來普通法ノ曾テ知ラサル一種ノ所有權ヲ發生セリ當時死手條例ヲ以テ宗教上ノ目的ノ爲メニ土地ヲ贈與スルコトヲ禁セラレシカハ法律家ハ其條例ヲ回避セント欲シテ遂ニ寺院其他宗教上ノ無形人ノ益用ノ爲メニ第三者ニ讓與スルノ方法ヲ按出セリ即チ一寺院ノ爲メニ土地ヲ讓與セントスルトキハ甲者ナル讓與ノ目的以外ノ人ニ其土地ノ所有名義ヲ移轉シ甲者ヲ右寺院ノ爲メニ其土地ヲ保管セシムルナリ此條例回避ノ方法ハ時勢ノ進歩スルニ從ヒ益々其用ヲ擴張シ遂ニハ更ニ宗教ニ關係ナキ人ノ爲メニモ亦益用ヲ附シテ第三者ニ讓與スルノ慣習ヲ生セリ抑普通法

ニ於テハ獨リ占有引渡ヲ以テ土地ヲ讓與セラレタル者ノミ其土地ノ所有者ト看做サレシト雖モ衡平法裁判所ハ單ニ讓受人ニ對シテ讓渡ノ所爲ヲ爲スノミニテハ讓受人カ其土地ヲ用益スルノ實權ヲ確定スルニ足ラスト爲シ讓受人ノ普通法上ニ有スル權利ヲ剝奪スルニハ非スト雖モ右普通法上ノ所有者ヲシテ其土地ニ付キ彼レヨリモ尙ホ優等ナル條理ヲ有スル者ノ爲メニ之ヲ用益セシムルコトヲ強ユルモノナリ例ヘハ甲者丙者ノ益用ノ爲メ乙者ニ土地ヲ讓與スト云フトキハ此益用ノ宣言ハ其效力讓與ノ目的物ノ上ニ及ハスト雖モ以テ普通法上ノ讓受人タル乙者ノ良心ヲ拘束スルニ足ル可シ故ニ若シ乙者カ該目的物ノ收益ニ付キ益用者ニ對スル義務ヲ盡ササルトキハ乙者ハ信用ヲ破壞シタル者ナレハ衡平法裁判所ハ其非行ニ對シテ救済ヲ與フ可シ此ノ如ク普通法上ニ於テハ更ニ讓與ノ取引ニ關係ナキ丙者ノ權利カ衡平法裁判所ノ認ムル所ト爲リシ以來丙者ハ實際利益ヲ享受ス可キ眞ノ所有者トナリ乙者ハ只普通法上所有ノ名義ヲ有スルニ過キサルナリ

此益用ヲ以テスル讓與ハ封建ノ遺制タル財産ニ關スル諸規則ヲ破リ以テ王家

ノ反對ナル貴族等カ普通法上ノ所有權ヲ他人ニ委託シテ財產ヲ沒收セラレル  
 ノ恐ナク安全ニ反逆ヲ企テ又ハ平民タル土地所有者モ同様ノ手段ヲ以テ地頭  
 ノ權力又ハ普通法ノ諸規則ヲ恐レヌ安全ニ土地ノ利益ヲ享受シ又ハ之ヲ賣買  
 移轉スルコトヲ得タリ此ノ如ク益用ノ功用ハ稍不法ナルノ嫌アレトモ益用カ  
 社會ノ事情ニ適シテ眞ニ之ヲ益シタルモノ亦甚ク寡少ナラス就中土地所有者  
 カ遺囑ノ方法ニ依リテ其土地ヲ讓與スルノ權能ヲ得タルハ實ニ益用ノ效果ノ  
 最モ著キモノナリ蓋普通法ニ於テハ遺囑ヲ以テ土地ヲ讓與スルコトヲ得ス只  
 其用益ノミ之ヲ遺囑スルコトヲ得タリシカ益用ノ發明以來益用ノ方法ヲ以テ  
 土地所有ノ實益ヲ讓與スルコトヲ得タルニ由リ普通法ニ於テハ依然遺囑ニ依  
 ル土地ノ讓與ヲ許サスト雖モ實際ニ於テハ土地ヲ遺贈スルニ異ナラサル結果  
 ナ生セリ

右ノ如ク益用ノ用益擴張シテ古來慣行シタル封建ノ諸制度ヲ破リシカハ政府  
 ハ遂ニ益用ヲ禁遏セント欲シテ夫ノ有名ナル益用條例ヲ發布スルニ至レリ(二  
 十七ヘンリ)一八世第四十章此條例ニ據レハ益用ノ方法ヲ以テ他人ニ土地ヲ讓

與スルモ之カ爲メニ利益ヲ蒙ル可キ人即チ所謂益用者直チニ普通上ノ所有ト  
 看做サル可シ故ニ此條例發布以後ハ從前單ニ衡平法上ノ益用者アリシ者完全  
 ナル普通法上ノ所有者ト爲リ益用者ハ其是マテ普通法以外ニ立チテ有シタル  
 種種ノ利益ヲ失ヒ今再ヒ普通法上ノ所有者トシテ封建制ノ義務並ニ危險ヲ負  
 擔スルニ至レリ而シテ又從前他人ノ益用ノ爲メニ土地所有ノ名義ヲ有シタル  
 普通法上ノ所有者ハ同條例發布ノ後其讓渡ノ取引ニ付テハ全ク何等ノ關係ナ  
 キ第三者ト爲レリ之ヲ要スルニ益用條例ハ衡平法上ノ益用者ヲ以テ直チニ所  
 有者ト爲シ以テ益用設定ノ目的ヲ失ハシメントセリ而シテ益用條例ノ效力ハ  
 獨リ明言ヲ以テ設定シタル益用ノミナラス默示ノ益用及ヒ法律ノ推測ニ依レ  
 ル益用ニモ及フモノナリ例ヘハ甲者及ヒ其相續人ノ益用ノ爲メニ乙者及ヒ其  
 相續人ニ爲シタル讓與ノ場合ニ於テ乙者ハ條例發布以前普通法上ノ單純財產  
 權ヲ有シタリシモ今ハ更ニ何等ノ權利ナク唯所有權ヲ甲者ニ移轉スルノ導水  
 管タルニ過キス而シテ前コハ唯衡平法上ノ益用者タルニ過キサリシ甲者ハ今  
 ハ獨リ益用ノミナラス又其財產ノ本體ヲモ所有スルモノトナレリ又默示信託

ノ一例ヲ舉ケレハ甲者カ乙者及ヒ其相續人ニ報償ナクシテ一ノ讓與ヲ爲スヨ  
 當リ別ニ益用ヲ明言セサルトキハ條例發布以前ニ於テ甲者ハ其所有名義ヲ乙  
 者ニ移シタルコト拘ハラズ衡平法裁判所ノ推測ニ依リ猶ホ益用ノ益利ヲ存スヘ  
 キモノト見做サレタリ蓋衡平法裁判所ハ有價ノ報償ナキ取引ヲ以テ權利ヲ移  
 轉セシムルコトヲ欲セス約因ナキ讓渡ハ讓渡人ニ益用ヲ生スルモノト爲セリ  
 故ニ條例發布ノ後ハ讓渡人タル甲者ハ即チ土地ノ完全ナル所有者ト爲リ從ヒ  
 テ乙者ハ正當ニ占有引渡ヲ受ケルト雖モ更ニ何等ノ權利ヲモ得ルコト無ク其  
 讓與ノ取引ハ全ク無用ノモノト爲リタリ右ノ如ク約因ナクシテ爲シタル讓與  
 ハ衡平法上其用益當ニ讓渡人ニ復歸スルヲ以テ名ツケテ復歸ノ益用ト稱セリ  
 前述ノ如ク約因ナキ讓與ハ復歸ノ益用ヲ生スルモノナリ然ラハ如何ナル約因  
 アレハ復歸ノ益用ヲ防遏スルニ足ルヤト問フニ衡平法衡モ昔時ニ於テハ猶ホ  
 普通法衡ト同ク何程微細ナルヲ只有價ノ約因タニ之アラハ讓受人ノ權利ハ確  
 實ニシテ又其用益讓渡人ニ復歸スルコト無シトシタリシカ近時ハ衡平法衡ノ  
 主義漸ク一變シテ讓受人カ其讓渡ノ取引ニ付キ只有價約因タルノ名義ニ過キ

九十

サル如キ輕少ノ約因ヲ證明シタルノミニテハ該讓與物件ノ用益ヲ享受スルコ  
 トヲ得セシメス畢竟無價讓與ノ場合ニ復歸ノ益用ヲ生スルハ法律ニ於テ人ハ  
 相當ノ報償ナクシテ自己ノ權利ヲ失フヲ欲セスト推測スルニ由ルモノナレハ  
 幾ト無價ニ等シキ輕微ノ報償ヲ以テ讓與ノ取引ヲ行フトモ衡平法裁判官ハ尙  
 ホ讓渡人ニ完全ナル讓與ノ意思アルヲ疑ヒ未タ敢テ讓受人ニ其物件ノ使用收  
 益ヲ許サス彼ヲシテ更ニ讓渡人カ名實共ニ其物件ノ有所ヲ移轉セント欲シタ  
 ルコトヲ證明セシム而シテ讓受人若シ之ヲ證明シ得サレハ其物件ノ用益ハ讓  
 與ノ取引アルニ拘ハラズ直ニ讓渡人ニ復歸シ其取引ノ效ヲ空シシスルモノ  
 ナリ  
 以上默示益用ノ一例トシテ復歸ノ益用ヲ舉ケタリ今又法律ノ推測ニ依ル益用  
 ノ如何ナルモノナルヤヲ示サンニ例ヘハ甲者カ單純財産權ヲ買受ケ未タ其代  
 金ヲ支拂ハサル前ニ無遺囑ニテ死亡シタルトキハ該財産權ハ甲者ノ相續人ニ  
 移轉ス可シト雖モ賣主ハ未タ其代金ヲ拂受ケサルヲ以テ猶ホ其財産上ニ衡平  
 法上ノ留置權ヲ有シ其物件ノ益用ハ未タ買主タル甲者及ヒ其相續人ニ移轉セ



サルモノノ如ク見做サレ甲者及ヒ其相續人ハ賣主ニ對シテ受託ノ位地ニ立ツ者ナリ益用條例ハ以上諸種ノ益用ヲ禁遏セント欲シタルモノナレトモ其條文ノ構成完全ナラサルカ爲メ立法者ノ禁セント欲シタル益用ハ却テ愈々其根據ヲ鞏固ニシ爾來今日ニ至ルマテ信託ナル新名稱ヲ以テ益用ヲ違クセリ而シテ益用條例ノ此ノ如ク意外ノ結果ヲ見ルコト至リシハ主トシテ左ノ缺點ニ因ルモノナリ

甲 益用條例ハ其效力二段ノ益用ニ及フ能ハス蓋二段ノ益用トハ甲者一ノ土地ヲ乙ニ益用セシムル爲メ丁ノ益用トシテ丙ニ讓與スルトキハ丁者ハ第一段ノ益用者トシテ乙ノ爲メニ其土地ヲ保有スルモノナリ即チ益用條例ハ丁者ノ益用ヲ以テ直チニ普通法上ノ權利ト爲スコトヲ規定シタレトモ丁者カ更ニ乙者ノ益用ノ爲メニ之ヲ保有スルニ當リテハ益用條例ハ又之ヲ如何トモスル能ハス其效力第一段ニ盡キテ又第二段ニ及フノ餘勢ナシトハ夙ニ普通法衙裁判官ノ一致スル所ナリ如ク一段ノ益用ヲ經テ次ニ乙者ノ利益ニ歸スル益用ヲ名ツケテ二段ノ益用ト稱シ乙者ノ有スル益用ヲ第二段ノ益用ト

九十二

云フナリ然ルニ衡平法裁判官ハ普通法裁判官カ條例ノ力第二段ニ及ハスト判決スルニ引換ヘ第二段ノ益用者タル乙者ノ權利ハ條例發布ノ後ニ於テモ尙ホ十分ニ其效力ヲ有スルモノト爲シテ故ニ其後益用條例ヲ回避シテ有效ナル益用ヲ設定セントスルニハ只益用ノ上ニ益用ヲ重スルヲ以テ足レリトス而シテ此第二段ノ益用ハ條例以後從來ノ益用ト區別スルカ爲メ之ヲ信託ト稱シタレトモ其實ハ決シテ先ノ益用ニ異ナルモノニ非ス且尙ホ其後ニ至リテハ迂遠ナル二段ノ益用ヲ設定セサルモ單ニ一段ノ益用ニ信託ナル名稱ヲ附シテ以テ益用條例ノ效力ヲ回避スルコトヲ得ルニ至レリ

乙 又益用條例ノ效力ハ全ク人産ニ及ハス且實産中ニ於テモ記録保有産ニ及フコト無クシテ同條例ノ規定スル所ハ只自由保有産ノ一アルノミ故ニ自由保有産ヲ除ク外ハ人産タルト實産タルトヲ問ハス益用條例發布ノ後モ尙ホ有效ナル一段ノ益用ヲ設定スルコトヲ得タリ然レトモ益用ナル名稱ハ條例ニ抵觸スルノ嫌アルヲ以テ此ノ如ク有效ナル益用モ亦之ヲ信託ト稱スルニ至レリ

丙 益用條例ハ自由保有産ノ單純ナル益用ヲ禁止スルト雖モ若シ其益用ニシテ何等カ働キ掛ケノ義務ヲ附帶スルトキハ自由保有産ノ益用ト雖モ亦條例ノ禁止スル限ニ在ラス右益用カ働キ掛ケノ義務ヲ附帶スルトハ財産ノ所有名義人即チ受託者ニ益用ノ目的物ヲ配分シ若シハ之ヲ變更スル如キ責任ヲ負ハシムル場合ヲ云フ

信託ニ付キ益用條例ノ外尙ホ記應ス可キモノハ有名ナル詐欺條例ナリ同條例ハ黙示ノ信託及ヒ法律ノ推測ニ依ル信託ヲ除クノ外一切ノ信託ノ設定及ヒ讓渡ハ必ス設定者ノ自署シタル證書若シハ遺言書ヲ以テス可シト規定セリ  
 以上論述シタル所ニ據リ略ホ信託ノ要點ヲ盡セリ古來信託ノ定義ヲ下サント欲シタル學者寡カラスト雖モ未タ一モ其成效ヲ得タル者ナシ然ルチ今余カ之ヲ試ミントスルモ其效ハ遂ニ其勞ヲ償フニ足ラスト思考スルカ故ニ只諸君カ信託ノ全體ヲ講究シタル後徐ロニ其實體ヲ看破セシコトヲ望ムノミ終リニ臨ミテ猶ホ一言ス可キコト有リ信託ヲ區別シテ明言黙示法定ノ三種ト爲スコト是ナリ而シテ明言信託ハ尙ホ之ヲ細分シテ明言私信託及ヒ明言公信託ノ二ト

ス可シ即チ以下章ヲ分テテ逐次之ヲ説明セシ

## 第二章 明言私信託

今明言私信託ヲ詳論スル前ニ先ツ其公私ヲ問ハス明言信託ニ關スル一般ノ理論ヲ説明スルヲ要ス明言信託トハ言語若クハ文書ヲ以テ明カニ設定セラレタル信託ナリ而シテ此明言信託ニ種種ノ體様アリ今其重ナルモノヲ舉示ス可シ

第一 明言信託ニ已遂ナルモノ有リ未遂ナルモノ有リ信託ノ已遂ナルモノトハ設定者カ十分有效ナル信託ノ設定ヲ明言シテ其成立ニ關シテ又何等ノ所爲ヲモ要セサル場合ヲ云フ例ヘハ甲ノ爲メニ信託スルカ爲メ乙ニ讓與スト云フトキハ此讓與ノ所爲ハ已遂ニシテ之ニ附著スル信託ハ既ニ成立シタルモノナリ之ニ反シテ信託ノ未遂ナルモノトハ設定者カ只或ル信託ノ爲メニ財產權ヲ讓渡サントスル意思ヲ示スニ過キスニテ設定ノ所爲ハ未タ完全ナラサルモノナリ此ニ信託ノ已遂及ヒ未遂ノ別ニ付キ一法官ノ説明アリ曰ク一切ノ信託ハ常ニ何等カノ所爲ヲ要スルモノナレハ或ル意味ニ於テハ皆未遂ナリト云フ

コトヲ得ヘシト雖モ衡平法ノ所謂未遂ナルモノハ之ニ異ナレリ即チ衡平法裁判官カ兩者ヲ區別スルノ方法ハ一方ニ於テハ設定者カ既ニ自己ノ財産ヲ讓渡シタルヤナ間ヒ又他方ニ於テハ設定者カ證書ノ用語ニ依リテ自己ノ意思ヲ推究セシコトヲ法廷若クハ受託者ニ委テタルヤ否ヤヲ尋テ若シ設定者カ明白ニ讓渡ノ行爲ヲ示シ受託者ニ於テ之ヲ承諾スルノ外又別ニ何事ヲモ爲スノ必要ナキトキハ其信託ハ已遂ニシテ此ノ如クナラサルモノハ皆未遂ナリト

信託ノ未遂ナルト已遂ナルトニ依リテ之ニ適用ス可キ規則ニ差別ヲ生ス今其最モ著シキモノヲ舉クレハ已遂ノ信託ニ關シテハ衡平法裁判官カ其設定ノ權證ヲ解釋スルニ當リ普通法ノ規則ニ從ヘトモ未遂信託ニ關シテハ之ニ依ルコト有リ又依ラサルコト有リ例ヘハ同一ノ證書ヲ以テ先ツ甲ノ畢生ノ爲メニ信託シ次ニ其殘餘ヲ甲ノ嫡系ノ子孫ノ爲メニ信託スルトキハ衡平法裁判官ハ普通法ノ「ウェリ」案件ノ判決例ニ隨ヒ右ノ證書ハ甲者ニ限嗣財産權ノ信託ヲ付與シタルモノニテ甲者ハ即チ衡平法上ノ限嗣財産權ヲ有スト爲ス之ニ反シテ設定者カ設定證書ノ明文ニ於テ又ハ其解釋ノ當然ノ結果ニ依リテ單ニ信託ヲ設

定セントスルノ意思ヲ示スニ過キサレ場合即チ例ヘハ夫婦財産契約ヲ以テ受託者ニ財産分配ノ細目ヲ定ムルコトヲ委任スルカ如キ未遂信託ノ場合ニ於テハ裁判官ハ主トシテ設定者ノ意思ヲ探究シ其證書ニシテ特別ナル意思ヲ表示セサルトキ始メテ法律上ノ意義ニ依リテ之ヲ解釋スルモノナリ蓋已遂信託ノ場合ニ於テハ設定者ノ意思明確ニシテ受託者ノ責任及ヒ受用者即チ信託ノ利益ヲ享受スル者ノ權利既ニ確定シタルモノナレハ裁判官ハ又證書ノ明文以外ニ設定者ノ意思ヲ求メテ已遂ノ效果ヲ動カス可カラス只設定者カ明言シタル信託ノ履行如何ヲ監視スルヲ以テ止可キノミ然ルニ未遂信託ハ其信託ノ實行ノ方法及ヒ目的等未ク確定セス裁判官カ設定者ノ意思ヲ推測シテ之ヲ判決スルマテハ未タ信託ヲ成立セシムルヲ得サルモノナリ而シテ衡平法裁判官カ右未遂ノ信託ノ場合ニ於テ其證書ヲ解釋シ設定者ノ意思ヲ探究スルニ當リ常に左ノ二規則ヲ適用ス

一 未遂信託ハ普通法ノ嚴密ナル規則ニ依リテ之ヲ解釋スルコト無シ而シテ若シ設定者ノ意思明了ナルトキハ假令解釋ノ法則ニ背クトモ其意思ヲ以テ

法律上ノ規則ニ依ル解釋ノ結果ニ換ユルコト有リ但設定者ノ意思明カナラ  
ス且之ヲ明カニ知ルニ由ナキトキハ衡平法裁判官ハ主トシテ文字ノ法律上  
ノ意義ニ隨ヒテ證書ヲ解釋ス可シ

二 未遂信託ヲ設定スル證書ハ通常夫婦財產契約及ヒ遺言狀ノ二者ニ限ルモ  
ノノ如シ而シテ此兩者ハ各其解釋ノ規則ヲ異ニセリ

甲 夫婦財產契約ノ場合ニ於テハ其契約ノ性質ニ於テ自ラ設定者ノ意思ヲ  
推測スルニ足ルモノ有リ即チ同契約ノ目的ハ其結婚ノ所出ニ係ル兒孫ノ  
爲メニ豫メ財産ノ手當ヲ爲スニ在リテ獨リ夫若クハ婦ノ利益ノ爲メノミ  
ニスルニ非サルナリ故ニ設定者ハ契約ノ目的物ヲ夫若クハ婦ノ隨意ニ轉  
賣消費スルヲ欲セサルヤ明カナリ依リテ裁判官ハ若シ夫婦財產契約ニ夫  
若クハ婦ニ與フルニ隨意消費ノ權限アル限嗣産ヲ以テスルカ如キ用語ア  
リトモ該契約ノ本質ニ反スル用語ナリトシテ之ヲ採用セサル可シ

乙 之ニ反シテ嘱遺證書ハ豫メ設定者ノ意思ニ關スル推定ヲ爲スニ由ナク  
只其證書ノ明文ニ依リテ設定ノ意思ヲ探究スルノ外ナキカ故ニ夫婦財產

契約ノ場合ノ如ク財產權ノ解釋ニ付テ一定ノ規則ヲ設クル能ハサルナリ  
右ノ如ク夫婦財產契約及ヒ遺囑カ各其解釋ノ規則ヲ異ニスルハ頗ル學者ノ注  
意ヲ要スルモノナルカ故ニ尙ホ左ニ判決例ニ依リテ之ヲ説明ス可シ  
夫婦財產契約ノ場合ニ於テハ結婚ノ所出ニ係ル兒孫ヲ保護スルノ目的ヲ以テ  
同契約ヲ解釋ス可シトノ原則ハ「トレボル」對「トレボル」ノ訴件ニ於テ其適例ヲ見  
ル可シ即チ其訴件ニ於テハ甲者乙女ト結婚スルニ當リ其婚姻ヲ約報トシテ丙  
者ト左ノ信託ヲ約束セリ

一 財産ヲ甲者自身畢生間ノ用益ノ爲メニ處分シ其殘餘ハ甲者ノ妻タル可キ乙  
女ノ爲メニ其畢生間ノ用益ニ供ス可シ而シテ又其殘餘ハ甲乙間ニ得タル嫡系  
ノ男子及ヒ其男性相續人ノ爲メニシ尙ホ其殘餘ヲ生シタルトキハ甲者ノ正當  
相續者之ヲ承繼ス可シト

右ノ信託ヲ解釋スルニ當リテ若シ「シヨリー」訴件ノ判決例ニ依ルトキハ其效果ハ  
全ク同財産ヲ甲者並ニ其妻乙女及ヒ甲乙間ニ擧ケタル男性ノ相續人ノ爲メニ  
信託スト云フニ同シク甲者ハ其妻ト共ニ限嗣財產權ヲ取得シテ相續人等ハ父

母ノ死後之ヲ相續スルノ權利アルノ外此財產契約ニ依リテ直接ノ利益ヲ蒙ル  
 コト無シ故ニ甲者カ其一生中ニ全ク其財產ヲ耗盡シ了ルモ相續人等ニ於テハ  
 之ヲ奈何トモスル能ハサルナリ然レトモマンス、フザールド<sup>侯</sup>ハ右ノ信託ヲ説明  
 シテ曰ク此證書ノ謂フ所ハ合意ノ項目ヲ指定シタル未遂ノ信託ニ過キサレハ  
 宜シク其設定ノ意思ニ隨ヒテ之ヲ解釋セサルヘカラス然ルニ本證設定ノ意思  
 ハ甲者ノ權利ヲ只其畢生間ニ限ルモノナリ若シ否ラサレハ甲者ハ此契約ノ成  
 立ト同時ニ之ヲ破壊スルノ權能ヲ得其子孫ノ爲シタル此信託ハ到底一ノ書併  
 タルニ過キサレヘシト依リテ甲者ハ本證ニ依リ只畢生間ノ財產權ヲ得ルニ過  
 キス而シテ其嫡男ハ相續ニ依ラヌシテ本證ニ依リ直接ニ限嗣財產權ヲ取得ス  
 ルモノト判決セリ

判決例ヲ按スルニ古來夫婦財產契約ノ場合ニ於テハ衡平法裁判所ハ設定ノ證  
 書ニ反對ノ意思明示セラルルトキノ外常ニ結婚者ノ權利ヲ其畢生間ニ限ルコ  
 ト右トレボル<sup>對</sup>トレボル<sup>ノ</sup>訴件ノ如クシ一モ之ト異ナリタル判決アルヲ見ス  
 以上夫婦財產契約ヲ以テスル未遂ノ信託ヲ論シテ然ルニ未遂信託ハ夫婦財

產契約上ニ於ケルヨリモ遺言狀ニ於テ最モ其解釋ノ困難ナルヲ覺フ蓋遺言狀  
 ニハ一定ノ意思ナキヲ以テ別ニ解釋ノ標準トシテ依ル可キモノ無ク專ラ其用  
 語ニ依リテ設定ノ意思ヲ探究セサル可カラズ而シテ用語ノ意味ハ反對ノ意思  
 同一ノ證書中ニ之ヲキ限リ通常法律上ノ意義ニ隨ヒテ之ヲ解釋スルヲ規則ト  
 スト雖モ遺言狀ハ法律家ノ助言ニ依ラヌシテ作爲セラルルヲ恒トスルカ故ニ  
 專ラ法律上ノ意義ニ依リテ之ヲ解釋スルトキハ爲メニ設定者ノ眞意ヲ誤ルノ  
 恐アリ規則ト設定ノ意思ト其取捨折衷甚タ困難ナリ例ヘハ同一ノ證書ヲ以テ  
 甲者ニ畢生間ノ財產權ヲ讓與ス可キ信託ト甲者ノ死後其嫡出ノ相續人ヲシテ  
 甲者ノ殘餘ヲ享受セシム可キ信託ト併設シタルトキハ裁判官ハ夫婦財產契  
 約ノ場合ノ如ク之ヲ以テ甲者ノ權利ヲ其畢生間ニ限ルモノト爲サス<sup>シ</sup>ニエリ  
 訴件ノ判決ニ隨ヒテ甲者ハ限嗣財產權ヲ有スルモノト爲ス可シ何トナレハ此  
 ノ如キ場合ニ於テハ人ハ皆法律ヲ知リテ總テノ所爲ヲ行フモノニシテ其言フ  
 所ハ皆法律ノ意ヲ以テ言フモノナリト推測スルノ外又他ニ以テ設定者ノ意思  
 ヲ推測ス可キ由ナケレハナリ然レトモ遺言狀中ニ設ケシ法律ノ意義ニ反對ナ

ル意思ヲ示ストキハ裁判官ハ之ニ依リテ其解釋ヲ爲スコト勿論ナリ例ハ「バ  
 ビロン」對「ボイス」ノ訴件ニ於テ甲者ハ左ノ遺言ヲ爲セリ金千圓ヲ受託者ニ遺  
 受託者ハ之ヲ以テ一ノ土地ヲ買入レ先ツ乙者ノ爲メニ其畢生間之ヲ保有シ次  
 ニ其殘餘ヲ乙者ノ嫡系相續人ノ爲メニ保有ス可シ但乙者ハ夫婦財產契約ヲ爲  
 シテ其權利ヲ處分スルコトヲ得ヘシ  
 而シテ甲者ハ又同一ノ遺言狀ヲ以テ別ニ一圓ノ土地ヲ乙者ノ畢生間ノ爲メニ  
 遺贈シ其殘餘ヲ乙者ノ嫡系相續人ニ遺贈セリ  
 右ノ場合ニ於テ前段乙者ノ畢生間ノ爲メニシタル信託ハ未遂ナルカ故ニ裁判  
 官ハ設定者ノ意思ニ依リテ乙者ノ權利ヲ判定セサル可カラス而シテ若シ此遺  
 言狀中別ニ反對ノ意思ヲ示ササルトキハ法律上ノ意義ハ即チ設定者ノ意思ニ  
 シテ乙者ハ之ニ因リテ限嗣財產權ヲ取得ス可シ然ルニ此甲者ノ遺言ハ單ニ金  
 千圓ヲ土地ニ易ヘテ乙者ノ畢生間ノ爲メニ信託シ其殘餘ヲ乙ノ嫡系相續人ノ  
 爲メニ信託スト云フノミニ非ス別ニ但書ヲ以テ乙者ハ夫婦財產契約ヲ爲シ其  
 權利ヲ處分スルノ權能アリト云ヘリ若シ甲者チシテ實ニ乙者ニ限嗣產ヲ遺贈

スルノ意ナラシメハ限嗣產所有者ノ當然所有スル夫婦財產契約ノ權能ヲ特示  
 スルノ必要ナシ然ルニ之ヲ特ニ遺言狀中ニ明示シタルハ甲者ノ意思遺言狀ノ  
 文字ノ如シ乙者ニ唯畢生間ノ權利ヲ與フルニ過キササルカ爲メニシテ畢生間ノ  
 所有者ハ夫婦財產契約ヲ以テ財產ヲ處分スルノ權能ナキカ故特ニ事ヲ明記シ  
 テ異例ノ權利ヲ付與シタルモノナリ故ニ本件ノ信託ニ於ケル乙者ノ權利ハ「シ  
 リ」訴件ノ先例ニ依リテ之ヲ決ス可キモノニ非ス即チ甲者ノ權利ハ只其畢生  
 間ニ限ルモノト判決セラレタリ又同遺言狀ノ後段ニ於テ信託ナクシテ直チニ  
 乙者ニ土地ヲ讓與シタル所爲ハ已遂ナルカ故ニ其效果ハ法律上ノ解釋ニ依リ  
 即チ「シ」訴件ノ例ニ照シテ之ヲ判定セサル可カラス依リテ乙者ハ限嗣財產  
 權ヲ取得シタリト判決セラレタリ

第二 信託ニ有償ノモノ有リ無償ノモノ有リ此區別ヲ理解スルニハ左ノ三  
 原則ヲ知ラサル可カラス  
 (一) 約報ナキ合意ハ訴權ヲ生セス

右ノ規則ハ羅馬法ニ由來シテ普通法及ヒ衡平法ニ共通ナルモノナリ例ハ「セ

「對」セ「レ」訴件ニ於テ甲者其娘乙ノ爲メニ約報ナクシテ受託者ニ一ノ自由保有產ヲ讓與シ且又一ノ記録保有產ヲ讓與ス可キ約束ヲ爲シタリ然ルニ甲者ハ右ノ自由保有產ヲ引渡シタレトモ未タ記録保有產ノ引渡ヲ爲ササル内同一ノ自由產及ヒ記録產共ニ之ヲ己レノ妻ニ遺贈スルノ遺言ヲ爲シテ死去セリ尤モ右ノ自由保有產ハ先ニ娘ノ爲メニ讓與ノ取引ヲ完成シタルカ故ニ後ノ遺贈ハ物件ノ引渡ヲ以テスル能ハサリシト雖モ恰モ當時一條例ノ發布ニ依リテ遺言ニハ物件ノ引渡ヲ要セサルコトト爲リタル後ナレハ右妻ノ爲メニシタル遺贈ハ方式上完全ナルモノナリキ此場合ニ於テ乙女ハ亡父ノ信託ヲ實行シテ寡婦カ當時占有スル記録保有產ノ引渡ヲ受ケンコトヲ請求シタルニ大法官ハ之ヲ説明シテ曰ク乙女ノ自由保有產ニ對スル權利ハ完全ニシテ且其日附先ニ在ルカ故ニ其權利モ亦優先ナリト雖モ記録保有產ニ關シテハ余ハ裁判所カ約報ナキ契約ヲ強行セシメスト云フヲ以テ足レリトス可シト依リテ遂ニ寡婦ハ記録保有產ヲ有シ乙女ハ自由保有產ヲ有スト判決セラレタリ

(二) 不完全ナル讓與ノ證ハ衡平法裁判所ニ於テ或ハ強行ノ效力アル或ハ其效

力ナキ契約ノ證憑タル可シ即チ

(甲) 不完全ナル讓與ト雖モ若シ有價ノ約報ヲ以テシタルトキハ強行ノ效ヲ

有シ否ヲサレハ其效ナシ且此規則ハ之ヲ云ヒ換ヘテ

(乙) 有價ノ讓與ハ不完全ナルモ強行ノ效ヲ有スト雖モ無價ノ讓與ニシテ不

完全ナルトキハ強行ノ效ナシト云フヲ得ヘシ

右ノ如ク無價ノ讓與ニシテ若シ不完全ナルトキハ無效ナリト雖モ無價ノ讓與ハ必スシモ不完全ナルニ非ス若シ其完全ナルトキハ固ヨリ強行ノ效力ヲ有スルモノナリ故ニ

(三) 讓與ノ所爲完全ナレハ契報ナシト雖モ以テ信託ヲ設定スルニ足レリ

蓋衡平法裁判所ハ約報ナキ讓與ニ由リタルモノト雖モ完全ナル權利者ハ之ヲ保護スルコト勿論ナリ然レトモ若シ裁判所ノ保護ヲ請フ者ニシテ讓與ノ所爲ニ依リテハ未タ完全ナル權利者タルコトヲ得ス裁判所ノ力ニ依リテ始メテ其權利ヲ完全ナラシメントスルトキハ裁判所ハ其不完全ナル讓與ノ所爲ニ約報ヲ以テシタルヤ否ヤノ區別ヲ立テ若シ約報ナキトキハ其所爲ヲ以テ讓與者タ

ル可キ者ノ隨意ニ取得シ得ヘキモノト爲シ決シテ之ヲ強行セシメサルナリ  
前述ノ如ク讓與ノ約報アルト否トニ依リ信託ノ效果ニ付キ種種ノ區別アリテ  
之ニ關スル訴件モ亦千差萬別ナレトモ裁判所カ之ヲ判決スルニ當リ專ラ其標  
準トスル所ハ恒ニ信託カ完全シタルヤ否ヤノ一點ナリトス何トナレハ信託ニ  
シテ若シ完全シタルモノナレハ必ス有效ナリト雖モ若シ不完全ナルトキハ實  
ニ何等ノ效ヲモ生セサレハナリ

古ノ如ク信託果シテ完全シタルヤ否ヤノ論點ニ付テハ頗ル緻密ナル講究ヲ要  
スルモノナリ故ニ左ニ此點ニ關スル訴件ノ種類ヲ區別シ順次之ヲ説明ス可シ  
(一)贈與者即チ約報ナキ讓渡人カ爭訟ノ目的物件ノ上ニ普通法並ニ衡平法ノ  
權利ヲ併有スル場合

此種ノ事件中ニ於テ又贈與ノ所爲ノ已遂ナルト未遂ナルトニ由リ差別ヲ生ス  
ルカ故ニ再ヒ之ヲ區分ス可シ

(甲) 信託ノ已遂ナル場合

若シ信託ヲ以テシタル贈與ノ完全ニシテ且已遂ナルトキハ毫モ困難ノ生スル

コト無シ何トナレハ此ノ如キ場合ニ於テハ裁判官ハ恒ニ其信託ヲ有效トシテ  
受贈者即チ無償讓受人ト雖モ能ク贈與者ニ對抗シテ其權利ヲ主張スルヲ得レ  
ハナリ且此規則ハ獨リ受託者ヘノ讓渡完全ナル場合ニ限ラス贈與者カ自己ヲ  
以テ受託者ナリト公言シタル場合ニモ尚ホ之ヲ適用ス可シ曾テ一訴件ニ於テ  
ニルドソ候ノ説明ニ曰ク衡平法裁判所ハ無償ノ讓受人ヲ保護スルコト無シ即  
チ本件ニ於テ株券ヲ無報償ニテ讓渡ス可キ約束ハ裁判所之ヲ強行セシメサル  
ナリ然レトモ若シ其讓渡人カ自ラ其株券ヲ保有スルハ讓受人ノ爲メニ受託者  
タルノ資格ヲ以テスルモノナリト公言スルトキハ其株券ハ其公言ノ即時受用  
者即チ無償讓受人ノ財産ト爲ルカ故ニ裁判所ハ受用者ノ權利ヲ保護ス可シト  
右ノ如ク信託ノ公言ハ即時有效ナルカ故ニ若シ前ニ舉ケタル「ゼッフレ」對ゼッ  
フレ」ノ場合ニ於テ甲者乙女ニ記録保有者ヲ讓渡サント約束スルト同時ニ己レ  
ハ其引渡マテ乙女ノ爲メニ該財産ノ受託者ナリト公言シタランニハ乙女ハ即  
時ニ其財産ニ付キ受用者タルノ權利ヲ取得スルヲ以テ一方ノ無償ノ約束ハ其  
效ヲ生セサルモ猶ホ其後ニ寡婦ノ爲メニセラレタル讓渡ニ依リテ其權利ヲ害

衡平法



セラルルコト無カル可シ是實際右ト同一ノ事實ナル「スケール」對「ウォルカー」ノ訴  
件ニ於テ明カニ判決セラレタル所ナリ

(乙) 信託ノ未遂ナル場合

讓渡人カ信託ノ公言ヲ爲サスシテ單純ナル讓渡ヲ爲サント欲シ而シテ其所爲  
不完全ナルカ爲メ信託未遂ト爲リタル場合ニハ又次ノ區別ヲ爲スコトヲ要ス  
(イ) 其讓渡ノ目的物件ノ性質普通法上完全ナル讓渡ヲ爲シ得ヘキモノナルニ  
讓渡人其讓渡ヲ不完全ニシテ止ミタルトキハ讓受人ハ以テ何等ノ權利ヲモ得  
ルコト無シ例ヘハ「アントロバ」對「スミス」ノ訴件ニ於テ甲者某會社ノ株式ヲ乙  
者ニ讓渡サントテ其會社株金拂込ノ受取證ニ左ノ裏書ヲ爲セリ曰ク表面ニ記  
シタル拙者所有ノ某會社株式及ヒ之ニ關スル一切ノ權利ヲ乙者ニ讓渡スモノ  
ナリト然ルニ右甲者ノ所爲ハ裁判ノ上信託ヲ生スルコト無キ全ク無効ノモノ  
ナリト判決セラレタリ一法官其理由ヲ説明シテ曰ク此書物ハ單ニ之ヲ以テ財  
産ヲ讓渡スニ足ルモノナラス或ハ之ヲ以テ信託ノ公言ニ等シト云フ者アレト  
モ若シ甲者ヲ以テ受託者ナリトセハ無効ノ所爲ヲ以テ讓渡ヲ爲サントスル者

ハ皆悉ク受託者ナリト云ハサル可カラズ豈此ノ如キ理アラザヤ實ニ甲者ハ方  
式上受託者ナルコトヲ公言シタルコト無ク又其實際ニ爲シタル所ハ其眞ニ爲  
サント欲シタル所ニ異ナリ故ニ實際讓渡ヲ爲サント欲シタリトスルモ其讓渡  
ノ所爲完全ナラザリシカ爲メ尙ホ未タ其眞正ニ權利ヲ移轉セント欲シタルヤ  
否ヤヲ知ルニ足ラズ然ルニ猶ホ彼ヲ強制シテ其讓渡ヲ完全ナラシムルコトヲ  
得ヘキヤ思フニ此ノ如キ先例ハ未タ曾テ之アラス何トナレハ讓渡ノ不完全ナ  
ル間ハ何時ニテモ讓渡人ノ隨意ニ之ヲ取消シ得ヘキコト勿論ナレハナリ  
(ロ) 然レトモ若シ讓渡ノ目的物ニシテ普通法上讓渡シ得サルモノナルトキハ  
讓渡人ニ於テ其讓渡ヲ完全ニスルカ爲メ爲シ得ヘキタケノ事ハ悉ク之ヲ爲サ  
サル可カラズ然ルトキハ其讓渡ハ有效ナリト雖モ若シ何事ニテモ爲シ得ヘキ  
事ヲ爲ササルトキハ其讓渡ハ無効ナリ例ヘハ「フォルタスキ」對「ハーチット」ノ訴件ニ  
於テ甲者カ自己ノ死後金一萬圓ヲ得ヘキ生命保險證ヲ乙者ノ爲メニ信託ニ附  
スルトテ捺印證書ヲ以テ之ヲ受託者ニ讓與セリ而シテ其捺印證書ハ之ヲ受託  
者ニ引渡シタレトモ讓與ノ目的物タル生命保險證ハ依然讓渡人ニ於テ之ヲ保

有シ且其讓與ノ事ハ之ヲ保險會社ニ通知セザリシカ其後甲者變心シテ同保險  
 證ヲ更ニ他人ニ賣渡シタリ依リテ捺印證書ノ受託者ヨリ右生命保險證ノ價格  
 取戻ノ訴ヲ起シタルニ裁判所ハ之ヲ判決シテ曰ク甲者カ捺印證書ヲ引渡シタ  
 ル上ハ自己ニ對シテ其保險證ノ讓與ヲ有效ナラシムル爲メ又外ニ何等ノ所爲  
 アルヲ要セス甲者ノ所爲ハ即時其良心ヲ束縛ス可シ  
 然ルニ之ニ反シテ「エドワード」對シヨース」ノ訴件ニ於テハ一債券ノ權利者其死  
 亡スル數日前其債券ノ裏ニ之ヲ某ニ讓渡ス旨ヲ記シ捺印セスシテ之ヲ其讓受  
 人タル可キ者ニ引渡セリ然ルニ裁判官ハ此讓渡ヲ不完全ナリトシテ曰ク此讓  
 渡ハ以テ對人ノ債權ヲ讓與ス可キモノニ非ス故ニ本件ノ要點トスル所ハ單ニ  
 債券ヲ引渡シタルノミニテ有效ナル讓與ト爲ルヤ否ヤニ在リ然レトモ其所爲  
 ノ不完全ニシテ有效ニ讓渡人ヲ束縛スルコト能ハサルハ論ヲ待タス  
 以上論シタル所ハ衡平法ニ固有ナル微妙ノ差別ナレトモ現今ニ於テハ既ニ無  
 要ニ屬シタルモノ有リ即チ前記數件ノ判決アリタル後從來普通法上讓與ス可  
 カラサル物件トセラレタルモノモ條例ヲ以テ遂ニ讓與ス可キモノト爲リタレ

ハ再ヒ右(イ)(ロ)ノ區別ヲ要セサルコトナレリ故ニ今日總テノ事件ニ於テ決ス  
 可キ疑問ハ唯讓與ノ所爲法律上完全ナリシヤ否ヤノ一點ヲ以テ足ルト雖モ前  
 記判決例ノ條理ハ尙ホ依然真正ニシテ且確實ナルモノト知ル可シ

(二)贈與者ノ贈與物ニ付キ唯衡平法上ノ權利ヲ有スルニ過キサル場合

(甲)信託ノ已遂ナル場合

贈與者カ信託ヲ以テ讓與セント欲スル所ノモノ單純ナル衡平法上ノ權利ニシ  
 テ其信託若シ已遂ナレハ受用者ノ權利ハ完全ニシテ贈與者又之ヲ變更スルコ  
 トヲ得ス而シテ此ノ如キ信託ハ贈與者カ受託者ニ命シテ受用者ノ爲メニ保有  
 セシムルニ由リ又贈與者カ直接ニ受用者ニ讓渡スニ由リテモ已遂ト爲ル可キ  
 モノナレトモ就中贈與者カ信託ノ指命ヲ爲ス場合ニ於テハ其指命未タ受託者  
 ニ告知サレサルモ尙ホ讓與者ニ對シテハ有效ナリ但第三者ニ對シテハ其告知  
 シ以テ始メテ受用者ノ權利ヲ生スルモノトス且右信託ノ指命ハ其目的物不動  
 産タル場合ヲ除ク外(詐欺條例)口頭ヲ以テモ又ハ默示ノ所爲ヲ以テモ之ヲ爲ス  
 コトヲ得ヘシ又讓與者カ受託者ニ信託ノ指命ヲ爲サスシテ自己ノ有スル衡平

法上ノ權利ヲ直接ニ他人ニ讓渡ストキハ其目的物ノ性質ニ隨ヒ所有權ヲ移轉スルニ必要ナル事柄ヲ爲サレ得ヘキタケ爲スヲ以テ讓與ノ所爲完全ナリトス例ハ「キルバート」對「オーバルト」ノ訴件ニ於テ甲者或ル人ヨリ一ノ土地貸付ヲ受ク可キ無償ノ捺印證書ヲ得タル後右捺印證書ニ依リテ自己ノ所有スル一切ノ利益ヲ乙者ニ讓渡シタリ然ルニ甲者ハ其後右ノ捺印證書ニ基キ土地ノ貸付ヲ受ケタレトモ之ヲ乙者ニ引渡ササリシカハ乙者ハ遂ニ衡平法裁判所ニ出訴セリ是ニ於テ裁判所ハ本件ノ事實ヲ調査シテ甲者カ乙者ニ讓渡ヲ約定シタル當時甲者ハ自ラ未タ其土地ノ引渡ヲ受クル能ハサリシコトヲ發見セリ依リテ裁判官ハ說明判決シテ曰ク甲者ハ乙者ニ讓渡ヲ約定シタル當時ニ於テハ未タ其約束ノ借地ヲ己レニ引取ルコトヲ得サリシモノナレハ其讓渡ハ權利移轉ニ必要ナル手段トシテ當時爲シ得ヘカリシ或ル事ヲ爲ササリシモノト云フコトヲ得ヌ即チ甲者ハ爲シ得ヘキタケノ事ヲ爲シテ讓渡ノ所爲ヲ完結シタレハ其所爲ハ即チ自己ヲ羈束ス可シ若シ之ヲ以テ不完全ニシテ無効ナリト云ハハ此種ノ權利ハ到底無償ニテ讓渡スコトヲ得サルモノナラント

又動産ニ關スル衡平法上ノ權利ヲ讓與スル場合ノ判決例ハ「キクウ」對「マン」ニソグノ訴件ヲ以テ適例トス蓋同事件ニ於テハ或ル人遺言ヲ以テ金若干ヲ其妻及ヒ娘ニ遺贈スルカ爲メ先ツ母ノ爲ニ其畢生間ト次ニ純然其ノ娘ノ爲メニスル信託トヲ設定セリ其後娘ハ結婚スルニ當リ夫婦財產契約ヲ以テ右遺言ニ依レル自己ノ權利ヲ其婚姻ノ所出ノ子ノ爲メニ信託ニ付シ若シ其所出ノ子ナキトキハ姪何某及ヒ其子孫ノ爲メニス可キコトヲ指命セリ然ルニ娘ハ未タ一子ヲ設ケサルニ其夫死亡シタルニ因リ右夫婦財產契約ノ信託者ハ姪何某ノ爲メニ其信託ノ效力ヲ主張シタリ然ルニ裁判官ハ之ヲ認許シテ姪何某ノ權利ハ夫婦財產契約中ニ包含スル信託ニ依リテ完全ナレハ何某ハ自後ノ無償讓受人ニ對抗シテ之ヲ享有スルコトヲ得ヘント判決シ且之ヲ説明シテ曰ク今簡單ナル一例ヲ以テ本案ヲ説明センニ例ハ甲者乙者ノ畢生間ノ利益及ヒ乙者ノ死後丙者ノ單純ナル利益ノ爲メニ一財產ヲ保有スルト假定セヨ丙者ハ乙者ノ生存中甲者ノ承諾ナキモ自己所有ノ利益ヲ丁者ニ有效ニ讓與スルコトヲ得ヘク而シテ甲者及ヒ乙者ノ權利ハ爲メニ何等ノ損害ヲモ受クルコト無キニ非スヤ

若シ果シテ然ラハ丙者カ此ノ如クセントスルニハ乙者ニ讓渡ヲ約定スルノ外  
猶ホ他ニ適當ノ方便アルカト

右ノ如ク贈與者ヨリ衡平法上ノ權利ヲ直接ニ他人ニ讓渡スモ其受贈者ノ爲メ  
ニスル信託ハ完全ニ成立シ其權利ハ直チニ受託者ノ保有スル讓與ノ目的物ヲ  
束縛ス可シ而シテ此規則ハ敢テ受託者カ其讓渡ノ通知ヲ受ケタルト否トシ差  
別スルヲ用弗サルナリ即チ「ドナルドソン」對「ドナルドソン」ノ訴件ニ於ケ受託者  
カ讓渡ヲ知ルト否トハ讓與者ニ對スル讓受人ノ權利ニ關係ナシト判決セラレ  
タリ

曾テ或ル訴件ニ於テ大法官トルチル氏カ信託ニ關スル法律ヲ約説シタルモノ  
有リ今之ヲ引用シテ無償ノ信託ニ關スル説明ヲ了ス可シ氏ノ言ニ曰ク無償ノ  
信託ヲ有效ナラシムルニハ贈與者ハ其贈與物ノ性質ニ隨ヒ權利ヲ移轉シ且自  
己ニ對シテ讓與ノ所爲ヲ完全ナラシムル爲メニ必要ナル事柄ヲ履行スルコト  
ヲ要ス而シテ其必要ノ事柄トハ信託ノ目的物ヲ受贈者又ハ受託者ニ讓渡スカ  
若クハ自己カ受贈者ノ爲メニ受託者タルコトヲ公言スル等ノ事柄ニ過キス而

シテ若シ其目的物動産ナルトキハ口頭書面何レヲ以テモ有效ナル信託ヲ設定  
スルコトヲ得ヘシ

乙) 信託ノ未遂ナル場合

右トルチル氏ハ更ニ進ミテ未遂信託ノ場合ヲ説明シテ曰ク信託ヲ有效ナラシ  
ムルニハ必ス前ニ述ヘタル要件ノ一ヲ撰ヒ而シテ之ヲ爲スニ必要ナル事ハ悉  
ク之ヲ行ハサル可カラス若シ然ラサレハ其所爲ハ無効ナリ何トナレハ衡平法  
裁判所ハ不完全ナル贈與ヲ完全ニス可キ條理ヲ有セサレハナリト之ヲ要スル  
ニ氏ノ言ハ無償ナル未遂ノ信託ハ衡平法裁判所ヲシテ之ヲ保護スルノ必要ヲ  
感セシメスト云フニ在リ

第三 信託ヲ以テスル讓渡ノ詐欺ナルカ爲メニ無効ナルモノ有リ之ヲ詐欺  
信託ト云フ今各種ノ詐欺ヲ説明スルニハ之ニ關スル條例ヲ説明セサル可カラ  
ス

(甲) ユリサハス女王第十三年第五章負債主詐欺條例

此條例ニ據レハ負債主カ債主ノ利害ヲモ顧省セス自己ノ財産ヲ他人ニ讓渡ス

トキハ其讓渡ハ全ク無効ナリトス但此條例ハ約報ヲ以テシ且善意ニ爲シタル讓渡ヲ無救トスルコト無シ

此條例ニ所謂詐欺ノ讓渡トハ讓渡人讓受人相互ノ間ニ詐欺アル通常ノ場合ト異ナリ讓渡人カ其一存コテ又ハ讓受人ト共謀シテ讓渡人ノ債主即チ讓渡ノ取引ニハ第三者タル他人ノ利益ヲ妨害セントスル場合ヲ云フモノニテ之ヲ詐欺ノ讓渡ト云フヨリハ寧ロ不應爲ノ讓渡ト云フヲ以テ穩當ナリトス而シテ負債主カ此ノ如ク不應爲ノ事ヲ目的トシテ濫ニ自己ノ財産ヲ他人ニ讓渡ストキハ債主ハ固ヨリ之ヲ無効トシテ讓受人ヨリ其財産ヲ取戻スコトヲ得ルヲ通則トス然レトモ此規則ニ例外アリ即チ讓渡人ニ不應爲ノ事アルヲ知ラスシテ善意ニ且約報ヲ以テ讓受ケタル者ノ權利ハ此規則ニ依リテ無効ト爲ルコト無シ今此條例ヲ詳説セントスルニハ讓渡ノ無償ナル場合ト有償ナル場合トヲ區別スルヲ以テ便ナリ

(一) 讓渡ノ無償ナル場合

此條例ハ讓渡ニ報償ナキヲ以テ直チニ之ヲ無効ナリト爲スコ非ス唯債主ヲ欺

クノ意思ヲ以テシタル讓渡ハ無効ナリト云フモノナリ而シテ其讓渡ハ果シテ不應爲ノモノナルヤ否ヤハ其取引ノ有償ナルヤ及ヒ善意ナルヤ否ヤヲ見テ之ヲ決ス可シ故ニ若シ其讓渡右二要件ノ中其一ヲ缺キ而シテ債主ノ不利益ト爲ル可キ傾アルトキハ設ヒ其取引ハ其當事者及ヒ其代表者等ヲ羈束スルコト有ルモ第三者ニ對シテ全ク無効ナリトス

尙ホ之ヲ細説スレハ善意ナル讓渡ハ報償ナクトモ又債主ノ不利益ト爲ルコト有ルモ此條例ニ依リテ必スシモ無効トセラル可キモノニ非スト雖モ若シ讓渡無償ニシテ且其結果債主ノ不利益ヲ醸ス可キ事情アルトキハ其讓渡ハ常ニ惡意ニ起因ストノ推測ヲ受クルヲ以テ其有效ヲ主張スル者ハ此推測ニ對シテ善意ノ證明ヲ爲ササル可カラズ若シ之ヲ證明スルコトヲ得サレハ其讓渡ハ條例ニ依リテ無効ナリ

昔時ハ無償ノ讓渡ノ場合ニハ單ニ其讓渡ノ當時讓渡人ニ負債アリタリト云フ事實ヲ以テ直チニ其取引ヲ條例違反ノモノトシ債主ノ爲メニ之ヲ無効トスルノ説行ハレ此説ヲ主説スル論者ハ有名ナルウエストベリー侯モ亦同説ナリト想

像スルニ至レリ然レトモ此ノ如キモノハ決シテ條例ノ本旨ニ非ス且ウエストベ  
 リー侯モ固ヨリ此説ヲ執ル者ニ非スト雖モ論者ハ唯侯カ「スピレット」對「ウィロース」  
 ノ訴件ニ於テ爲シタル説明中ノ一節ヲ誤解シテ妄ニ侯ヲ誣ユルモノナリ即チ  
 其説明ニ曰ク讓與ノ無効ヲ主張スル原告ノ債權ニシテ其讓與ノ當時已ニ存立  
 シ居リ且其債權ノ辨濟カ此讓與ノ爲メニ遲延セラレ又ハ不能ニセラレタルコ  
 ト明瞭ナルトキハ負債主讓與ヲ爲シタル後ニ尙ホ辨濟ノ資力アリタルヤ否ヤ  
 ハ之ヲ論スルノ必要ナシト蓋侯ノ意ハ原告己ニ斯クマテ證明シタル上ハ更ニ  
 進ミテ負債主讓與ヲ爲シタル後ニ辨濟ノ資力ナカリキト證明スルヲ用キスト  
 云フニ在リテ負債主讓與ヲ爲シタル後尙ホ辨濟ノ資力アリト云フトモ以テ無  
 償ノ讓渡ヲ支持スルニ足ラスト云フニ在ラサルハ勿論ナリ若シ之ヲ以テ侯ノ  
 所説ナリトシ又英國ノ法律ナリト云ハハ世人皆多少ノ負債ナキ者ナク且讓與  
 ナ爲シテ負債ノ辨濟不能ト爲ルハ稀ナルコ尙ホ有效ナル讓與ヲ爲スコト能ハ  
 スト云フモノニテ其結果讓與ハ一切禁制ナリト云フニ等シカル可シ負債主詐  
 欺條例ノ本旨固ヨリ此ノ如クナラサルハ明確ニシテ唯其無効トスル讓與ハ爲

メニ債權ノ辨濟ヲ著シク遲延スルモノニ限ルナリ  
 右ノ規則ハ「フリーマン」對「ボープ」ノ判決ニ依リテ一層適用ノ區域ヲ擴張セリ即  
 チ其判決ニ據レハ讓與ノ無効ヲ主張スル原告ハ必スシモ其讓與ノ當時自ラ其  
 債主タリシコトヲ要セス讓與ノ後ニ債主ト爲リシ者ニテモ負債主カ讓與ヲ爲  
 スノ當時或ル人ニ對シテ其讓與ニ因リテ辨濟ノ遲延ヲ來ス可キ程負債アリタ  
 ルニモ拘ハラズ之ヲ爲シタルコトヲ證明シテ其讓與ヲ無効トスルコトヲ得ヘ  
 シ換言スレハ讓與後ノ負債ハ其讓與ノ爲メニ辨濟ヲ誤マル可カリシ讓與前ノ  
 負債ノ辨濟スルカ爲メニ起リタルモノナルコトヲ證明スルトキハ讓與後ノ債  
 主ト雖モ其當時ノ債主ニ代リテ等シク讓與ノ無効ヲ訴フルノ權アリトス  
 右ノ如ク無償ノ讓渡ニシテ其結果負債ノ辨濟ヲ遲延セシムルモノハ債主ノ利  
 益ヲ害スル不應爲ノ讓與ト推測セラル可キカ故ニ被告若シ之ニ對シテ善意ヲ  
 リトノ答辯ヲ爲サント欲セハ必ス其讓與ハ辨濟ノ遲延ニ關係ナカリシコトヲ  
 證明セサル可カラズ而シテ如何ナル讓與ハ負債辨濟ノ資力ニ關係シテ不正讓  
 與タルノ推測ヲ起スニ足ルヤ是負債金額ト讓與金額トノ割合並ニ負債主ノ一

般ノ資力、身分等種種ノ事情ニ依リテ判定セラル可キ問題ナレハ今一概ニ之ヲ論スルヲ得ス而シテ單ニ負債アリト云フノミニテハ未タ不應爲タルノ推測ヲ起スニ足ラスト雖モ又全ク辨濟ノ資力ヲ失ヒタリト證明スルニモ及ハサルコトハ既定ノ判決ニ依リテ明カナリ

(二) 讓渡ノ有償ナル場合

賣買又ハ貸金辨濟等ノ如キ相當ノ報償ヲ以テシタル讓渡ハ常ニ善意ナリトノ推測ヲ受リルヲ以テ其レカ爲メ債主カ多少ノ不利益ヲ被ルトモ之ニ對シテ不正意思ノ存在ヲ確證スルニ非サレハ其讓渡ヲ無効トスルヲ得サルナリ但借金其他從前ノ債務辨濟ノ爲メニ財產ヲ讓渡ス場合ト賣買ノ如キ現金其他ノ代償物ヲ即時ニ受取リテ財產ヲ讓渡ス場合ト又其讓渡ス財產カ資産ノ全部ナルト一部ナルトニ由リテ其結果ニ涇渭アリ即チ從前ノ債務ヲ辨濟スル爲メ資産ノ全部ヲ債主ニ讓渡ストキハ其雙方ノ意思ノ何タルヲ論セス是明カニ破産ノ所爲ナレハ他ノ債主ハ其讓渡ノ無効ヲ訴フルニ及ハス却テ其讓渡財產ノ平等分配ヲ請求スルヲ得ヘシ若シ又資産ノ全部又ハ一部ヲ現金ニテ賣却シタルトキ

ハ其結果唯負債主ノ財產ノ形態ヲ變ジタルニ過キサレハ通常之カ爲メニ債主ノ損害ヲ醸スコト無シ故ニ其讓渡ハ常ニ正當ナリトノ推測ヲ受ケ債主ニ於テ其不正ナリトノ明證ヲ舉グルニ非サレハ決シテ其效力ヲ爭フコトヲ得サルナリ若シ又債務辨濟ノ爲メニ資産ノ一部ヲ讓渡ス者ニ至リテハ固ヨリ其正否ヲ論スルニ及ハス但シ實際債務ノ金額ニ超過シタル讓渡ヲ爲サハ其過剩ノ部分ハ無償ノ讓渡ナルコト勿論ナレハ前ニ無効讓渡ノ場合ニ舉ゲタル規則ニ依リテ爲メニ損害ヲ受ケタル債主ハ之カ無レテ訴フルコトヲ得ヘシ(以上エリサヘス 第十三年條例ノ説明ナ了ス)

(乙) エリサヘス第二十七年法第四章

前ニ述ヘタル負債主詐欺條例カ債主保護ノ爲メニ發セラレタル如ク此條例ハ不動産ノ買主ヲ保護スルカ爲メニ發布セラレタルモノナリ即チ此條例ニ依レハ報償ナキ不動産ノ讓渡ハ報償ヲ以テ同一ノ不動産ヲ讓受ケタル買主ニ對シテ無効ナリトス尤モ其買主ノ權利無償ノ讓渡前ニ生シタルトキハ別ニ條例ヲ待タスシテ後ニ爲サレタル讓與ノ無効ナルコト勿論ナレハ此條例ノ適用ハ專

ラ無償讓渡後ニ有償ノ取引アリタル場合ニ限ルモノニテ讓渡人カ一旦人ニ贈與シテ既ニ己レノ所有ナラサル不動産ヲ詐欺ヲ以テ他人ニ賣却スルトキハ無キ有トシテ欺キ賣ラレタル後ノ買主ハ此條例ノ保護ヲ得テ完全ナル所有權ヲ取得シ既ニ所有權ヲ有シタル受贈者ハ却テ其權利ヲ失フモノナリ是甚シキ非理ノ規定ナレトシテ登記法ノ設置ナキ英國ニ於テハ復タ已ムヲ得サルモノナラシ蓋英國ニ於テハミッドルセキス及ヒヨルグノ二州ヲ除ク外不動産ノ賣買ヲ登記スルノ法之ナキカ故ニ他人ノ所有地ヲ詐リテ自己ノ所有地ト呼稱シ以テ買主ヲ騙騙スル者アルモ買主ハ地志口碑又ハ隣人ノ證言ニ頼ルノ外復タ賣主ノ信僞ヲ判別スルニ道ナシ通常賣買ノ目的地ニ全ク關係ナキ者ノ詐欺ニ對シテハ登記ヨリモ却テ此等ノ徵憑ニ依リテ其真正ノ所有主ヲ知ルコト有ル可シト雖モ曾テ自ラ所有主タリシ者カ其既ニ他人ニ讓渡シタル事實ヲ隱蔽シテ買主ヲ欺キ土地ヲ賣ラントスルトキハ地志口碑ノ如キハ却テ其詐欺ヲ助クル好方便タルニ過キサルナリ

テ常ニ之ヲ保管スルヲ以テ右ノ如キ詐欺ハ行ハルルコト無ク縱シ行ハレタリトスルモ其救濟容易ナルカ故ニ別ニ條例ヲ以テ之ヲ規定スルノ必要ナシ是此條例ノ保護スル所殊ニ不動産ノ買主ニ限ル所以ナリ尤モ不動産ノ場合ト雖モ設ヒ無償ニテ得タルモノナレハトテ第三者ノ所爲ヲ以テ妄ニ既得ノ權利ヲ動カスカ如キハ不條理モ亦太甚シキモノナレハ裁判官ハ成ル可ク此條例ノ適用ヲ縮小セント欲シ近時ハ不動産中ノ借受保有産モ若シ其借地契約中ニ何等カ借主ノ義務ト爲ル可キ條項アルトキハ其借受産ハ無償ニテ得タルモノニ非サレハ後日ノ賣買ニ因リテ無効トセラル可キモノニ非スト判決スルニ至レリ又本條例ニ依リテ利益ヲ蒙ル可キ買主ハ報償ヲ爲シテ讓受ケタル者ニ限ルコト固ヨリナリ然レトモ其報償トハ必スシモ金錢其他ノ財物ニ限ルニ非ス英國ニ於テハ婚姻ノ如キモ亦之ヲ有償ノ報償トシ男女互ニ婚姻ヲ爲スノ契約ヲ以テ土地ヲ讓渡シ而シテ後結婚スルトキハ其讓渡ハ此條例ニ依リ買主ニ對シテ無効ト爲ルモノニ非ス但其讓渡ハ必ス結婚前ノ契約ニ基キタルモノナラサル可カラズ何トナレハ既ニ夫婦ノ關係ヲ生シタル後ニ於テハ既成ノ婚姻ヲ以テ



亦有價ノ報償ト謂フ可カラサレハナリ然ルニ裁判官ハ結婚後ノ讓渡モ成ル可ク之ヲ有效ニセント欲シ甚タ輕微ノモノタリトモ別ニ報償ト爲ルモノ有ルトキハ之ヲ採用セント務ムルモノ如シ例ヘハ「ヒウイソ」對「ニコラス」ノ訴件ニ於テ夫ハ妻ノ不動産ニ關シテ其所得ヲ收ムルノ權利アルニ拘ハラス結婚後ノ契約ヲ以テ其不動産ヲ妻ノ畢生間同人ノ爲メニ保有シ而シテ其殘留產ヲ生兒ニ付與スルノ取極ヲ爲シタリ然ルニ裁判官ハ之ヲ有效ノ取極トシテ夫カ妻ノ不動産上ニ有スル所得ノ權利ヲ拋棄シタルハ十分此契約ヲ支持スルニ足ル可キ報償ナリト云ヘリ即チ此場合ニ於テ夫ハ其生兒ノ爲メニ買主ト爲リテ後日其妻ノ爲シタル讓渡ニ對シ右取極ノ有效ヲ主張シタルナリ

尙ホ此條例ノ所謂買主ノ意義ニ付テ一言ス可キコトハ買取主又ハ借地人ノ如キモ亦買主ト看做サレ其受用スル權利ノ範圍ニ限リテ此條例ノ保護ヲ受ク可シ而シテ又其賣主タル者ハ無償ノ讓渡ヲ爲シタル者ト必ス同人ナラサル可カラス設シ其買主ニシテ無償讓渡ヲ爲シタル人ノ相續人又ハ受贈者ノ手ヨリ買受ケタル者ナルトキハ其買受ケタル權利ハ即チ前所有主タル無償讓受人ノ權

利ニ外ナラサレハ決シテ此條例ニ依リ買主トシテ保護セラルルコト無カル可キナリ

(丙) 詐欺信託ニ關スル第三ノ條例ハ一千八百七十八年及ヒ一千八百八十二年ノ兩度ニ發布セラレタル不動産讓渡狀條例ナリ此條例ハ最初專ラ動產讓渡人ノ債主ヲ保護スルカ爲メニ設ケラレタルモノナレトモ一千八百八十二年ノ同條例ニ依レハ又讓渡人自身ヲ保護スル規則アリ尙ホ此條例ニ關シテハ後章動產買主講スルニ當リテ之ヲ詳論スルヲ以テ今爰ニ細說セス

(丁) 詐欺信託ニ關スル最後ノ條例ハ一千八百八十三年ニ發布セラレタル破產條例ナリ今同條例ニ依リテ讓渡ノ無効タル場合ヲ列舉スレハ左ノ如シ

(一) 夫ノ固有ノ財產ハ結婚後夫婦間ノ契約ヲ以テ之ヲ讓渡スト雖モ若シ其讓渡後二年内ニ夫ノ破產セルトキハ其讓渡直チニ無効ト爲リ又若シ其讓渡後二年以上十年以内ニ夫ノ破產セルトキハ其讓渡ノ故ラニ債主ヲ欺クカ爲メニセラレタルモノナラサルコト及ヒ其讓渡ノ已遂ニシテ讓渡人ノ收利全ク讓受人ニ移轉シタルコトヲ證明スルニ非サレハ其讓渡ハ無効ナリトス尤モ夫カ

婚姻ニ因リテ得タル財産ハ結婚後ト雖モ夫婦間ノ契約ヲ以テ妻及ヒ其子ノ爲メニ自由ニ之ヲ處分スルヲ得ルハ勿論ナリトス

(二) 將來ニ取得ス可キ利益ヲ讓渡スノ約束ハ事後讓渡人ノ破産ニ因リテ無効ト爲ル可シ其但破産以前ニ讓渡人實ニ其収益ヲ獲得シ且約束ニ從ヒテ之ヲ讓渡人ニ移轉シタルトキハ此限ニ在ラス

(三) 負債主破産宣告前三个月内ニ特ニ債主中ノ一人ノ爲メニ自己ノ財産ヲ讓渡シ以テ他ノ債主ノ不利益ヲ醸シタルトキハ其讓渡ハ無効ナリ

第四 債主ノ爲メニスル信託

余輩ハ曾テ讓渡人カ讓受人ノ爲メニ自ラ受託者タルヘキコトヲ公言シタルトキハ其信託ハ己遂ニシテ又讓渡人ノ隨意ニ消取ス可カラサルモノナルコトヲ知レリ今此ニ説述セント欲スル所ハ右信託ノ公言ト似テ非ナルモノニシテ負債主カ債主ノ爲メニ自己ノ財産ヲ受託者ニ信託シテ負債ノ償還ニ充テントスルモ其信託者ハ負債主ノ隨意ニ取消シ得ヘキモノナリ但債主ニ於テ負債主カ此ノ如キ信託ヲ爲シタルヲ知リ之ヲ認諾シタルトキハ負債主ノ隨意ニ取消シ

得ヘキ限ニ在ラスト雖モ債主ノ之ヲ認諾セサル間ハ負債主如何ニ鄭重ナル方式ヲ以テ信託ヲ爲スモ其ハ唯自己ノ便宜ヲ以テ負債償還ノ方法ヲ定メタルニ過キサレハ其信託ノ受用者タル者ハ債主ニ非スシテ負債主自身ナリ故ニ負債主ハ何時ニテモ隨意ニ之ヲ取消シ又ハ變更スルコトヲ得ヘシ例之ハ「ウヰルウヰン」對テ「ト」ノ訴件ニ於テ甲者自己ノ義務アル年金ヲ支拂ハシムル爲メ其所有地ヲ受託者ニ讓リ且其讓渡狀ニハ年金權ヲ有スル人ノ名簿ヲ添ヘタレトモ讓渡ノ關係人トシテハ之ヲ讓渡狀中ニ記載セザリキ此場合ニ於テ甲者ハ其後右ノ信託ノ趣旨ニ戻リテ同財産ヲ他人ニ讓渡スコトヲ得ト判決セラレタリ「カーラード」對テ「ローダー」ノ訴件モ亦之ト同様ナル事實ナリシカ其判決ニ當リテ一法官ノ説明ニ曰ク此ノ如キ信託カ變更セラレタリトテ債主ハ何等ノ損害ヲ被ルコト無シ業等ハ此信託ニ對シテ無關係ナル第三者ナレハ此信託ニシテ破ルルトモ毫モ其訴權ヲ傷ケララルコト無キカ故ニ又其破託ヲ訴フルノ要ナキナリト

以上ノ訴件ハ皆債主カ信託ヲ知ラザリシ場合ナレトモ債主ノ之ヲ知ラタル場

合ニハ唯債主カ信託ノ成立ヲ認知シタル事實ノミニテ其信託ヲ取消ス可カラサルモノト爲スニ足ルヤ否ヤ此疑問ニ對シテハ古來法律家ノ所說區區ナリシカ近時アクトン[對ウィドグールド]ノ訴件ニ於テ遂ニ之ヲ一決シ債主ニ於テ負債主カ負債償還ノ信託ヲ爲シタルコトヲ知リ而シテ之ヲ承認シ且信倚シタルトキハ負債主其信託ヲ取消スコトヲ得ストセリ而シテ「パイロン」[對マウント]ノ訴件ニ於テハ更ニ債主カ其信託ヲ認諾シタルコトハ必ス或ル明確ナル所爲ヲ舉ケテ之ヲ證明セサル可カラス何トナレハ債主カ之ヲ知リタリト云フトモ別ニ其認諾ヲ表シタル所爲ナケレハ其信託ハ依然債主ニ無關係ナルモノト謂フヲ得ヘケレハナリト判決セラレタリ

第五 衡平法上ノ讓渡ヨリ生スル信託

此信託ハ各種ノ信託中其範圍最モ廣大ニシテ且最モ緊要ナルモノナリ抑衡平法上ノ讓渡トハ本ト普通法ニ於テ讓渡ヲ禁シタル權利ノ讓渡ヲ謂フモノニテ訴訟ニ因リテ取得ス可キ財産若クハ單純ナル希望ニ屬スル利益ノ如キハ普通法之ヲ賣買讓與スルヲ許サスコーク侯其理由ヲ説明シテ曰ク這般ノ者ノ讓渡

ハ健訟ノ弊ヲ醸成シ良民ノ幸福ヲ害シテ徒ニ正理ノ允當ナル施行ヲ妨クルモノナリト然レトモ衡平法ハ夙ニ普通法ノ法則ヲ破リテ單純ナル希望又ハ債權ト雖モ條理上讓渡シ得ヘキモノト爲シ相續者ノ未タ相續セサル財産ヲ讓渡ス約束ノ如キモ尙ホ之ヲ有效ナリトシ後日相續人カ實ニ其財産ヲ相續シタルトキハ必ス右ノ約束ヲ履行セシムルモノナリ

現實ナラサル財産ハ之ヲ讓渡スコトヲ得スト云ヘル古法ハ獨リ衡平法ノ之ヲ犯シタルノミナラス普通法自身モ亦屢之ヲ破レリ即チ流通手形ヲ以テ全ク右ノ規則ヲ例外ナリトスルカ如キ又手形以外ノ債權ト雖モ負債主其移轉ヲ認諾シタルトキハ讓受人ハ負債主ニ對シテ直接ニ其債權ヲ行フコトヲ得ルト爲スカ如キ皆其例證ナリ然ルニ一千八百七十三年裁判所構成條例發布以後ハ讓渡ニ關スル右普通法及ヒ衡平法ノ區別全ク無用ト爲リテ一切ノ債權及ヒ不確定ノ利益ト雖モ全ク有效ニ之ヲ讓渡スコトヲ得ルニ至レリ但此ノ如キモノノ讓渡ハ決シテ讓渡人ノ有シタル利益ヨリモ大ナル利益ヲ移轉スルコト無キハ勿論ナリトス

衡平法ニ於テハ負債主ヨリ自己ノ負債主ニ宛テタル支拂ノ指圖書ヲ債主ニ交付スルトキハ債主未タ其現金ヲ受領セサルモ又保管人ニ於テ未タ其指圖書ヲ知ラサルモ其支拂指圖書ハ既ニ有效ニ讓渡サレタルモノト爲セリ例之ハ「シプロック」對ハ「モン」對ノ訴件ニ於テ甲者其債務者丙ニ宛テタル左ノ指圖書ヲ自己ノ債主乙ニ付與シタリ

余ハ金三百圓ヲ乙者ニ拂渡ス可キコトヲ貴殿ニ委任ス但此金額ハ余カ乙者ニ對スル負債高ナリ

衡平法裁判所ハ之ヲ以テ有效ナル衡平法上ノ讓渡ナリト判決セリ又「ボル」對「アルヘルロー」對ノ訴件ニ於テハ甲者乙者ニ對シテ負債アルニ因リ甲者ノ外國代理店ニ在ル貨物若干ヲ乙者ニ引渡サンコトヲ約束シ且其代理店ノ支配人丙ニ宛テテ右ノ貨物ヲ乙者ノ代理人丁ニ引渡ス可キコトヲ手紙ニテ指圖書セリ然ルニ丙者カ未タ此指圖書落手セサル前ニ甲者ハ倒産シタレトモ外國ニ在ル丙者ハ之ヲ知ラス甲者ノ指圖書ニ從ヒテ終ニ其貨物ヲ丁者ニ引渡セリ此場合ニ於テ衡平法裁判所ノ判決ニ依レハ乙者ハ既ニ該貨物ノ上ニ完全ナル衡平法上ノ權

利ヲ得タルモノニテ倒産管財人ハ又其貨物ヲ乙者ヨリ取戻スコトヲ得サルモノナリ此判決例ヲ以テ推スヘキハ代理人カ未タ引渡ノ指圖書知ラサル間ハ讓受人ニ於テ第三者ニ對シ其權利ヲ主張スルコトヲ得スト雖モ代理人ヘノ通知ハ固ト貨物讓渡ニ必要ナルモノニ非サレハ引渡カ代理人ニ達シタルハ設ヒ讓渡人ノ倒産若クハ死亡ノ後ニ在リトモ決シテ其讓渡ヲ無効ナラシメサルナリ但讓渡人カ只其代理人若クハ負債主ニ向ヒテ支拂ノ事ヲ委任シタルノミニテハ未タ衡平法上ノ讓渡ヲ完成スルニ足ラス此ノ如キモノハ何時ニテモ隨意ニ之ヲ取消スコトヲ得ヘン例ヘハ「ロデ」對「カンデル」對ノ訴件ニ於テ一鐵道會社ノ雇技師甲ハ其會社ヨリ受取ル可キ給料若干アリ之ヲ以テ負債ノ辨濟ニ充テント欲シ同會社ノ代理人丙ニ宛テテ其給料額ヲ債主乙ニ拂渡サンコトヲ委託セリ然ルニ丙ハ之ヲ承諾シ且手紙ヲ乙ニ與ヘテ會社ヨリ取立テタル上甲者ノ負債ヲ償還ス可シト通知シタリ此場合ニ於テ衡平法裁判所ハ甲者ハ只會社ヨリ支拂ヲ受クテ之ヲ乙者ニ拂渡ス可キコトヲ丙者ニ委任シタルニ過キス甲者カ會社ヨリ受取ル可キ金額ヲ乙者ニ讓渡シタルノ證據ハ更ニ無キモノナリト

前述ノ如ク債權ノ讓渡ハ債務者ノ承認ナクシテ之ヲ爲スコトヲ得ヘント雖モ讓受人ニ於テ第三者ニ對シ自己ノ權利ヲ主張セントスルニハ必ス其讓渡ヲ債務者ニ通知スルヲ要ス然ラサレハ讓受人ハ只讓渡ノ約束ヲ受ケタルノミニテ未タ其債權ノ占有ヲ引取ラサルカ故ニ若シ讓渡人詐欺ヲ以テ二重ニ之ヲ賣却シ而シテ後ノ讓受人ニ於テ前者ニ先ク債務者ニ通知シタルトキハ後者ハ法律上優先ノ權利ヲ有シ前ノ讓受人ヲ排除シテ其債權ヲ保有スルヲ得ヘシ是即テ「ダール」對「ホール」ノ訴件ニ依テ定リタル規則ナリトス

又債權ノ讓渡ニ於テ若シ讓渡人ノ權利ニ瑕疵アリタルトキハ假令讓受人之ヲ知ラサルモ其瑕疵ハ常ニ讓受人ノ權利ニ伴フ可シ例ヘハ詐欺ヲ以テ成立シタル債權ハ之ヲ善意ノ買受人ニ移轉スルモ決シテ其瑕疵ヲ消滅セス或ル義務ヲ附帶シタル債權ハ讓受人之ヲ知ラスト雖モ其義務ヲ免カラルコト能ハサルカ如シ但此規則ニハ例外アリ即チ(一)永年月ノ經過其他特別ノ事情ニ因リテ債權ニ附着スル瑕疵又ハ義務消滅シ隨ヒテ讓受人ハ曾テ讓渡人カ有シタルモノヨ

リモ更ニ強大ナル權利ヲ得ルコト有リ又(二)右規則ノ例外トシテ最モ著シキモノハ流通手形ノ場合ナリ即チ爲替手形、約束手形等ノ如キハ商法ニ於テ特殊ノ性質ヲ有シ他ノ一般債權ト異ナリテ殆ト一種ノ有體動産ト同視セララルナリ右ノ如ク衡平法ハ夙ニ債權ノ讓渡ヲ許シタリシモ普通法ハ輒近高等裁判所條例ノ發布ニ至ルマテ固ク舊法ヲ墨守シテ或ル例外ヲ除クノ外一切債權ノ賣買移轉ヲ許サザリシカ終ニ一千八百七十三年同條例發布ノ後ハ書面ヲ以テ債務者ニ通知スルトキハ如何ナル債權ト雖モ之ヲ他人ニ移轉スルコトヲ得ルコトトナレリ但公益ニ反スルカ爲メニ特ニ讓渡ヲ禁セラルル場合ハ此限ニ在ラス今其讓渡ノ不法ニシテ無効ナル場合ヲ列舉スレハ即チ左ノ如シ

(一) 公吏又ハ官吏ノ俸給若クハ手當ノ讓渡

官吏ノ手當若クハ俸給ハ其職務ヲ適當ニ執行セシムルカ爲メ支給セラ  
ルルモノナレハ之ヲ他人ニ讓渡ス可カラサルハ勿論ナリ尤モ非職又ハ  
休職ト爲リテ現ニ職務ヲ奉セサル者ハ此限ニ在ラス

(二) 健訟ノ弊ヲ生ス可キ債權ノ讓渡

例へハ必ス訴訟ヲ提起スルニ非サレハ利益ヲ見ル可カラサル權利ノ讓渡又ハ代言人カ訴訟中ノ債權ヲ買取ルコトノ如シ

以上信託ニ種種ノ體様アルコトヲ説明シタリ今次ニ論述セント欲スル所ハ信託ノ構成ニ必要ナル規則ナリトス

抑有效ナル信託ヲ構成スルニハ別ニ一定ノ法式ナシト雖モ信託ヲ爲スノ意思ハ明確ナルヲ要ス然ルニ遺言狀ヲ以テシタル信託中ニハ往往此意思ノ發表明確ナラヌシテ數爭訟ノ困難ヲ生スルコト有リト雖モ通例或ル財產ヲ他人ニ讓リ而シテ其ノ讓ラレタル人ナシテ同財產ヲ或ル第三者ノ爲メニ處分シ若クハ使用セシメントスルノ意思明白ナルトキハ信託アリタルモノト爲スラングデール侯ハ信託ヲ構成スルニ必要ナル條件ニシテ設定證書ヲ以テ明確ニセサル可カラサルモノニアリト爲ス即チ

第一用語ノ全體ヨリ觀察シテ贈與者カ受贈者ニ信託スルノ意明確ナラサル可カラヌ 例之ハ遺言狀ニ金千圓ヲ甲ニ贈ル甲ハ之ヲ乙ニ與フ可シト云フ如キ必スシモ命令的ノ文字ヲ用ササルモ若シ全體ノ文意ニ依リテ遺言者カ甲

ヲ經テ乙ニ與ヘント欲スルノ意明白ナラハ設ヒ其用語ハ嚴正ニ命令的ナラストモ決シテ信託トシテ乙者ニ受用ノ權利ヲ付與スルヲ妨ケサルナリ之ニ反シテ若シ遺言狀中ニ甲者ニ純然不羈ノ權利ヲ移轉スト云フ如キ文字アレハ設ヒ又甲者ハ乙者ニ贈與セサル可カラスト云フ如キ命令的ノ文字之ニ伴フトモ其ハ甲者ニ贈與シタル不羈ノ權利ト相容レサルモノナレハ以テ乙者ノ爲メニ信託シタルモノト見做ス可カラヌ

第二信託ノ目的物件明確ナラサル可カラヌ 例之ハ「バツキン」對「エーツ」ノ訴件ニ於テ遺言者其不動産ヲ己レノ妻ニ遺贈シテ遺產中ノ不動産ヲ以テ支拂ヒ盡ササル負債ノ償却ヲ委託シ且曰ク我妻ハ必ス又其兒子等ノ利益ヲ忘レサル可シト然ルニ裁判官ハ右證書ノ用語ハ信託ヲ設定スルニ足ラサルニ非スト雖モ其信託ノ目的物件不明ナレハ妻カ兒子等ノ利益ヲ忘レヌシテ彼等ノ爲メニ其謀ヲ爲サントスルモ果シテ孰レノ財產ヲ以テ之ニ充ツ可キヤ遺言者自ラ之ヲ明示セサルカ爲メ本案遺言狀ノ信託ハ之ヲ實行スルニ由ナキナリト判決セリ尙ホ一般ニ之ヲ論スルトキハ或ル人ニ財產ヲ讓リ而シテ同人ノ

死去スルトキ尙ホ剩餘アラハ之ヲ某ニ與フ可シト云フ如キ指令ハ當初或ル人ニ不羈ノ權利ヲ移轉シタルモノニテ其後某ニ遺贈スルトセサルトハ一ニ受贈者ノ隨意ナレハ假令某カ此等ノ指令ニ依リテ何等カノ權利ヲ得ルトスルモ實際其權利ノ目的タル可キ物件ノ存在不確定ナルカ故ニ右ノ如キ指令ハ到底法律上有效ナル權利ヲ某ニ與ヘテ真正ナル信託ヲ成立セシムルモノニ非ス

第三受用者タル人明確ナラサル可カラズ 信託ノ利益ヲ受ク可キ目的人明確ナラサレハ其信託ノ無効ナルコト固ヨリ論ヲ待タズ但信託ヲ設定スルノ意思明カニシテ且其目的物件モ確定セルニ獨リ其受用者タル人明確ナラサルカ爲メニ其信託ニ無効ニ歸スル場合ニ於テハ何人カ該目的物件ノ利益ヲ受ク可キヤ彼ノ受託者ハ只信託ノ爲メニ贈與ヲ受ケタルコト明カナレハ假令其信託カ實行ス可カラサルモノト爲リタルトキト雖モ其贈與物ノ利益ヲ受ケルノ理ナシ故ニ信託者カ此ノ如キ場合ニ於テ將ニ受託者ヲシテ利益ヲ受ケシメント欲スルニ非サレハ常ニ信託者ノ法定相續人ニ於テ其利益ヲ

受ク可キモノトス蓋信託者カ眞ニ贈與セント欲シタル人明確ナラサルカ又ハ既ニ死亡シタルカ爲メ信託者ノ意思ハ終ニ之ヲ果ス能ハサリシト雖モ受託者ヲシテ其利益ヲ被ラシメントハ信託者ノ曾テ想及ハサル所ナリ畢竟信託ノ爲メニ爲シタル贈與ハ其信託ノ無効ト爲ルト共ニ又當ニ無効ト爲ルヘキコト例ヘハ初ヨリ贈與ナカリシニ同シク其目的物ノ其本主又ハ法定ノ相續人ニ歸スルヤ明カナリ余ハ前ニ信託ヲ設定スルニハ一定ノ用語法式ヲ要セスト云ヒタレトモ無償ノ信託ノ捺印證書又ハ遺言狀ヲ以テセサル可カラサルコト勿論ナリ而シテ此等合式ノ書面ヲ以テシタル信託ハ口頭若クハ不合式ノ書面ヲ以テ之ヲ變改スルコトヲ許サズ然レトモ若シ受用者カ其信託ヲ得タルハ受用者自ラ信託者ノ爲メニ或ル口頭ノ信託ヲ爲シタル爲メナリトノ證明アルトキハ裁判所ハ先其ツ所謂口頭ノ信託ヲ審査シ而シテ設シ之ヲ以テ不法ノモノニ非ストスレハ受用者ヲシテ先ツ自己ノ爲シタル信託ヲ實行セシメ然ル後受用者ノ利益タル信託モ亦之ヲ保護スルト雖モ若シ其口頭ノ信託ニシテ不法ナルトキハ受用者ノ利益タル信託モ亦之ヲ保護セサル

ナリ右ノ場合ニ於テ裁判所カ法式ニ依ラサル口頭ノ信託ヲ保護スルハ敢テ  
 不合法ナル無償信託ヲ保護スルニ非ス何トナレハ右受用者カ信託者ノ爲メ  
 ニシタル口頭信託ハ信託者カ受用者ノ爲メニシタル信託ヲ約因トスルモノ  
 ニテ決シテ無償ナラサレハナリ又右口頭ノ信託ノ不法ナル場合ニ台式ノ信  
 託ヲ無効トスルハ詐欺ノ證明ヲ以テ其信託ノ成立ヲ打消スモノニシテ決シ  
 テ口頭ノ證明ヲ以テ信託自體ヲ變改スルニハ非ス  
 前述シタル如ク信託者カ信託ヲ爲スノ意思明カナルモ其信託ノ目的物件又ハ  
 受用者タル人明確ナラサルトキハ其信託無効ニ歸スルト雖モ其目的物件若クハ  
 受用者ハ必スシモ最初ヨリ信託者自身之ヲ明定スルニ及ハス受託者ニ其確定  
 ナ委任スルコト有リ此ノ如キ場合ニ於テ若シ受託者カ或ル事變ニ因リ其委任  
 ノ權限ヲ果ス能ハサルモ敢テ其信託ヲ無効ニ歸セシム可カラズ故ニ裁判所ハ  
 受託者ニ代リテ其委任ノ權限ヲ實行シ以テ信託ノ目的ヲ達セシムルナリ例ヘ  
 ハ「リラズベリ」[對テッド]ノ訴件ニ於テ或ル人遺言ヲ以テ其妻ニ若干ノ財産ヲ  
 遺贈シ其一部ヲ慈善ノ目的ニ使用シ其他ヲ自己ノ親族間ニ分配セシメ而シテ

其各人分配高ノ割合ハ一ニ妻ノ欲スル所ニ任スト曰ヘリ然ルニ其寡婦カ未ダ  
 右委任ニ依リテ分配ノ割合ヲ定メサル内ニ死去シタリシニ裁判所ハ此信託ヲ  
 以テ信託ノ目的物不明ナルモノトハ爲サス却テ裁判所自身ニ右遺贈財産ヲ等  
 分シテ其一半ヲ慈善ニ供シ他ノ一半ヲ遺產分配條例ニ依リ配分ノ權利アル親  
 族間ニ之ヲ分與セリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ右ノ如キ委任權限アル信託ヲ執行  
 スニ當リテ若シ受託者之ヲ自ラセハ其分配高自ラ不平等ナル可キモノモ裁  
 判所之ヲ爲ストキハ同等即チ公平ナリトノ主義ニ依テ常ニ之ヲ平分スルモノ  
 トス明言私信託ヲ講了スル前ニ尙ホ一言ス可キモノ有リ即チ古來衡平法裁判  
 所ハ受用者ノ利益ヲ保護スルコト甚タ親切ニシテ凡ソ受託者ヨリ信託財産ヲ  
 買取ル者ハ信託ノ證書中ニ反對ノ定アルニ非サレハ受託者カ其賣代金ヲ受取  
 リテ之ヲ使用スルニ當リ信託ノ趣旨ニ違ハサルヤ否ヤヲ監視スルノ責任アリ  
 トシタリ尤モ此規則ハ何種ノ財産及ヒ何種ノ信託ニモ總テ之ヲ適用シタルニ  
 非ス且特定ノ負債及ヒ特定ノ遺贈支拂ノ爲メニ信託シタル不動産ノ場合ニノ  
 ミ之ヲ適用シタリシナリ然レトモ猶ホ輓近ニ至リテハ條例ヲ以テ衡平法カ從



來受用者ニ付與シタル失當ノ保護ヲ廢止シ今日ニ於テハ賣主ニシテ若シ真正  
ナラハ買主ハ別ニ其賣主ノ權限ヲ探リ又ハ其權限ノ正常ノ執行ヲ監視スルニ  
及ハサルコトトナレリ

### 第三章 明言公信託

明言公信託トハ公共ノ慈惠事業ノ爲メニスル信託ナリ余カ前章ニ於テ講シタ  
ル私信託ノ規則ハ又各種ノ信託一般ニ適用スルモノナレハ本章ノ公信託モ亦  
或ル特例ヲ除クノ外總テ前章ノ原則ニ依ル可キモノトス故ニ余カ本章ニ於テ  
論スル所ハ專テ前章ノ規則ヲ適用ス可カラサル公信託ノ特例ニ限レリ而シテ  
今之ヲ論スル前ニ先ツ公信託ノ如何ナルモノナルカヲ辯セサル可カラズ  
凡ソ公信託ハ公共ノ慈惠事業ノ爲メニスル信託ナレハ設ヒ慈善ノ目的ヲ以テ  
シタル信託ト雖モ若シ其受用者トシテ利益ヲ被ル可キ者カ特ニ指定セラレタ  
ル一人若クハ數人ニ限ルトキハ其信託ハ即チ私信託ニシテ衡平法ノ所謂公信  
託ニ非ス公信託ニ於テハ其受用者タル人決シテ特定セララルコト無ク其明示

シタル慈惠ノ目的ニ適ヲトキハ何人ト雖モ其恩波ニ浴スルコト得ヘキモノ  
ナリ換言スレハ公信託ノ受用者タル可キモノハ慈惠ト稱スル一ノ無形體ニシ  
テ實際其事業ノ恩ヲ被ル何者タリトモ敢テ之ヲ問ハサルナリ然リト雖モ所謂  
慈惠トハ果シテ何等ノ事ヲ指稱スルモノナルカ其意義甚タ漠然タリト雖モ實  
際ニ於テハ條例及ヒ判決例ニ依リテ略慈惠ト稱ス可キモノノ區域ヲ限定セリ  
即チエリサヘス四十二年第四章ノ條例ニ依リテ慈惠事業ト稱ス可キモノ左ノ  
如シ

老衰或ハ癡疾ナル貧者ノ救助疾病又ハ不具ト爲リタル兵士及ヒ水夫ノ救養  
公私ノ學校並ニ大學學生ノ補助道路橋梁堤坊其他公共築造物ノ修繕禮拜所  
ノ修繕感化院ノ補助孤兒ノ教育貧女ノ婚姻補助若年ナル商工者ノ補助罪囚  
及ヒ捕虜ノ救助貧者納稅ノ補助  
右條例ヲ以テ明定セルモノノ外ニ裁判所カ同例ノ精神中ニ包含スル慈惠ナリ  
ト判決シタルモノハ即チ如ノ左シ

寺院建物内ノ紀念物同上備付樂器ノ修繕禮拜及ヒ祝祭ニ關スル費用ノ補助

大學講義費ノ補助、市府ノ給水費、衛生費又ハ修飾費ノ補助、雇人ノ獎勵、殖民地  
 移住ノ獎勵、家畜ノ保護、其他右ニ類似ノ事業ナリトス  
 右ノ如ク法律上慈惠事業タルモノノ區域ハ略定マリテ上記ノ事業ノ爲メニス  
 ル信託ハ孰レモ皆衡平法ニ依リ特別ノ取扱ヲ被ラサルモノ無シ然レトモ若シ  
 其信託ノ恩波ニ與カル者或ル特定ノ人ナルカ又ハ特定シ得ヘキ人ナルトキハ  
 其目的ハ設ヒ慈善ナリトモ之ヲ以テ所謂慈惠信託ナリト爲サス例ヘハ受託受  
 託者ノ選定スル十人ノ貧僧ニ遺贈スト云フ信託如キハ其目的ハ慈善タルニ外  
 ナラスト雖モ受託者ヲシテ其遺贈ヲ受ク可キ貧人ヲ指定セシムル上ハ其信託  
 ノ受用者タル者ハ特定セラル可キ十人ニシテ夫一般ニ十人ノ貧僧ヲ救助スト  
 云フ公ノ慈惠事業ニハ非ス即チ右信託ノ直接ニ目的トスル所ハ一般ナラスト  
 チ特定シタル簡人ナリ故ニ右ノ信託ハ所謂公信託ニ非サルナリ  
 以上余輩ハ畧公信託ノ何タルヲ知レリ故ニ次ニハ其私信託ニ異ナル特殊ノ點  
 ナ考察セントス  
 從來ノ判決例ニ依ルニ公信託ト私信託トノ差別ノ點ニ付キ三様アリ

第一 公信託カ私信託ヨリモ優リタル保護ヲ被ル點  
 第二 公信託カ私信託ト同等ノ保護ヲ被ル點  
 第三 公信託カ私信託ヨリモ劣リタル取扱ヲ受クル點  
 是ナリ請フ逐次之ヲ辯セン  
 第一 公信託カ私信託ヨリモ優リタル保護ヲ被ル點  
 先ツ公信託ハ如何ナル點ニ於テ私信託ヨリモ優レリヤト問フニ即チ次ノ四點  
 ナリトス  
 甲 遺贈者單ニ慈惠ノ爲メニ一財産ヲ遺贈スト曰フトキハ養育院ニ寄附シ及  
 ハ寺院ニ慈捨スルト云フカ如何ノ何等ノ慈惠事業ノ爲メニスルヤヲ限定セス  
 ト雖モ裁判所ハ其信託ヲ以テ受用者ノ不明ナルモノト爲サス即チ之ヲ保護  
 スルナリ然ルニ若シ右ノ信託ヲシテ私信託ナラシメハ裁判所ハ信託ノ受用  
 者不明ナリトシテ其無效ヲ言渡スヤ必セリ例ヘハ從弟數人アル場合ニ一財  
 産ヲ從弟ノ爲メニ遺スト曰フトキハ其信託ハ私信託ナルニ多數ノ從弟中孰  
 レノ一人ニ遺スノ意ナルヤ不明ナレハ裁判所ハ之ヲ無効トス可シ右ノ如ク

公信託ニ於テハ唯信託者カ慈惠ノ爲サニスルノ意思サヘ明カナレハ實際其利益ヲ受ク可キ者ノ何者タルヲ定メサルモ裁判所ハ之ヲ保護シテ其自ラ至當ト認ムル慈惠事業ノ爲メニ其財産ヲ供ス可シ故ニ其遺贈ハ單ニ慈惠ノ爲メニスト云フニ非スシテ明カニ何何ノ慈惠事業ノ爲メニスルヤヲ指定セル場合ニ於テ實際其指定セラレタル慈惠事業不明ナルカ又ハ不成立ナルカ又ハ成立スルモ財産ヲ所有スル能力ナキ者ナリト雖モ其信託ハ尙ホ有效ナリトス何トナレハ此等ノ場合ニ於テ信託ノ目的即チ受用者タル者ハ常ニ慈惠ト云フ無形體ニシテ信託者ノ指示シ又ハ指示セント企テタル箇箇ノ慈惠事業ハ唯慈惠ノ目的ヲ達スル方法タルニ過キサレハナリ例之ハ或ル人カ遺言狀ヲ以テ余カ別ニ補充遺言狀モテ指定ス可キ慈惠事業ノ爲メニ某財産ヲ信託スト云ヒ而シテ其所謂補充遺言狀ニハ何等ノ指定ヲモ爲サスシテ死去シタルトキト雖モ裁判所ハ其信託ヲ有效トシ而シテ適當ナル慈惠事業ヲ擇ヒテ其財産ヲ寄附スルナリ但以上ノ場合ニ於テ信託者ノ意思ハ必ス判然慈惠ノ目的ニ在ルヲ要ス若シ否ラサレハ其信託ハ無効ナリ例之ハ遺言狀ニ慈惠

事業又ハ其他ノ公共目的中受託者ノ擇フ所ニ任セテ此財産ヲ信託スト云フトキハ遺贈者ノ意思カ斷然慈惠ヲ目的トスルモノナルヤ否ヤ不明ナルカ故ニ其信託ハ無効ナリ然ルニ若シ之ヲ有效ナリトセハ此カ受託者タル者ハ公共ノ爲メト稱シテ實際其信託財産ヲ何等ノ目的ニ使用スルモ隨意ナリ然ルトキハ是遺贈者ノ曾テ希望セサル結果ヲ生スルモノナリ又之ヲ信託ノ要素ヨリ論スルモ右ノ如キ信託ハ確定シタル又ハ確定ス可キ受用者ナキヲ以テ到底無効タルヲ免カレサルナリ  
 前述ノ如ク公信託ニ指定シタル慈惠事業ニシテ不成立又ハ不能力ノ者アル場合ニ裁判所カ他ニ適當ノ慈惠事業ヲ擇ヒテ其信託財産ヲ付與スルヲ「サイプレス」ノ規則ト謂フ「サイプレス」トハ類似ノモノヲ同視スルノ意ナリ然レトモ右「サイプレス」ノ規則ハ信託者ノ意思明カニ其特定シタル事業ニ限ル場合ニ之ヲ適用ス可カラズ例之ハ遺言狀ニ唯其寺院ニ寄附セヨト云フノミニテ尙ホ一般慈惠ノ爲メニスルノ意思明カナラサル時若シ何等カ事情アリテ其特定ノ目的ヲ達スル能ハサレハ其信託財産ハ法定相續人ニ歸スルモノトス

乙 公信託ノ爲メニスル讓渡ハ假令方式上ノ缺點アリトモ其他ノ點ニ於テ完全環瑾ナクハ有效ナリトス之ニ反シテ無報價ノ私信託ハ方式上ニ缺點アルヲ以テ無効トセラルルコト前ニ論シタルカ如シ

丙 公信託ニハ「パーペチュアリー」ノ規則ヲ適用セス此「パーペチュアリー」ノ規則トハ讓渡ヲ以テ財産ノ處分權ヲ永久ニ束縛スルヲ不法トスルノ規定ニシテ例之ハ余カ何某及ヒ其子孫ニ一財産ヲ讓與シ永久其子孫ノ爲メニ信託スト云フトキハ何某及ヒ其子孫ハ永久其財産ヲ處分スル能ハス故ニ此ノ如キ信託ハ不法ニシテ無効ナリ然レトモ公信託ハ大抵其性質上ニ於テ信託財産ヲ永久不動トスルモノナレハ若シ右ノ規則ヲ適用セントスルトキハ遂ニ又慈善信託ノ有效ナルモノナキニ至ラン例之ハ永久何某ノ親族ノ貧困ナル者ノ爲メニ信託スト云フトキハ何某ハ永久其信託財産ヲ他人ニ移轉セスコト之ヲ保存スルヲ要ス然レトモ此信託ハ慈善ナルヲ以テ右「パーペチュアリー」ノ規則ヲ適用セサルナリ

丁 公信託ハ無償ナルモユリサベス第二十七年第四章(詐欺條例)ヲ適用スルノ

限ニ在ラス

第二 公信託ト私信託ト同等ナル點

甲 信託ノ受用者確定スルモ其信託ヲ執行ス可キ受託者ノ定マラサル場合ニハ裁判所之ヲ定ムルコト公信託ニ於テモ私信託ニ於テモ同様ナリトス例之ハ信託者受用者ニ一財産ヲ遺贈スル爲メ後日補充遺言狀ヲ以テ指定ス可キ受託者ニ讓與スルト云ヒ而シテ遂ニ其受託者ヲ定メスシテ死亡シタルトキ又ハ一財産ヲ受託者ノ指定セル受用者ニ遺贈スト遺言シテ而シテ其受託者ヲ指定セサルトキニ於テハ裁判所ハ其信託ノ公ナルト私ナルトヲ問ハス常ニ其受託者タル者ヲ選定シテ其遺言ヲ實行セシム此ノ如キ場合ニ於テハ常ニ事實上ノ所有者確定スルヲ以テ裁判所カ唯其名義上ノ所有者ヲ選定スルハ信託者ノ意思ヲ實行スル正當ノ處置ナリト謂フ可シ

乙 受託者信託ヲ破リテ其信託財産ヲ他人ニ讓渡シタルトキ受用者ノ之ヲ回復スルノ權利カ時効ニ依リテ消滅スルコト公信託及ヒ私信託ニ於テ同様ナリトス尤モ讓受人ニ於テ其破信タルヲ知リテ讓受ケタルトキハ此限ニ在ラ

又破信ノ受託者カ受用者ニ對スル責任ハ決テ時効ヲ以テ消滅ス可カラサルコト勿論ナリトス例之ハ一會社破信ヲ知リテ受託者ヨリ信託財産ヲ讓受ケ之ヲ自己ノ所有トシテ一百五十年間占有シタル後其財産ヲ受用者ノ相續人ニ還付ス可シト言渡サレタルコト有リ

丙 信託ノ一部不法ニシテ無効ナルモ若シ他ノ一部不法ナラスシテ之ヲ分離スルヲ得ルトキハ裁判所カ其不法ナラサル一部ヲ有效ニスルコト公私ノ信託共ニ同様ナリトス但縱令不法ナル部分ト不法ナラサル部分ト分離スルコトヲ得ルモ若シ兩者ノ數量ノ割合明確ナラサルトキハ亦其全部ヲ無効トス又信託ノ證文ニ二様ノ意義アリテ一ノ意義ニ從フトキハ其信託不法ナレトモ他ノ意義ニ從フトキハ合法ナル場合ニ於テハ常ニ其合法ナル意義ニ從フトモノトス是固ヨリ一般證書ノ解釋法ナリ

第三 公信託ノ私信託ヨリモ劣リタル點

衡平法ハ慈惠ノ爲メニ遺産配分ノ次序ヲ變更セス(マーシャリング・アセット)衡平法カ遺産配分ノ次序ヲ變更スルトハ例之ハ負債者二个ノ不動産ヲ遺留シテ死

亡シ而シテ其債主甲ハ其不動産ノ兩個ニ抵當權ヲ有シ債主乙ハ唯其一个ニ付キ抵當權ヲ有スト假定セヨ然ルトキハ裁判所ハ之ヲ兩債主ニ分配スルニ當リテ甲者ヲシテ先ツ乙者ノ抵當權ヲ有セサル不動産ヨリ其貸金ノ辨濟ヲ受ケシメ以テ乙者ノ利益ヲ保護ス之ヲ「マーシャリング・アセット」ノ規則ト謂フ而シテ衡平法カ慈惠ノ爲メニ此規則ヲ適用セスト云フハ例ヘバ遺産ニ動産ト不動産トノ二種アル場合ニ慈惠ハ死手條例ニ依リテ不動産ヨリ其遺贈ノ金高ヲ受クル能ハサルニ遺産中ノ動産ハ一般債主ノ爲メニ取り盡クサレテ復タ慈惠ノ爲メニ剩ス所ナリト雖モ裁判所ハ爲メニ其配分ノ次序ヲ變換セサルヲ云フナリ但遺贈者カ其遺言狀ヲ以テ明カニ配分ノ次序ヲ變更ス可キコトヲ命スルカ又ハ次序變更ノ權限ヲ受託者ニ委任スルトキハ此限ニ在ラス

第四章 默示信託

默示信託トハ信託者ノ默示ノ意思ニ基クモノニテ同種ノ信託中最モ重要ナルモノヲ復歸ノ信託トス今左ニ各種ノ默示信託ヲ列舉シ且之ヲ説明セン

衡平法

第一 復歸信託

讓渡ノ約欠缺スル爲メ讓渡物件ノ利益讓渡人ニ復歸シ以テ所謂復歸ノ信託ヲ生スルコトハ既ニ之ヲ講述シタリ今此ニ講スル所ハ第三者ノ名義ヲ以テ買受ケタル財産ノ利益カ其出資者ニ復歸スル信託ナリトス此ノ如キ信託ノ場合ニ於テハ法律上ノ所有名義カ何人ノ名義ニアルトモ其信託ハ常ニ實際其買受資金ヲ供出シタル者ニ復歸スルコト約因ナキ讓渡ニ於テハ其利益常ニ讓渡人ニ歸スト云ヘル普通法ノ規則ニハ符合スルモノニテ其讓渡財産ノ動産タルト不動産タルトナ問ハス又其所有名義人ノ第三者ノミナルト出資者モ亦連帶ナルト又ハ其他如何ナル人タルモ敢テ之ヲ論セサルナリ故ニ若シ所有名義カ幾人連帶ニシテ其買受資金モ亦各名義人ニ於テ實ニ之ヲ負擔シタル場合ニ各自ノ出資ニ多寡ノ差アルトキハ亦右ノ規則ヲ應用シテ各出資者ノ同財産ニ關スル權利額ヲ判然スルコトヲ得ヘシ即チ其權利額ハ正ニ其出資額ニ比例スルモノナリ

然レトモ若シ讓渡ノ捺印證書ニ實際ノ買主タル出資者ヲ指名セサルカ又ハ名

義上ノ買主カ出資シタリト記載スルトキハ其出資者ハ如何ニシテ其權利ヲ證明ス可キヤ詐欺條例ニ依レハ捺印證書ニ記載シタル事項ハ口頭其他無式ノ證據ヲ以テ之ヲ争フコトヲ得ス故ニ右出資者モ亦證書面ノ買主ヲ争フコトヲ得サルヤ否出資者カ獨リ讓渡物件ノ利益ヲ受ケタルト云フハ法律ノ效力ニ依リテ然ルモノニテ法律ノ效力ニ依リテ生スル信託ハ詐欺條例ノ例外ナリトス加之ナラス右ノ場合ニ於テハ強チ口頭ノ證據ヲ以テ證書面ノ事項ヲ變更スルニ非ス只其讓受人ト稱スル者カ實ハ他人ノ代理者タルコトヲ説明スルニ過キサレハ縱シ其信託ハ條例ノ範圍内ニ在リトスルモ尙ホ敢テ出資者カ其權利ヲ證明スルチ妨ケス何トナレハ證書記載ノ事項ヲ説明スルニ口頭ノ證據ヲ以テスルハ固ヨリ常ニ法律ノ聽ス所ナレハナリ

右ノ如ク復歸ノ信託ハ縱令默示ナリトハ云ヘ當事者ノ意思ニ基クコト勿論ナレハ若シ出資者ノ意思之ニ反對ナリトノ證明アルトキハ復歸ノ信託ハ生セサルモノトス即チ讓受ノ利益ハ出資者獨リ之ヲ受クトハ法律上當事者ノ意思ヲ推測シタル結果ナレトモ若シ其推測ニシテ事實ニ反スルトキハ法律ハ固ヨリ

其推測ヲ捨テテ當事者カ實際ニ有ケル意思ヲ採用ス可シ例之ハ出資者ト名義人ト父子ノ關係アルカ又ハ其他ノ法律上若クハ時トシテ德義上ノ關係ニ由リテ出資者カ名義人ニ對シ養育其他ノ義務ヲ負擔スルトキハ通常出資者ノ爲メニ復歸ノ信託ヲ生スルコト無ク却テ讓受名義人ノ爲メニシタリトノ推測ヲ蒙ルモノトス換言スレハ復歸ノ信託ヲ生ス可キ推測モ此ノ如キ場合ニ於テハ反對ノ推測ヲ生ス可キ證左ヲ以テ相殺セラレルカ故ニ其讓渡證書ハ結局字面通りノ效力ヲ生スルモノナリ

抑出資者ト名義人ト如何ナル關係アルトキハ右ノ如ク反對ノ推測ヲ生ス可キヤ今判決例ニ依リテ之ヲ考察スルニ即チ左ノ如シ

- 一 父子
- 二 准父子 例之ハ私生子、父ヲ失ヒタル孫、妻ノ姪等ノ如シ
- 三 夫婦 但娘ノ私生子即チ私生ノ孫、又ハ密婦等ノ爲メニハ決シテ右ノ反對推測ヲ生スルコト無シ

右讓受名義人ノ爲メニシタル出資ナリトノ推測ハ恰モ出資者自己ノ爲メニシ

タリトノ推測ノ如ク又口頭ノ證據ヲ以テ之ヲ破ルコトヲ得ヘシ即チ其出資ノ當時若クハ之ニ近接シタル前後ニ於テ出資者及ヒ名義人カ爲シタル言語又ハ其他ノ事實ヲ以テ右ノ推測ニ反對ナル證明ヲ爲スコトヲ得但出資者又ハ名義人カ出資ノ後ニ於テ爲シタル言語ハ各之ヲ爲シタル者自身ニ對抗ス可キ證據ト爲ルモ其利益タル證據トハ爲ルコト無シ

以上出資者ノ爲メニスル復歸信託ヲ論シタリ今是ヨリ論セントスル所モ亦復歸信託ノ一種ニシテ殘餘財産ノ復歸信託ト云フ此種ノ復歸信託ハ世間ニ最も普通ナルモノニシテ例之ハ信託者カ其財産ヲ或ル目的ノ爲メニ信託ニ歸シタルモ其信託ノ目的カ其財産全部ヲ用キ盡スコ及ハサルトキ其殘餘ノ財産ノ利益カ信託者ニ復歸スルニ依リテ生スル信託ナリ此場合ニ於テ若シ信託者右ノ殘餘ヲ受戻サスシテ死去スルトキハ其殘餘財産ハ死者ノ法定相續人ニ於テ之ヲ相續ス可キモノトス然レトモ右殘餘信託財産ヲ信託者ニ復歸スルノ規則ハ受用者カ死亡シタルトキ其信託財産ノ利益カ何人ニ歸ス可キヤトノ問題ニ付キ之ヲ適用ス可カラヌ何トナレハ此ノ如キ場合ニ於テハ設ヒ受用者死亡スル

モ其法定相続人アリテ之ヲ相續ス可キコト勿論ナレハナリ尤モ右ノ如キ場合ニ於テ信託カ受用者ノ相續人ノ爲メニ效力ヲ生スルニハ其受用者タル人カ證書ノ效力發生ノトキニ生存シタルカ又ハ通常ノ推測ヲ以テスレハ其時以前ニ死ス可キモノニ非サリシ場合ニ限ルナリ

爰ニ復歸信託ニ關スル一ノ重要ナル規則アリ曰ク單ニ信託ノ爲メニ讓渡サレタル財産ハ縱ヒ其信託ノ目的ノ一部若クハ全部カ履行不能ト爲ルトモ決シテ受託者ニ歸スルコト無シ蓋此ノ如キ場合ニ於テ受託者ハ只信託ノ爲メニノミ所有ノ名義ヲ讓受ケタルモノナレハ其信託カ履行不能ト爲ルトモ更ニ名義上ノ所有者タル理由ヲ以テ其財産ヲ横領スルヲ得サルハ勿論ナル可シ「キング」對「デニソン」事件ノ判決ニ於テ右ノ規則ニ關スル説明アリ其言ニ曰ク若シ余カ負債辨濟ノ義務ヲ附帶シテ余ノ所有ニ係ル不動産全部ヲ姪及ヒ其子孫ニ遺贈スト云フトキハ其遺贈ハ一ノ特別ナル目的ヲ以テスルモノナレトモ管ニ其目的ノ爲メノミニハ非ス然レトモ負債辨濟ノ爲メニ不動産ヲ遺贈スト云フトキハ其遺贈ハ單ニ負債辨濟ノ爲メニスルノ外復タ他意ナキモノトス故ニ右兩者ノ

效果ヲ對比スレハ其差別ハ即チ下ノ如シ前者ハ特別ナル義務ヲ附帶シナカラモ尙ホ又受託者ノ爲メニシタル遺贈タリト雖モ後者ハ受託者ニ與フルニ意ナク「デ」只特別ナル目的ノ爲メニシタル遺贈ナリ故ニ遺贈カ專ラ信託ノ爲メニセラレ而シテ其信託ヲ果スニ遺贈財産ノ全部ヲ盡スニ及ハサルトキハ其殘餘ノ財産ハ遺贈者ノ嗣子ニ屬スト雖モ若シ遺贈ノ目的專ラ信託ノ爲メノミニ非スシ受託者ノ爲メニシタルモノナルトキハ其信託財産ノ殘餘ハ受託者ノ所有ニ歸スルモノトス

然レトモ若シ單純ニ信託ノ爲メニシタル遺贈ノ場合ニ於テ其信託ヲ實行シタル後尙ホ殘餘ヲ生スルモ其復歸ヲ受ク可キ信託者又ハ其相續人ナキトキハ其殘餘財産ハ遂ニ何人ニ屬ス可キヤ國王ト受託者ト孰レカ之ヲ取ル可キヤ今此問題ヲ解説スルニハ不動産ト動産トヲ區別スルヲ要ス

先ツ不動産ニ關シテハ普通法ノ規則ト輓近發布セラレタル條例ト矛盾セリ普通法ニ於テハ受用者ノ絶ヘタル不動産ハ受託者ニ屬スルモノトス蓋國王ハ土地ノ最上權利者トシテ「エスチート」ニ「エスチート」トハ相續人ナキ土地及ヒ其他



所有主ノ絶ヘタル不動産ヲ没收スル國王ノ特權ナリヲ以テ所有者ナキ不動産  
 ナ没收スルコトヲ得ルト雖モ信託財産ノ如キ假ヒ其受用者ナキモ法律上即チ  
 名義上ノ受用者アル不動産ハ之ヲ没收スルコトヲ得サルナリ然ルニ一千八百  
 八十四年ノ無遺囑遺產處分條例ニ依レハ如何ナル場合ニ於テモ信託財産ノ復  
 歸ヲ受ク可キ人絶ヘタルトキハ國王常ニ之ヲ没收スルコトヲ爲レリ而シテ此  
 不動産没收ノ規則ハ獨リ現實ナル不動産ニ適用ス可キノミナラス衡平法上變  
 更ノ規則ニ依リテ不動産ト看做サル可キ動産ニモ亦之ヲ適用ス可シ  
 次ニ復歸ヲ受ク可キ人ノ絶ヘタル信託財産カ動産ナル場合ニ於テハ無主物没  
 收ノ特權ニ依リテ國王常ニ其動産ヲ收取スルモノトス尤モ信託者カ此ノ如キ  
 場合ニ其動産ヲ受託者ニ與ヘントスルノ意思ヲ明示スルカ又ハ信託者ニ此ノ  
 如キ意思アリタリトノ推定ヲ爲シ得ヘキトキハ此限ニ在ラサルコト勿論ナリ  
 以上各種ノ復歸信託ノ外尙ホ變更ノ規則ニ依リテ生スル一種ノ復歸信託アリ  
 开ハ變更ヲ講述スルニ當リテ詳論ス可シ

第二 コモン・ラフ・ナニ 共有ヨリ生スル默示信託

會テ講述シタルカ如ク普通法ニ於テハ財産共有者ノ一人他ノ一人ニ先ダチテ  
 死亡シタルトキハ生存者カ其死跡ヲ兼併シテ其財産全部ヲ占領スルノ規則ナ  
 レトモ衡平法ハ同等即チ公平ナリトノ格言ニ依リテ可及的此ノ如キ不公平ノ  
 結果ヲ生スル共有ヲ避ケントシ兩名ノ人カ各同額ノ出資ヲ以テ一ノ財産ヲ買  
 受ケ又ハ讓受ケタルトキノ如キ之ヲ共有ナラストスルノ證據一モ具ハラサル  
 場合ニハ已ムテ得ス普通法ノ規定ニ默從スト雖モ若シ何等カ右ノ如キ證據ヲ  
 發見シタル場合ニハ斷シテ其共有タルコトヲ拒ミ以テ死跡兼併ノ不公平ヲ避  
 クルモノナリ今其一二ノ例ヲ舉グレハ共有者ノ買代金出資額不同ナルトキ又  
 ハ共有カ商事上ノ所爲ニ属スルトキハ衡平法ハ常ニ之ヲ以テ財産ノ通有ト看  
 做シ共有者ノ一人死去シタル爲メ財産全部ノ法律上ノ所有ハ生存者ニ專屬ス  
 ルト雖モ死者ノ出資額ニ對當スル一部ノ財産ヲ付テハ生存者ハ只其死者ノ相  
 續人ノ爲メニ受託者トシテ所有名義ヲ保有スルコト過キストスルナリ

第五章 法定信託

衡平法

法定信託ハ法律ノ規定ニ依ルモノニシテ其前三章ニ講シタル明言及ヒ默示ノ  
兩信託ト異ナル所ハ彼ハ當事者ノ意思ニ基キ此ハ更ニ之ヲ願ミサルニ在リト  
ス今法定信託中ノ重要ナルモノヲ列舉スレハ即チ左ノ如シ

第一 衡平法上ノ留置權

此留置權ハ地役權ノ如ク對物ノ權利ニ非ス又普通法ノ留置權ノ如ク留置サル  
可キ物件ノ占有ヲ必要トスルモノニモ非ス唯其物件ニ關スル取引ニ付キ或ル  
請求權ヲ有スル者カ其物件ノ現有ニ對シテ之ヲ追求スルノ權利ナリトス

甲 賣主ノ未濟賣代金ニ對スル留置權

賣主カ賣品ヲ引渡シテ而シテ其代金ノ一部若クハ全部ノ辨濟ヲ受ケサルト  
キハ假ヒ其賣渡證書ニハ代金已濟ト記シタリトモ尙ホ賣主ハ買主及ヒ其無  
償讓受人ニ對シテ該物件上ニ留置權ヲ留保スルコト敢テ其爲メニシタル特  
約ノ有無ニ關セサルナリ然レトモ此ノ如キ場合ニ於テ賣主ハ任意ニ其留置  
權ヲ拋棄スルヲ得ルハ勿論ナリ

但右留置權ノ拋棄ハ單ニ賣主カ買主ヨリ別ニ保證ヲ受取リタリトノ事實ヲ

以テ之ヲ指定ス可カラズ其保證ヲ受取リタルハ即チ爾後專ラ其保證ニ依賴  
シテ復タ賣渡物件ヲ願ミサルノ意思ヲ以テシタリトノ證明アルヲ要ス之ヲ  
要スルニ賣主カ留置權ヲ拋棄シタルヤ否ヤハ一ニ賣主ノ意思如何ニ關スル  
モノナレハ縱ヒ賣主カ別ニ何等ノ保證ヲ受取ラサルモ尙ホ其留置權ヲ拋棄  
シテ單ニ買主自身ノ信用ニ依賴シタルコトヲ證明スルヲ得ルハ勿論ナリ之  
ニ反シテ若シ賣主カ保證物ヲ受取リタルハ之ヲ以テ賣代金ニ換ヘタルモノ  
ナリトノ證明アルトキ賣主ハ其留置權ヲ失ヒタルモノトス例之ハ「ポックラン  
ド」對「ホックテル」ノ判決ニ曰ク本案ノ賣買ハ年金權ヲ保證トシタルモノニ非ス  
シテ年金權設定ノ捺印證書ヲ保證トシタリシモノナリ而シテ賣主ハ既ニ其  
捺印證書ヲ取得シタルヲ以テ其賣價全部ノ辨濟ヲ受ケタルモノト爲ス可  
故ニ其後賣主カ其年金延滞ニ關シテ請求ス可キ救濟ハ右ノ年金權證ニ基キ  
タル違約延滞ノ請求ヲ以テス可ク賣主ノ留置權ニ因ル賣代金ノ請求ヲ以テ  
ス可カラスト又例之ハ一ノ土地賣買ニ付キ現金三千圓及ヒ約束手形三千圓  
ヲ保證トスト云ヒ而シテ賣主カ右三千圓及ヒ約束手形ヲ受取リタルトキハ

又其留置權ヲ主張スルヲ得サルナリ然レトモ若シ賣價ヲ六千圓ト定メ其半金ハ現金ヲ以テ残り半金ハ約束手形ヲ以テ之ヲ支拂フ可シト約束スルトキハ其三千圓ノ約束手形ハ單ニ支拂ノ方法タルニ過キス賣渡ノ約因タルモノハ都合六千圓ノ金員ナルカ故ニ買主若シ期限ニ至リテ其約束手形ノ支拂ヲ怠ルトキハ賣主ハ未済代金ヲ請求シテ其留置權ヲ主張スルヲ得ルナリ又右賣主ノ留置權ハ何等ノ人ニ對シテ之ヲ行フコトヲ得ルヤト問フニ即チ左ノ如シ

一 買主自身其嗣子若シハ其他當人等ヨリ無償ニ讓受ケタル者又ハ前主ニ買代金未済ノ事實アルヲ知リテ買受ケタル人等ナリ而シテ代金未済事實ヲ知ラス善意ニ買受ケタル者ト雖モ未タ其代金ヲ皆済セサル中ニ其事實ヲ知リタルトキハ亦其未済代金ニ付キ原賣主ヨリ直接ノ請求ヲ受クルモノトス何トナレハ第一ノ買主カ未タ代金ヲ辨済セサル中ハ第一賣主ニ對シテ其代金ニ付キ受託者ノ位置ニ立ツカ如ク第二ノ買主モ亦第一ノ買主(即チ自分ノ爲メニハ賣主ノ代金未済ナル爲メ己レカ支拂フ可キ代金モ終

ニ第一ノ賣主ニ歸ス可キモノナリト知リタル以上ハ衡平法上其代金ニ付キ第一ノ賣主ニ對シ受託者ト看做サル可ケレハナリ

二 破産跡引受人

破産跡引受人ハ常ニ破産者ノ義務及ヒ責任ヲ負擔スルモノトス

三 賣買ノ目的物カ單ニ衡平法上ノ利益タルニ過キサルトキ即チ賣買物ノ

法律上ノ所有名義カ當事者以外ニ存スルトキハ最初ノ買主ハ其買主及ヒ其承繼人ニ對シテ常ニ其留置權ヲ主張スルヲ得何トナレハ單ニ衡平法上ノ權利ニ付テハ日附ノ前ナルモノ常ニ優先ナレハナリ

之ニ反シテ報償ヲ以テシタル善意ノ買主カ其賣主ニ原買代金未済ノ事情アルコトヲ知ラスシテ法律上ノ所有權ヲ收得スルトキハ原賣主ノ留置權之ニ及フ能ハス何トナレハ斯ノ如キ場合ニ於テハ衡平法上ノ條理雙方同等タルカ故ニ法律上ノ名義ヲ有スルモノ常ニ優先權ヲ有スレハナリ又假令當事者雙方ノ條理同等ニシテ且孰レモ法律上ノ名義ヲ有セサル場合タリトモ原賣主カ懈怠ニ由リテ其留置權ヲ失フコト有リ例ヘハ「ライズ」對「ライズ」ノ訴件ニ於テ甲者乙者

ニ或ル土地ヲ賣渡スニ當リ其賣渡證書ニ代金皆濟ノ旨ヲ記シ通常ノ書式ニ從ヒテ其受取ヲ證書ニ裏書シテ之ヲ買主ニ交付シタリ然レトモ實際賣主ハ其賣價ノ一部ノ受取方ヲ數日間猶豫シ置キタルナリ然ルニ買主ハ右賣渡證書ヲ交付セラレタル翌日之ヲ丙者ニ質入シタル儘遂ニ賣主ニモ質取主ニモ辨濟ノ義務ヲ果サスシテ失踪シタリ此場合ニ於テ丙者ハ質取主トシテ單ニ衡平法上ノ權利ヲ有スルニ過キス且其權利ノ日附モ甲者ヨリ後ニ在リト雖モ尙ホ甲者ニ先タチテ該財産ヨリ辨濟ヲ受クルノ權利アリト判決セラレタリ其判決ノ理由ハ主トシテ甲者カ自己ノ懈怠ニ依リ代金已濟ノコトヲ公言シタルハ第三者タル質取主ニ向ヒテ乙者ハ該財産ニ付キ法律上並ニ衡平法上ノ完全ナル所有者ナリト保證シタルニ均シト云フニ在リ而シテ右ノ訴件ヲ以テ決定セラレタル規則ハ輒近千八百八十一年條例第五十五章讓渡條例ヲ以テ更ニ之ヲ確定セラレタリ

乙 買主ノ留置權

賣主カ代金ノ辨濟ヲ受ケスニテ引渡シタル物件ニ付キ留置權ヲ有スル如ク

買主モ亦其未タ物件ノ引渡ヲ受ケサル以前ニ支拂ヒタル代金ニ付キ留置權ヲ有シ其賣買ノ目的物ヲ追隨シテ賣主其他同人ヨリ無報酬ニ讓受ケ又ハ情ヲ知リテ買受タル者ニ對シ其已濟ノ懈怠金ヲ回復スルコトヲ得ルナリ

一 賣主及ヒ買主ニ屬スル衡平法上ノ留置權ニ次テ最モ必要ナル法定信託ハ借地產ノ權證書替ヨリ生スルモノ是ナリ例ハ甲者乙者ノ爲メニ自己ノ名義ニテ十個年間ノ約束ヲ以テ一ノ不動産ヲ借受ケ滿期ニ至リ借受證書ヲ書替ヘテ更ニ又十個年借受ノ約ヲ爲シタルトキハ縱令其書替ヘタル證書ハ甲者ノ名義ニシテ且甲者ノ爲メニスルモノナルコトヲ明記スルトモ其書替ノ利益ハ依然乙者ニ歸シ受託者カ善意ナルモ將惡意ナルモ又假令貸主カ明カニ受用者ノ爲メニスル書替ヲ拒ムトモ常ニ同様ノ效果ヲ生ス之ヲ要スルニ凡ソ他人ノ利益ヲ委託セララル者カ其委託ノ目的物ニ關シテ行フ總テノ所爲ハ必ス其受用者ノ爲メニス可キモノナレハ其所爲ヨリ生スル總テノ利益ハ當事者ノ意思如何ニ拘ハラズ當然受用者ニ歸スルモノトス而シテ右ノ規則ハ獨リ之ヲ純然タル受託者ニ適用ス可キノミ

衡平法



受託者及ヒ之ニ類似ノ義務ヲ負擔スル者カ受託セラレタル借受財産ノ權證ヲ書替ヘ以テ使用者ノ利益ヲ致シタルトキハ又右ノ規則ニ據リテ其書替ノ費用ニ付キ受用者ニ對シテ留置權ヲ有ス可シ之ヲ概言スレハ或ル權利關係ニ由リテ他人ノ財産ヲ管理スルノ責ニ任スル者ハ其財産ニ付キ本主ノ利益ヲ爲メニ必要ナル所爲ヲ行ヒタルトキハ其所爲ヨリ生シタル必要ノ費用ヲ辨償セシムルカ爲メ留置權ヲ有ス

三 普通法ノ規定ニ據レハ質取主ハ期限ニ至リ質物タル自由財産權ニ付キ流質ノ手續ヲ施サス無遺囑ニテ死亡スルトキハ其不動産ハ家督相續人ニ移轉スルト雖モ衡平法ニ於テハ不動産質ト雖モ尙ホ單ニ動産タル債權ノ抵當ト看做スカ故ニ質取主カ死亡スルニ當リテハ其不動産ニ關スル權利ハ死跡管財人ニ歸ス可キモノト爲ス然レトモ凡ソ不動産ノ法律上ノ名義ハ普通法ノ規則ニ依リテ固ヨリ家督相續人ニ歸ス可キカ故ニ衡平法ハ彼ヲ以テ死跡管財人ノ爲メニ受託者ノ位地ニ立ツ者ト爲シ且若シ死者ニ負債アレハ他ノ動産ト共ニ債主ノ請求ニ應ス可キモノトス

法定信託ハ常ニ法律上ノ所有名義ヲ有スル者ニ反對シテ設定セララルモノニテ賣主並ニ買主ノ留置權及ヒ其他ノ場合ニ於テ裁判所ハ先ツ何人カ法律上ノ名義ヲ有スルヤヲ尋釋シ之ヲ有スル者ニ反對シテ法定信託ヲ設定スルモノナリ此原理ハ甚ダ簡單ナルモノニ似タレトモ實際之ヲ適用スルニ當リテハ往往忽諸ニ附スル爲メニ甚シキ錯誤ニ陥ルモノ有リ現ニ「レスリー對フレンドン」ノ事件ニ於テ夫カ妻ト共ニ共有スル財産ニ付キ或ル永久ノ改良ヲ施シタルニ裁判所ハ之ヲ以テ夫ニ留置權ヲ生セサルモノト爲シタルカ如キ全ク此場合ニ於テ妻モ亦法律上ノ名義ヲ有スルモノナルコトヲ看過シタルカ爲メナリ

### 第六章 受託者及ヒ其義務

凡ソ何人ニテモ英國ニ住居シテ法律上財産ヲ取得シ及ヒ保有スルノ權能ヲ有シ且其智力及ヒ權力共ニ委託事務ヲ遂行スルニ足ル者ハ受託者タルノ能力ヲ備フルモノトス故ニ假令外國人ナリト雖モ英國内ニ居住シテ右ノ能力ヲ備フルトキハ又受託者タルコトヲ得ルト雖モ幼者、已婚婦、瘋癲者ノ如キ法律上ノ權

能ニ缺クル所アルカ又ハ智力不具ナル者ハ信託ヲ受ケルコトヲ得ス  
凡ソ信託アレハ必ス受託者アリトハ衡平法裁判所ノ大主義ナリ故ニ若シ一ノ  
信託アリテ之ヲ處理スル爲メ明示セラレタル受託者ノ在ラサルトキハ衡平法  
裁判所ハ其信託ノ目的物上ニ所有名義ヲ有スル者ヲ以テ當然其信託ノ受託者  
ト看做スナリ

又若シ此ノ如ク所有名義人カ初ヨリ存在セサルカ又ハ缺乏スルトキハ裁判所  
ハ職權ヲ以テ新ニ受託者ヲ選任ス可シ例ヘハ信託者一ノ信託財産ヲ遺贈シ而  
シテ其受託者ヲ選任セスシテ死亡シタル場合ニ其信託財産若シ動産ナラハ動  
産承繼人ニ於テ若シ不動産ナラハ家督相續人ニ於テ其信託ノ受託者タル責務  
ヲ負フナリ又一旦選定セラレタル受託者カ死亡シ又ハ受託者タルノ能力ヲ失  
ヒ若クハ任務ヲ拒辭スルトキ裁判所ハ直チニ自ラ其職ニ當リ又ハ新ニ受託者  
ヲ選任スルカ故ニ右ノ如キ事故アルモ決シテ信託ノ存廢ニ關係セサルモノト  
ス

受託者ハ實ニ信託ヲ運用スル一機械ニ過キス即チ只受用者ノ爲メニ運動スル

奴僕ニ均シキモノナレトモ其運動ハ必ス衡平法ノ規則ニ由リテ支配セラル可  
キ義務アルカ故ニ若シ之ニ背クトキハ其實實ニ受託者自身ニ在リ故ニ受託者  
ハ一方ニ於テ受用者ノ奴僕ニ似タリト雖モ他ノ一方ニ於テハ必スシモ受用者  
ノ意思ニ由リテ左右セラルルモノニ非ス却テ自己ノ職務トシテ受用者ノ行爲  
ヲ檢束ス可キ義務即チ職權ヲ有スルナリ然レトモ信託ノ受用者ハ其受託者ニ  
對シテ何時ニテモ其職務タル行爲ヲ強フル爲メ訴ヲ提出スルコトヲ得ルノミ  
ナラス若シ受託者カ信託ノ權限ヲ超ヘ又ハ其職務ニ背カントスルノ恐アルト  
キハ則チ裁判所ニ其事情ヲ疏明シテ其行爲ヲ禁止スルノ命令ヲ請フコトヲ得  
一旦就職ヲ託シタル受託者ハ左ノ三種ノ方法中其一ヲ以テスルニ非サレハ爾  
後決シテ其職ヲ辭スルコトヲ得

第一 信託設定ノ證書ヲ以テ付與セラレタル辭任ノ自由ニ由リテ退職スル  
コトヲ得

第二 總テノ信託關係人カ法律上ノ獨立者(財産ヲ所有シ且之ヲ使用處分ス  
ル等法律上全然獨立ノ權能ヲ有スル一箇人ヲ謂フ故ニ幼者、已婚婦ノ如キ

ハ所謂謂立者ニ非スタル場合ニ於テハ信託關係人總體ノ承諾ヲ得テ辭職  
スルコトヲ得

第三 裁判所ノ認許ヲ以テ退職スルコトヲ得

右三種ノ辭職方法中獨リ第一種ノミハ格別ノ費用ヲ爲サスシテ之ヲ行フコト  
ヲ得ヘント雖モ其他第二及ヒ第三ノ方法ニ至リテハ容易ニ之ヲ行フコトヲ得  
ス就中第三種ハ退職ノ已ムヲ得サル事情ヲ十分ニ辯明スルニ非サレハ裁判所  
ハ概シ之ヲ許サス又第二ノ方法ハ總テノ信託關係人カ獨立者タルヲ要スト雖  
モ信託ハ多ク幼者已婚婦ノ如キ法律上ノ無能力者ノ爲メニ設定セラルルノミ  
ナラス信託關係人ノ一部カ未タ實際ニ生存セサル場合サヘ甚タ多シ故ニ此第  
二ノ方法ニ由リテ受託者カ退任マタルノ實例ハ古來絶無僅有ナリト云フモ過  
言ニ非ス

又受託者カ死亡マタル場合ニ於テ信託設定者ノ明示マタル繼任者ナキトキハ  
裁判所其職權ヲ以テ其後任者ヲ選出スルコト前ニ述ヘタル如クナレトモ若シ  
受託者數人アル場合ニ其一人カ死亡マタルトキハ其任務ノ全體生存者ニ歸ス

ルコト恰モ法律上ノ共有者ノ一人カ死亡スルニ因リ其權利ノ全部生存者ニ歸  
スルト同様ナリ

右ノ如ク受託者ハ濫ニ其職ヲ辭スルコトヲ得サルノミナラス又他人ヲシテ其  
職務ヲ代理セシムルコトヲ得ス而シテ若シ恣ニ其職務ヲ他人ニ代理セシムル  
モ受用者ニ對シテハ常ニ自ラ其責ニ任セサル可カラサルナリ但右信託事務代  
理ノ禁制ニハ左ノ例外アリ即チ受託者カ其信託事務ヲ處理スルニ當リテ他人  
ヲ用キル事ノ已ムヲ得スシテ必要ナル場合ニハ之ヲシテ其事務ヲ代理セシム  
ルコトヲ得ヘシ例ヘハ倫敦ニ在ル受託者カニョーカッスルニ於テ信託財産ニ關  
スル支拂ヲ爲サントスルニ當リニョーカッスルニ在ル一友人ニ之ヲ委託シタリト  
モ若シ其選任シタル代理者カ相當ノ人ニシテ且其事情ハ受託者自ラ己レノ事  
務ヲ處理スルニモ亦必ス他人ヲシテ之ヲ代理セシムル場合ナラハ則チ其  
代理委任ハ必要ニシテ且正當ナルモノナルカ故ニ受託者ハ其代理人ノ爲シタ  
ル事務ニ關シ受用者ニ對シテ其責ヲ負フコト無シ但右ニ述ヘタル如ク受託者  
カ其職務上ノ事ヲ他人ニ代理セシメ而シテ自己ノ責任ヲ免カルルハ只其代理



委任カ自己ノ事務ヲ處理スルトキト同様ノ注意ヲ以テセラレタルトキニ限ルカ故ニ若シ其代理人ヲ選定スルニ當リテ受託者ニ何等カ不注意ノ責アルトキハ受用者ニ對シテ其責ヲ免カレサルコト勿論ナリ

右ハ受託者ノ代理人選定ノ事ニ關スル責務ヲ論シタルモノナレトモ尙ホ其一般信託事務ノ處辨ニ關シ受託者カ負フ責任如何ト問フニ受託者ハ普通ノ注意アル者カ自身ノ事務ヲ處理スルト同等ノ注意ヲ以テ信託ヲ處理ス可キ責務アリト約言スルヲ得ヘシ但右ノ規則ハ受託者ノ義務タル行爲ト其任意判斷ニ由ル可キ行爲トニ因リ稍其適用ヲ異ニス

第一 受託者カ其職務上義務トシテ行フ可キ事ニ付テハ最上ノ注意ヲ用弗ルヲ要ス

然ルニ受託者任意ノ判斷ヲ行ヒ得ヘキ場合ニ於テハ只通常ノ智能ヲ備フル人カ自身ノ事務ニ付キ用弗ル注意ヲ爲スヲ以テ足レリトス例ヘハ信託設立者ノ死後受託者正當ノ理由ナクシテ其就職ヲ遷延スルトキハ實際過怠ノ有無ヲ問ハスニテ其責ニ任セサル可カラスト雖モ受託者カ自己ノ任

意ヲ以テ信託財産ノ使用法ヲ取捨スルコトヲ許シタル場合ニ於テハ縱令其使用法當ヲ得スト雖モ若シ其事情ニ於テ自己ノ財産ヲモ同様ニ使用ス可カリシ様ナラハ之ヲ證明シテ以テ其責任ヲ免カルルヲ得ヘシ

第二 凡ソ受託者ハ其職務ニ付キ報酬ヲ求ムルコトヲ得ス

此規則ハ衡平法ノ所謂受託者ハ信託ニ依リテ利益ヲ受クルコトヲ得ストノ原則ニ基ツクモノニシテ其適用甚タ嚴密ナリ故ニ受託者ハ其信託ニ付キ何程時間ヲ費シ又ハ何程勞力ヲ用フルモ現金ヲ以テ立換ヘタル實費ノ辨償ヲ受クルノ外受用者ニ對シテ其勞力ノ報酬ヲ求ムルノ權利ナシ但受用者ト特別ニ契約シテ相當ノ報酬ヲ定ムルハ固ヨリ妨ナシト雖モ裁判所ハ尙ホ此ノ如キ場合ニモ常ニ其契約ノ正當ノ成立ヲ疑フモノノ如ク頗ル綿密ニ其契約ヲ監査シ若シ何等カ不當ナル點アルトキハ直チニ其無効ヲ宣言スルニ躊躇セサルナリ右ノ如ク受託者ハ信託ニ依リテ利益ヲ受クルコトヲ得スト云ヘル原則ノ適用ハ尙ホ又左ノ場合ニ於テハ之ヲ例證ス可シ

例之ハ「ウヰツ」對「マフ」トベリ」侯ノ訴件ニ於テハ受託者ハ其信託ニ依リテ管理

スル獵場ニ於テ自ラ遊獵スルコトヲ得スト判決セラレ文「ドッガー」對「サプス」ノ訴  
 件ニ於テハ受託者カ其信託財産ヲ利用シテ商業ヲ營ムトキハ受用者ハ該信託  
 財産額ノ元利金ニテモ又ハ其商業ノ殖益金ニテモ己レノ欲スル儘ニ擇取スル  
 コトヲ得ヘント判決セラレタリ故ニ此判決ニ依レハ受託者ノ爲メタル商業ニ  
 ヲテ若シ利益アリタルトキハ受用者ハ勿論之ヲ取ル可ク不利益ナリシトキハ  
 受用者其信託財産ノ元利金ヲ取ル可キカ故ニ受託者ハ其信託財産ノ利用ニ依  
 リテ決シテ利益ヲ受クルコト無シ又前章ニ於テ述ヘタル如ク受託者カ信託ノ  
 借地權證ヲ書換フルトキハ其書換ノ利益必ス常ニ其受用者ニ歸スト云フモ亦  
 右ノ原則ノ適例ナリ殊ニ受託者ハ受用者ノ信託財産ヲ買取ルコトヲ得スト云  
 フ規則ノ如キハ右原則ノ適例トシテ最モ著シキ通則ナリトス但受託者カ信託  
 財産ヲ買取ルニ當リテ其財産ノ通常市價ヨリモ高價ニ買取リ又ハ其買取カ受  
 用者ノ發意ニ基キ且市場ニ於テ受用者立會ノ上相當ノ代價ヲ以テ取引シ又ハ  
 其財産カ競賣セラレ而シテ受託者ニ於テ裁判所ヨリ自ラ之ヲ競落ス可キ許可  
 ナ得タルトキハ右ノ規則ノ限ニ在ラス

以上ニ論ンタル諸規則ハ其信託ノ明示サルルト默示サルルト將法定ナルトナ  
 間ハス常ニ一樣ニ之ヲ適用ス可シ故ニ代理人、後見人、共有者、會社取締役ノ如キ  
 衡平法ノ推定ニ依リテ受託者ト同様ノ責務ヲ負フ者ハ皆右ノ規則ニ依リテ支  
 配セラレ其ノ委託ニ因リテ管理スル財産ハ決シテ自己ノ爲メニ之ヲ利用スル  
 コトヲ許サス然レトモ法定信託ハ其性質當事者ノ意思ニ基クモノト大ニ異ナ  
 ル所アルカ故ニ其受託者タル者ノ責任モ亦自ラ明示若クハ默示ノ信託ト差別  
 ナキ能ハス例之ハ「ノックス」對「ガイ」ノ訴件ニ於テ原告ハ生存スル共有者ハ死亡シ  
 タル共有者ノ持分ニ付キ其相續人ニ對シ受託者タルノ責務ヲ負フト論告シタ  
 ルニ裁判官ハ之ヲ説明シテ曰ク生存シタル共有者カ死亡シタル共有者ノ持分  
 ニ付キ受託者タルノ責務ヲ負フハ原告ノ論告ノ如シト雖モ此ノ如キ信託ハ時  
 效ニ因リテ消滅スルモノニシテ當事者ノ意思ニ基クタル信託ノ如ク其效力時  
 效ニ關セサルモノト異ナレリト蓋此說明ニ依レハ法定信託ハ元ト法律ノ推定  
 ニ因ルモノナレハ一旦或ル事情アルニ因リテ其存在ヲ推定スルト雖モ若シ相  
 當ノ時間内ニ當事者ニ於テ其推定ヲ支持ス可キ行爲ヲ爲ササルトキハ當然之

ヲ拋棄シ或ハ免除シタルモノト看做スモノナリ換言スレハ法定ノ信託ハ常ニ或ル請求權ニ基ツクモノナレハ若シ其權利者ニシテ相當ノ時間内ニ其權利ヲ行ハサルトキハ之ヲ拋棄シタルモノト看做ス可キカ故ニ隨ヒテ其結果タル信託モ當然消滅セルモノト推定ス可シ

加之ナラス法定信託ニ於テハ受託者其信託事務ニ關シテ費シタル勤勞ニ對シ報酬ヲ受クルコトヲ得ヘシ善シ法定信託ニ於テハ受託者ト受用者トハ其權利及ヒ能力ニ付キ必ス同等ノ位置ニ立ツモノナレハ彼ノ明示ノ信託ノ如ク專ラ受用者保護ノ目的ヲ以テスルモノト固ヨリ同一視スルヲ得サルナリ

共同受託者カ其同僚ノ行爲ニ付キ如何ナル責任ヲ負フ可キヤ是會テ「タウソレ」イ對セルボウソ」ノ訴件ニ於テ精細ナル研究ヲ經テ決定セラレタル問題ナリ該訴件ニ於テハ甲乙丙丁四人ノ受託者共同シテ一ノ貸地ノ信託ヲ受ケタリ然ルニ最初一年半ノ間ハ甲乙兩人ニ於テ專ラ其貸地料ノ取立ヲ擔任シタリシカ其後ハ丙一人ニテ全ク之ヲ引受ケタリ此場合ニ於テ甲乙及ヒ丁ノ三人ハ丙者ノ取立ノ行爲ニ付キ其責任ヲ負フヤ否ヤ尤モ丙者ハ右貸地料ヲ取立テタル上他

ノ三人ニ協議セスシテ之ヲ受用ノ爲メニ使用シタルニ其使用ノ道ヲ誤リシ爲メ遂ニ損失ヲ醸シタルナリ裁判所ハ右ノ問題ヲ判決シテ曰ク實ニ自ラ取立ヲ爲シタル丙者ノ外ハ甲乙及ヒ丁ニ於テ惡意若クハ重過失ノ責アルニ非サレハ丙者ノ取立ニ付キ責任ヲ負フコト無シト雖モ共同受託者ハ相互ニ其信託財産ノ利益ヲ監視スルノ責アルヲ以テ一旦丙者カ取立テタル財産ニ付キ常ニ其保全ニ注意スルコトヲ要ス然ルニ事此ニ出テスシテ丙者ヲシテ終ニ不利益ナル使用ヲ爲サシメタルハ共同受託者ノ責務ヲ怠リタルノ過失アリト

右ノ判決ハ專ラ單純ナル受託者ノ責務ニ關スルモノナレトモ若シ其受託者カ死跡管財人ナルトキハ此判決ヲ適用ス可カラス何トナレハ數人連帶ノ死跡管財人ハ各別ニ取立ヲ爲シ且支拂ヲ爲スノ全權ヲ有スルカ故ニ獨リ取立ノミナラス支拂ニ付テモ亦同僚互ニ他ノ行爲ニ付キ責任ヲ負フコト無ケレハナリ尤モ共同管財人ノ一人カ不當ノ支拂ヲ爲ス可キコトヲ知リツツ故意ニ之ヲ看過シ爲メニ損害ヲ醸シタル者ハ其賠償ノ責ニ任スルコト勿論ナリ

以上講述シタル訴件ニ付キ少少言ヒ漏シタルコトモ有レハ更ニ講述スルコト

トセシ該事件ニ於テハ甲乙丙丁四人共同受託者トシテ一ノ貸貸地ノ信託ヲ受ケタルニ最初一年半ノ間ハ甲乙兩人ニ於テ其貸地料ノ取立ヲ爲シタルガ其後丙一人ニテ其取立ヲ爲シタリ然ルニ其後丙者カ破産シタルニ由リ貸地料ノ損失ヲ生シタルニ裁判所ハ深ク討議ヲ盡シタル上本案ヲ説明シテ曰ク甲乙兩人カ自ラ取立ヲ擔任シタル最初一年半間ノ貸賃ニ付テハ其責任ヲ免カレスト雖モ其後專ラ丙者一人ニテ取立ヲ爲シタル貸賃ニ付テハ自己等ニ詐欺其他ノ非行アルニ非サレハ其責ヲ負フコト無シ何トナレハ本來共同受託者ハ法律上共同所有者ナルカ故ニ各人自ラ其共有財産ノ收益ヲ受取ル可キ全權ヲ有シ且共同受託者ノ一人ヲシテ專ラ其取立ヲ行ハシムルハ信託財産ノ管理上必要ナル場合モ有ル可キカ故ニ共同受託者ノ一人カ自己ノ權利ヲ以テ取立ヲ爲シタリトテ他ノ取立ニ關係セサル共同受託者ヲ責ムル能ハサレハナリ然レトモ實際取立ニ關係セサル受託者ト雖モ詐欺若クハ故意ヲ以テ同僚ニ取立方ヲ專任セシメ因リテ損害ヲ醸シタルトキハ必ス其責ニ任セサル可カラズ本件ニ於テ甲乙兩者カ丙者ノ貸賃受取證ニ連署シタルハ職務上拒辭ス可カラサル行爲ナル

ニ由リ之ヲ以テ直チニ甲乙兩者カ丙者ノ取立ニ關シ責任ヲ負フト云フコトヲ得サレトモ既ニ兩人カ右受取證ニ連署シタル以上ハ丙者ノ取立ヲ爲シタル事實ヲ知リ居タルコト爭フ可カラズ此ノ如ク既ニ丙者カ信託金ヲ取立テ領収シタルコトヲ知リナカラ其管理法ニ付キ適當ノ注意ヲ爲ス可キ責務ヲ怠リ漫然丙者ニ一任シテ爲メニ損失ヲ招クニ至リタルコト決シテ其責ナシト云フ可カラスト判決セリ蓋本案ノ裁判官ハ右甲乙兩者カ丙者ノ取立ヲ爲シタルコトヲ知リナカラ其處分ヲ丙者ニ權任シタルヲ以テ兩者ノ故意ニ出テタル過失ナリト爲シ以テ其責任ヲ判定シタルモノナリ之ヲ要スルニ共同受託者ハ他ノ同僚ノ受取證ニ連署スルモ其連署ハ規則上之ヲ拒辭ス可カラサルモノナルニ由リ實際自ラ之ヲ取立テタルニ非サル以上ハ單ニ連署ノ事實ノミヲ以テ其受取方ニ付キ責任ヲ負ハシム可カラズト雖モ其受取後ニ怠務アルトキハ其責ヲ免カレサルコト勿論ナリ而シテ此ノ如キ場合ニ於ケル信託金ノ損失ハ實際取立ノ事ヨリ生ス可キモノニ非スシテ多クハ皆爾後ノ怠務ヨリ生スルモノナレハ共同受託者ハ其同僚ノ受取リタル信託金ノ損失ニ付キ責任ヲ免カレサルヲ以テ

通例トス

共同受託者ノ同僚ノ過失ニ關スル責任ハ右ニ述ヘタル如クナレトモ若シ其受託者カ單純ナル遺產管理人ナルトキハ大ニ右ニ異ナレリ蓋遺產管理人カ數人アル場合ト雖モ其職務上ノ取立及ヒ管理ニ付テハ各自別別ニ全權ヲ有スルヲ以テ一ノ遺產管理人ハ他ノ同僚ノ取立及ヒ管理行爲ニ付キ更ニ責任ヲ負ハサルモノトス故ニ若シ同僚ノ受取證書ニ連署スル者アルモ自己ニ自ラ之ヲ爲ササル可カラサル義務アルニ非スシテ任意ニ之ヲ爲シタルモノナレハ法律ノ推測上其受取金ニ付キ自ラ喜ヒテ責任ヲ負ヒタルモノト云ハサル可カラス但受取證ニ連署スルモ實際自ラ金員ヲ受取リタルニ非サルコトヲ十分ニ證明スルトキハ右責任アリトノ推測ヲ打破スルコトヲ得ヘシ尤モ實際自ラ受取ヲ爲ササル管理人ト雖モ怠務ト爲ル可キ過失又ハ怠慢ニ因リテ信託財産ニ損失ヲ醸シタルトキハ單純ナル共同受託者ノ如ク其責任ヲ免カレサルナリ

畢竟總テノ共同受託者ハ形式上ニ於テモ亦事實上ニ於テモ自ラ關係セサル同僚ノ行爲ニ付テ決シテ其責ヲ負フコト無シト雖モ信託財産ノ損失ト爲ル可キ

同僚ノ行爲ニ關シ自身ニ有意ノ怠務タル可キ過失又ハ怠慢アルトキハ必ス其責ヲ免カレサルモノトス

次ニ受託者ノ職務ニ付キ其大要ヲ解説セン

受託者ハ第一信託設定者ノ命ヲ實行シ次ニ信託財産ヲ保全スルヲ以テ其職務ノ主要ナルモノトス詳言スレハ第一ノ職務トシテ最モ重要ナルモノハ信託ヲ受ケタル財産ヲ占有スルコトナリ若シ其信託財産カ單純ナル衡平法上ノ利益ニシテ所有名義カ別人ニ屬スルトキハ受託者ハ其信託ヲ受クルヤ直チニ之ヲ所有名義人ニ通知シテ以テ受託物ヲ占有セサル可カラズ然ラズシテ若シ未ダ右ノ通知ヲ爲ササル内ニ第二ノ讓受人アリテ先キニ通知スルトキハ其占有カ第二ノ人ニ移付セラレルヲ以テ自己ノ優先權ヲ失フモノトス又信託財産カ債權ナルトキハ速ニ此カ取立ニ著手スルヲ要ス而シテ受託者カ此等ノ占有引取ニ關スル必要ノ處分ヲ怠ルカ爲メ受託物ノ損失ヲ醸ストキハ常ニ怠務ノ責ヲ免カレサルモノトス又信託財産タル金錢カ單ニ對人擔保ニ依リテ貸出シアルトキハ成ル可ク速ニ之ヲ引揚クルヲ要ス但信託設定證ニ依リテ對人擔保ヲ以

衡平法

テ信託金ヲ貸出ス可キ權限ヲ許サレタルトキハ此限ニ在ラス  
總テノ信託金ハ之ヲ信託設定證ノ權限ニ依リ又ハ時時ノ條例ニ依リテ認可セ  
ラレタル方法ヲ以テ之ヲ使用シ又ハ管理スルコトヲ要ス而シテ通常條例ニ依  
リテ認可セラルル貸付法ハ政府ノ保證アル會社株式又ハ不動産ノ抵當ヲ以テ  
セル貸付ナリトス

爰ニ右信託金使用ノ方法ニ關シテ受託者ノ責任ニ付キ古來頗ル困難ノ疑問タ  
リシモノ有リ即チ信託者カ信託金ヲ以テ政府ノ公債ヲ買入ルルカ又ハ不動産  
ヲ抵當トシテ貸付クルカ二途ノ中ニ使用ス可キコトヲ受託者ニ命シタル場合  
ニ若シ受託者カ右二方法ノ孰レヲモ實行セザリシトキハ受用者ハ受託者ニ對  
シテ信託金ノ元金及ヒ其利息ヲ求ム可キカ又ハ公債額及ヒ其殖益金ヲ求ム可  
キカ或ハ又右兩者ノ中孰レニテモ隨意ニ撰擇スルノ權利アルヤ輒近ニ至ルマ  
テ議論一決セザリシカトモ遂ニ近頃右ノ如キ場合ニ於テハ受託者ハ信託書ニ  
指定セラレタル使用ノ二方法ニ付キ其一ヲ撰擇スルコトヲ得ルモノナレハ右  
二方法中殊ニ利益少ナキ方ヲ擇フモ隨意ナリ故ニ受託者ニ指定サレタル方法

ナ一モ採用セザリシトテ受用者ハ利益多キ方ヲ擇ヒテ以テ受託者ヲ責讓スル  
コトヲ得スト判決セラレタリ

普通法ニ依レハ遺產管理人ハ死者ノ商業ヲ繼續スルコトヲ得ス但遺言狀ヲ以  
テ特ニ之ヲ爲ス可キコトヲ指命セラレタル場合ハ此限ニ在ラス而シテ其遺言  
ノ指命ハ必スシモ明示ナルヲ要セサルカ如シ又死者カ右ノ如ク商業繼續ノ遺  
言ヲ爲スニハ只遺產中ノ一部ヲ限定シテ之ヲ指命スルモ隨意ナリ若シ死者カ  
明示又ハ默示ノ遺言ヲ以テ右ノ如ク遺產ノ一部ヲ以テ商業ヲ繼續ス可キコト  
ヲ命シタルトキハ遺產管理人又ハ受託者ハ其商業ヨリ生シタル諸ノ債務ニ付  
キ自身ニ責任ヲ負フト雖モ右ノ如ク特定セラレタル遺產ノ一部ヨリ其辨濟ヲ  
求ムルコトヲ得ヘシ而シテ右商業ニ關スル受託者ノ債權者モ亦代位ノ規則ニ  
依リテ受託者ニ代ハリ自ラ直接ニ右特定セラレタル遺產ニ係リ辨濟ヲ請求ス  
ルノ權利アリトス  
本章ニ於テ最後ニ攻究ス可キ問題ハ受託者ニ破信ノ行爲アリタルトキ受用者  
ノ受ク可キ救濟ノ方法はナリ

受託者カ信託ニ背キテ信託財産ヲ轉賣シタル場合ニ若シ讓受人カ無償ノモノナルトキハ受用者ハ讓受人カ信託ノ事實ヲ知リタルト否トナ問ハス之ニ對シテ其財産ヲ追求スルコトヲ得ヘシ又若シ讓受人カ有償ナリトモ信託ノ事實ヲ知リタルトキハ右ニ同シキ規則ヲ適用ス是蓋衡平法ノ所謂條理相同シキトキハ日附ノ前ナルモノ常ニ優先ノ權利ヲ有ストノ原則ニ基クナリ之ニ反シテ若シ其讓受人カ有償且善意ニ法律上ノ所有名義ヲ買得シタルトキハ如何ナル理由ニ依ルモ受用者ハ之ニ對シテ爭抗スルコトヲ得ス又若シ信託者カ信託ヲ破リタル後自己ノ財産ヲ以テ之ヲ償ヒタルトキハ設令其辨償カ受託者自身ノ破産ニ先タツコト基ク近キモ債主ニ對スル詐欺ノ推測ヲ生セス通常ノ場合ニハ此ノ如キ推測ヲ生ス其辨償ハ何人ニ對シテモ常ニ有效ニシテ且確定シタルモノナリトス

### 第七章 變更

變更ノ規則ヲ概言スレハ土地ヲ買受クル爲メニ指定セラレタル金錢若クハ賣

却シテ金錢ニ代フル爲メニ指定セラレタル土地ハ各其指定ノ主旨ニ從ヒ實際未ク土地若クハ金錢ト變更セラレサルモ恰モ既ニ變更セラレタル如ク看做サルニアリ而シテ此規則ハ其變更ノ指定カ遺言ニ因ルモ契約ニ因ルモ又ハ夫婦間ノ財産契約ニ因ルモ總テ其條約ヲ同シクシ且土地買入ノ爲メニ指定セラレタル金錢ハ縱令賣主ニ支拂ハレタルト否トナ問ハス又金錢ニ變更サルヘキ土地カ未タ買主ニ引渡サレサルト否トナ論セス當事者間ニ於テハ常ニ土地モ金錢ト看做サレ或ハ金錢モ土地ト看做サルナリ即チ財産ノ變更ヲ指定スルニハ別ニ其方法ニ制限ナシト雖モ今之ヲ大別シテ遺言狀ニ因ルモノト捺印證書ニ因ルモノトノ二種トスヘシ而シテ本章ノ講義ヲ左ノ數問ニ區分シ各問題ニ付右兩種ノ指定ヲ區別シテ説明セントス

- 一 如何ナル用語ヲ以テスレハ變更ヲ生スルニ足ルヤ
- 二 何時ヨリシテ變更カ其効ヲ生スルヤ
- 三 變更ノ効果ハ如何
- 四 變更ノ目的ノ一部又ハ全部カ滅失シタル時ハ其結果如何

#### 衡平法

右ノ區別ニ依リ請フ逐次解明セン

一 如何ナル用語ヲ以テスレハ變更ヲ生スルニ足ルヤ  
 變更ノ指定ハ必ス確定ノ意思ヲ表明スル語法ヲ以テスルコトヲ要ス若シ變更  
 セラルルト否トシ受託者ニ一任セルカ如キモノナラハ決シテ有効ナル變更ヲ  
 生スルコトナシ例セハ或ル金額ヲ以テ土地ヲ買フヘシ然ラサレハ確實ナル抵  
 當ヲ以テ之ヲ貸附ヘシト指定スル時ノ如キ右金額ハ依然動産ニシテ決シテ不  
 動産タル土地ト看做サルルコトナキナリ然レトモ右變更ノ指定ハ必スシモ明  
 言ヲ以テスルコトヲ要セス例セハ遺言狀若クハ捺印證書ニ記載シタル全文ノ  
 趣旨カ指定ノ金額ヲ土地ニ變更スルニアラサレハ之ヲ實行スル能ハサル場合  
 ノ如キハ特ニ變更ノ指定ナクトモ其變更ヲ生スルモノナリ

二 何時ヨリシテ變更カ效ヲ生スルヤ

本問題ニ付テハ遺言狀ヲ以テシタル時ハ遺言者ノ死亡ヲ以テ其效ヲ生シ捺印  
 證書其他生存間ノ契約ニ依ルモノハ其證書ノ交付ノ日ヲ以テ始マルナリ捺印  
 證書ヲ以テ指定セラレタル變更ハ別ニ格段ナル事情ナキ場合ニ何時ヨリ其效

ヲ生スヘキヤトノ問題ニ付テ「ギリヒス」對「リツケツト」ノ訴件ニ於テ裁判所カ與  
 ヘタル説明ハ頗ル有益ナルモノナリ該事件ニ於テハ贈與者カ其債主ノ利益ノ  
 爲メニ所有地ヲ受託者ニ贈與シテ之ヲ賣却セシメ賣代金ヲ以テ債主ニ償償セ  
 シメンカ爲メ而シテ若シ殘餘アラハ之ヲ自身若クハ遺產管理人(即チ死後動産  
 ヲ承繼スル人)ニ拂戻サシムルコトヲ命シタリ此場合ニ於テ裁判所ノ判決ニ依  
 レハ本案ノ指定ハ家督相續人ト遺產管理人トノ間ニ於テ十分ニ不動産ヨリ動  
 産ニスル變更ノ效ヲ生スルモノナリ而シテ其理由トスル所ハ主トシテ次ノ如  
 シ遺言狀ト捺印證書トハ大ニ混淆アリ遺言狀ハ遺言者ノ死亡ノ時ヨリ其效ヲ  
 生シ證書ハ交付ノ時ヨリ其效ヲ發スルヲ以テ若シ證書ノ設定者カ其不動産ニ  
 動産タルノ性質ヲ付與スルトキハ設定者ノ遺產管理人ト家督相續人トノ間ニ  
 於テハ其證書ノ交付ノ時ヨリ變更ノ效ヲ生スルカ故ニ設定者ノ死亡ノ際ニハ  
 該不動産ハ既ニ動産トナリタルモノナリ條理ニ於テハ遺言狀ノ場合モ證書ノ  
 場合ト異ナルコトナシト雖モ唯其適用ノ方法異ナルノミ何トナレハ證書ハ指  
 定者ノ生存中ニ財産ヲ變更シ遺言狀ハ指定者ノ死亡スルマテ之ヲ變更セサレ



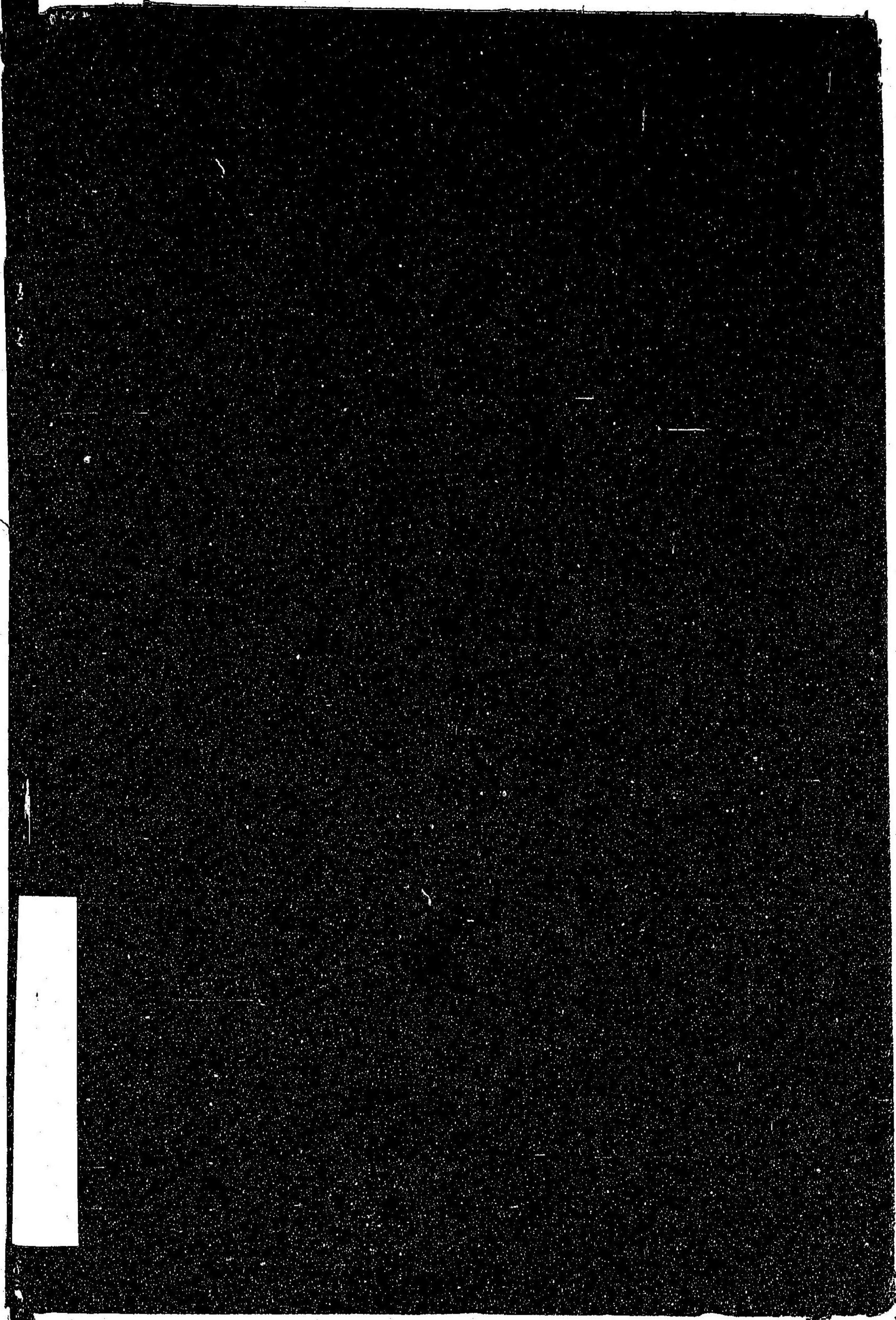
ハナリト

又「クラーク」對「フランク」ノ訴件ニ於テモ亦右ト同様ニ判決セリ同事件ノ事實ハ  
或人捺印證書ヲ以テ其所有地ニ付自身畢生間ノ用益ヲ設定シ其殘餘産ハ之ヲ  
受託者及ヒ其相續人ニ讓與シテ之ヲ賣拂ハシメ而シテ後其代金ヲ以テ信託者  
ノ指名スル或ル數名ノ人ノ中信託者ノ死去後ニ生殘リタル者ニ金若干ツ、ヲ  
支拂フコトヲ指命セリ然ルニ信託者死亡ノ際ニハ右指名セラレタル人ノ内半  
數ハ既ニ死亡シ他ノ半數ハ生存シタルヲ以テ右信託ノ目的ハ其半ヲ實行スヘ  
キコトトナレリ此場合ニ於テ信託者ノ生存中ハ其土地ヲ金錢ニ變更スヘキ必  
要ナキカ如シト雖モ右指定ノ趣旨ハ結局其土地ヲ金錢ニ變更セサレハ之ヲ實  
行スルコト能ハサルモノナルニヨリ若シ其變更カ此ノ如ク捺印證書ヲ以テ之  
ヲ指定セラレタル時ハ其證書ノ交付ノ時ヨリ直チニ變更ノ效ヲ生スト判決セ  
ラレタリ右ノ如ク捺印證書等ヲ以テシタル變更ノ指定ハ其證書ノ交付ヨリ效  
力ヲ生スト云フト雖モ此規則ヲ適用スルニ付キ最モ注意スヘキハ土地ヲ賣却  
スルノ指定ト土地ヲ質入スルノ指定トヲ差別スルコト是レナリ英國ノ不動産

質(モルゲーション)ハ債務者ヨリ其不動産ヲ條件付ニテ債權者ニ賣渡スト同様ニテ  
其不動産ノ所有名義及ヒ占有ハ全ク債權者ニ轉付セラレルヲ以テ今一ノ土地  
ヲ質入スル時ハ其效果負債償價ニ至ルマテハ恰モ其土地ヲ債權者ニ賣渡シタ  
ルニ同シ故ニ右ノ如ク不動産質入ノ指定アル場合ニ於テハ其不動産力變更サ  
レタルモノナリヤ否ヤニ付キ屢數問ヲ生スルコトアリ例セハ「ライト」對「ローズ」  
ノ訴件ニ於テ甲者ハ一ノ土地ヲ乙者ニ質入シ金若干ヲ借用シタリ然ルニ其契  
約ニ依レハ若シ甲者カ債務ヲ辨償セサル時乙者ハ其質地ヲ賣却スルヲ得ヘシ  
而シテ之ヲ賣却シタル時ハ其代金ヨリ債務ノ金額ヲ扣除シ尙ホ殘餘アレハ之  
ヲ甲者若クハ其遺産管理人(即チ死後動産承繼人)ニ還付スヘキ筈ナリキ其後甲  
者ハ債務ヲ辨償セスシテ死亡シタルニヨリ乙者ハ右質地ヲ賣却シタルニ其代  
金ノ額債務ヲ償ヒ而シテ尙ホ多額ヲ餘シタリ此場合ニ於テ右殘餘金ハ動産ト  
シテ遺産管理人ニ歸スヘキヤ將タ不動産トシテ家督相續人ニ歸スヘキヤトノ  
疑問生シタルニ前者ハ信託者ノ明言スル所ナレトモ裁判所ハ之ニ反シテ不動  
産ナリト判決シタリ今其理由ヲ抄譯スレハ若シ本件ノ場合ニ於テ質地カ質入

主ノ生存中ニ質取主ノ爲メニ賣却セラレタリシナラハ其代金ハ動産タルヘキ  
 カ故ニ遺産管理人ニ於テ當然之ヲ引繼クヘシ然レトモ本件ノ事實ノ如ク質入  
 主ノ死亡ノ際ニハ質地カ未タ賣却セラレサリシ時ハ家督相續人ニ於テ依然之  
 ヲ不動産トシテ相續シタリシカ故ニ今質入主ノ死後金錢ニ變更シタル後ト雖  
 モ尙ホ不動産ノ如ク看做シ乙者ニ對シ其還付ヲ求ムルコトヲ得ト云フニ在リ

14
570



1

14  
570

034388-000-1

14-570

衡平法

芹沢 孝太郎/述

M34?

BBL-0929



